

有価証券報告書

平成29年度

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

第149期

東京急行電鉄株式会社

E04090

目次

頁

表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	6
4. 関係会社の状況	8
5. 従業員の状況	11
第2 事業の状況	12
1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等	12
2. 事業等のリスク	15
3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	17
4. 経営上の重要な契約等	22
5. 研究開発活動	22
第3 設備の状況	23
1. 設備投資等の概要	23
2. 主要な設備の状況	23
3. 設備の新設、除却等の計画	32
第4 提出会社の状況	33
1. 株式等の状況	33
(1) 株式の総数等	33
(2) 新株予約権等の状況	33
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	33
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	33
(5) 所有者別状況	34
(6) 大株主の状況	34
(7) 議決権の状況	36
(8) 役員・従業員株式所有制度の内容	37
2. 自己株式の取得等の状況	38
3. 配当政策	40
4. 株価の推移	40
5. 役員の状況	41
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	46
第5 経理の状況	60
1. 連結財務諸表等	61
(1) 連結財務諸表	61
(2) その他	118
2. 財務諸表等	119
(1) 財務諸表	119
(2) 主な資産及び負債の内容	142
(3) その他	142
第6 提出会社の株式事務の概要	143
第7 提出会社の参考情報	145
1. 提出会社の親会社等の情報	145
2. その他の参考情報	145
第二部 提出会社の保証会社等の情報	145
〔監査報告書〕	

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月28日
【事業年度】	第149期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
【会社名】	東京急行電鉄株式会社
【英訳名】	TOKYU CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 高橋 和夫
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区南平台町5番6号
【電話番号】	(03) 3477-6168番
【事務連絡者氏名】	財務戦略室 主計部 連結IR課長 小田 克
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区南平台町5番6号
【電話番号】	(03) 3477-6168番
【事務連絡者氏名】	財務戦略室 主計部 連結IR課長 小田 克
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第145期	第146期	第147期	第148期	第149期
決算年月		平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
営業収益	百万円	1,083,070	1,067,094	1,091,455	1,117,351	1,138,612
経常利益	百万円	62,618	66,619	70,038	76,449	83,746
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	56,498	41,051	55,248	67,289	70,095
包括利益	百万円	65,852	64,847	50,635	73,673	78,591
純資産額	百万円	537,711	579,596	623,297	678,382	747,049
総資産額	百万円	2,021,794	2,002,532	2,092,546	2,148,605	2,264,636
1株当たり純資産額	円	407.08	442.86	470.29	1,034.77	1,146.46
1株当たり当期純利益金額	円	44.96	32.88	44.81	110.02	115.42
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	円	—	—	—	—	—
自己資本比率	%	25.3	27.5	27.6	29.2	30.8
自己資本利益率	%	11.4	7.7	9.8	11.2	10.6
株価収益率	倍	14.0	22.6	21.0	14.3	14.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	156,703	163,965	129,616	126,356	152,558
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	△106,129	△75,235	△121,606	△132,310	△145,378
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	△22,322	△103,064	△5,296	3,078	△7,892
現金及び現金同等物の期末残高	百万円	54,701	40,705	42,909	39,823	38,322
従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕	人	21,370 〔22,308〕	21,499 〔21,774〕	22,331 〔22,489〕	22,780 〔22,352〕	22,985 〔21,962〕

(注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

3. 当社は平成29年8月1日付で株式併合（普通株式2株を1株に併合）を実施しており、第148期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第145期	第146期	第147期	第148期	第149期
決算年月		平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
営業収益	百万円	293,747	275,793	282,659	262,528	269,326
経常利益	百万円	35,663	47,029	47,663	49,289	57,790
当期純利益	百万円	29,759	30,058	30,827	51,319	42,978
資本金	百万円	121,724	121,724	121,724	121,724	121,724
発行済株式総数	千株	1,263,525	1,249,739	1,249,739	1,249,739	624,869
純資産額	百万円	438,009	451,890	456,346	486,021	519,170
総資産額	百万円	1,593,532	1,560,794	1,588,541	1,642,259	1,729,363
1株当たり純資産額	円	348.00	362.56	371.37	800.10	854.18
1株当たり配当額 (内1株当たり中間 配当額)	円 (円)	7.50 (3.50)	8.00 (4.00)	8.50 (4.00)	9.00 (4.50)	19.00 (9.00)
1株当たり当期純利益 金額	円	23.66	24.05	24.97	83.80	70.74
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金 額	円	—	—	—	—	—
自己資本比率	%	27.5	29.0	28.7	29.6	30.0
自己資本利益率	%	7.0	6.8	6.8	10.9	8.6
株価収益率	倍	26.7	30.9	37.8	18.8	23.4
配当性向	%	31.7	33.3	34.0	21.5	26.9
従業員数 〔外、平均臨時雇用 者数〕	人	4,251 〔645〕	4,267 〔634〕	4,302 〔680〕	4,402 〔706〕	4,535 〔784〕

(注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

3. 当社は平成29年8月1日付で株式併合（普通株式2株を1株に併合）を実施しており、第148期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2 【沿革】

(1) 提出会社の沿革

年月日	事項
大正11. 9. 2	当社の前身、目黒蒲田電鉄(株)創立(資本金350万円)。
昭和3. 5. 5	目黒蒲田電鉄(株)は、田園都市(株)を合併、資本金1,325万円となる。
9. 10. 1	目黒蒲田電鉄(株)は、池上電気鉄道(株)を合併、資本金1,710万円となる。
12. 12. 1	目黒蒲田電鉄(株)は、目黒自動車(株)及び芝浦乗合自動車(株)を合併、資本金3,000万円となる。
14. 10. 1	目黒蒲田電鉄(株)は、東京横浜電鉄(株)を合併、資本金7,250万円となる。
14. 10. 16	目黒蒲田電鉄(株)は、商号を東京横浜電鉄(株)に変更。
17. 5. 1	東京横浜電鉄(株)は、京浜電気鉄道(株)及び小田急電鉄(株)を合併、商号を東京急行電鉄(株)に変更、資本金2億480万円となる。
18. 7. 1	大井町線、二子玉川園から溝ノ口まで乗入開始。
19. 5. 31	京王電気軌道(株)を合併。
23. 6. 1	会社再編成により、京王帝都電鉄(株)、小田急電鉄(株)、京浜急行電鉄(株)を設立し、事業の一部を譲渡。
24. 5. 16	東京証券取引所に上場。
28. 7. 22	一般貸切旅客自動車運送事業開始。
29. 9. 6	石油販売事業営業開始(四谷サービスステーション)。
37. 3. 20	多摩田園都市の最初の区画整理事業として、野川第一土地区画整理事業完成。
41. 4. 1	田園都市線、溝の口～長津田間開通。
42. 4. 28	こどもの国線、長津田～こどもの国間開通。
44. 5. 10	玉川線、渋谷～二子玉川園間及び砧線、二子玉川園～砧本村間の営業を廃止。
48. 10. 7	東急イン第1号店、上田東急イン(現:上田東急REIホテル)開業。
52. 4. 7	新玉川線、渋谷～二子玉川園間開通。
54. 8. 12	田園都市線、新玉川線、営団半蔵門線の全列車直通運転開始。 大井町～二子玉川園間を大井町線と名称変更。
59. 4. 9	田園都市線、つきみ野～中央林間間開通。
平成3. 10. 1	自動車事業を東急バス(株)(※1)に譲渡。
12. 8. 6	目蒲線(目黒～蒲田間)を目黒線(目黒～武蔵小杉間)と東急多摩川線(多摩川～蒲田間)に運行系統を変更。
12. 9. 26	目黒線、営団南北線(現 東京メトロ南北線)及び都営三田線との相互直通運転を開始。
13. 3. 31	石油販売事業の営業終了。
15. 2. 1	東急ワイ・エム・エムプロパティーズ(株)を吸収合併。
15. 3. 19	田園都市線、営団半蔵門線(現 東京メトロ半蔵門線)を介し、東武伊勢崎線・日光線との相互直通運転開始。
15. 4. 1	ホテル事業を(株)東急ホテルチェーンに営業譲渡。
16. 1. 30	東横線、終電をもって横浜～桜木町間の営業を終了。
16. 2. 1	東横線、みなとみらい線(横浜～元町・中華街間)との相互直通運転を開始。
18. 4. 1	渋谷開発(株)を吸収合併。
19. 9. 28	(株)東急ホテルチェーンを吸収合併。
22. 4. 1	(旧)東急セキュリティ(株)を吸収合併。
23. 4. 1	東急カード(株)(※1)のTOKYUポイント事業を会社分割により承継。
25. 3. 16	東横線、東京メトロ副都心線を介し、東武東上線及び西武有楽町線・池袋線との相互直通運転を開始。
27. 10. 1	エヌ・ティー・プロパティーズ(株)を吸収合併。
28. 10. 1	横浜金沢プロパティーズ(株)を吸収合併。

(2) 関係会社の沿革

年月日	事項
昭和15. 2. 5	相鉄運輸(株)設立。
21. 3. 18	白木金属工業(株)設立。
21. 6. 15	新日本興業(株) (現：(株)東急レクリエーション※1) 設立。
23. 5. 1	(株)東横百貨店 (現：(株)東急百貨店※1) 設立。当社から百貨店業を分離。
23. 8. 23	(株)東急横浜製作所 (旧：東急車輛製造(株)) 設立。
24. 5. 11	(株)東横百貨店 (現：(株)東急百貨店※1) は、東京証券取引所に上場 (平成17年3月28日上場廃止)。
24. 5. 16	新日本興業(株) (現：(株)東急レクリエーション※1) は、東京証券取引所に上場。
25. 1. 16	世紀建設工業(株) (現：世紀東急工業(株)※2) 設立。
28. 12. 17	東急不動産(株) (※2) 設立。当社から不動産販売業、砂利業、遊園業及び広告業を譲受ける。
31. 1. 31	東急観光(株)設立。
31. 4. 25	東急不動産(株) (※2) は、東京証券取引所市場第二部に上場 (昭和36年10月2日市場第一部に指定替え、平成25年9月26日上場廃止、昭和45年10月1日大阪証券取引所市場第一部に上場、平成19年11月6日上場廃止、昭和57年7月17日シンガポール証券取引所に上場、平成11年1月5日シンガポール証券取引所上場廃止)。
31. 10. 10	東横興業(株) (現：(株)東急ストア※1) 設立。
31. 12. 1	東急不動産(株) (※2) は、砂利業の営業権を東急砂利(株) (現：東急ジオックス(株)※1) に譲渡。
33. 11. 10	(株)丸善銀座屋 (現：(株)ながの東急百貨店※1) 設立。
34. 4. 11	伊東下田電気鉄道(株) (現：伊豆急行(株)※1) 設立。
34. 7. 6	東急車輛製造(株)は、東京証券取引所に上場 (昭和44年2月15日市場第一部に指定替え、昭和43年2月6日大阪証券取引所市場第一部に上場、平成14年9月25日両取引所上場廃止)。
34. 11. 11	東急不動産(株) (※2) は、建設部門を分離独立し (旧) 東急建設(株)設立。
36. 6. 1	東急不動産(株) (※2) は、広告業の資産、営業権を(株)東急エージェンシー (※1) に譲渡。
36. 10. 11	城南交通(株) (昭和42年11月27日に東急サービス(株)に商号変更) 設立。
38. 9. 3	(旧) 東急建設(株)は、東京証券取引所市場第二部に上場 (昭和42年8月1日市場第一部に指定替え、平成15年9月25日上場廃止、昭和44年4月1日大阪証券取引所市場第一部に上場、平成15年9月23日上場廃止)。
43. 5. 30	(株)東急ホテルチェーン設立。
45. 4. 8	東急不動産(株) (※2) は、(株)東急コミュニティー (※2) を設立。
45. 5. 1	白木金属工業(株)は、東京証券取引所市場第二部に上場 (昭和47年10月2日名古屋証券取引所市場第二部に上場、昭和48年8月1日両取引所市場第一部に指定替え)。
46. 5. 15	日本国内航空(株)と東亜航空(株)の合併で東亜国内航空(株)設立。
47. 3. 10	東急不動産(株) (※2) は、(株)エリアサービス (現：東急リパブル(株)※2) を設立。
47. 10. 2	(株)東急ホテルチェーンは、東京証券取引所市場第二部に上場 (昭和58年6月1日市場第一部に指定替え、平成13年7月11日上場廃止)。
47. 11. 1	伊豆急行(株) (※1) は、東京証券取引所市場第二部に上場 (平成16年9月27日上場廃止)。
48. 6. 1	東急不動産(株) (※2) は、設計監理部門を(株)東急設計コンサルタント (※1) に譲渡。
48. 9. 7	世紀建設(株) (現：世紀東急工業(株)※2) は、東京証券取引所市場第二部に上場 (昭和57年11月1日市場第一部に指定替え)。
51. 8. 28	東急不動産(株) (※2) は、住関連及びD・I・Y用品の販売を行う(株)東急ハンズを設立。
53. 1. 17	(株)ティー・エム・ディー (現：(株)東急モールズデベロップメント※1) 設立。
56. 7. 27	東急観光(株)は、東京証券取引所市場第二部に上場 (昭和62年6月1日市場第一部に指定替え、平成15年12月25日上場廃止)。
57. 12. 15	(株)東急ストア (※1) は、東京証券取引所市場第二部に上場 (昭和62年8月1日市場第一部に指定替え、平成20年6月25日上場廃止)。
58. 3. 2	東急有線テレビ(株) (現：イツ・コミュニケーションズ(株)※1) 設立。
60. 7. 18	相鉄運輸(株)は、東京証券取引所市場第二部に上場。
62. 3. 23	東亜国内航空(株)は、店頭市場に上場 (平成14年9月25日上場廃止)。

年月日	事項
平成3. 5. 21	東急バス㈱(※1)設立(同年10月1日、当社より自動車事業を譲受け営業開始)。
3. 8. 29	㈱ながの東急百貨店(※1)は、店頭市場(現:東京証券取引所JASDAQ(スタンダード))に上場。
10. 11. 20	㈱東急コミュニティー(※2)は、東京証券取引所市場第二部に上場(平成12年3月1日市場第一部に指定替え、平成25年9月26日上場廃止)。
11. 12. 17	東急リバブル㈱(※2)は、東京証券取引所市場第二部に上場(平成13年3月1日市場第一部に指定替え、平成25年9月26日上場廃止)。
13. 7. 17	株式交換により、㈱東急ホテルチェーンを完全子会社化。
14. 7. 1	東急サービス㈱は東急管財㈱と合併し、東急ファシリティサービス㈱(※1)に商号変更。
14. 10. 1	株式交換により、東急車輛製造㈱を完全子会社化。
14. 10. 2	㈱日本エアシステム(旧:東亜国内航空㈱)は、日本航空グループと経営統合。
15. 10. 1	(旧)東急建設㈱は、建設事業部門を会社分割し、(新)東急建設㈱(※2)に建設事業部門を承継。
15. 10. 1	(新)東急建設㈱(※2)は、東京証券取引所市場第一部に上場。
16. 1. 1	株式交換により、東急観光㈱を完全子会社化。
16. 3. 31	東急観光㈱の発行済株式の約85%をグループ外に譲渡。
16. 10. 1	株式交換により、伊豆急行㈱(※1)を完全子会社化。
16. 11. 11	公開買付けにより、㈱東急百貨店(※1)を連結子会社化。
17. 4. 1	株式交換により、㈱東急百貨店(※1)を完全子会社化。
17. 4. 1	伊豆急行㈱(※1)は、会社分割により不動産事業及び分譲地管理業等の付帯事業を伊豆急不動産㈱へ承継。
17. 4. 1	㈱東急ホテルチェーンは、会社分割によりホテル事業に係る諸部門を㈱東急ホテルマネジメント(※1(同日、㈱東急ホテルズに商号変更))へ承継。
17. 6. 21	東急ロジスティック㈱(旧:相鉄運輸㈱)の全株式をグループ外に譲渡。
18. 4. 18	ゴールドパック㈱は、ジャスダック証券取引所に上場。
20. 7. 1	株式交換により、㈱東急ストア(※1)を完全子会社化。
21. 10. 30	㈱札幌東急ストアの全株式をグループ外に譲渡。
23. 1. 24	ゴールドパック㈱の全株式をグループ外に譲渡。
23. 3. 18	TCプロパティーズ㈱(旧:(旧)東急建設㈱)は、清算結了。
23. 4. 8	シロキ工業㈱(旧:白木金属工業㈱)の発行済株式の約15%をグループ外に譲渡。
24. 3. 1	ベカメックス東急㈱(※1)の投資許可取得。
24. 4. 2	東急車輛製造㈱は、鉄道車両事業、立体駐車装置事業、特装自動車事業を会社分割後、グループ外に譲渡。
25. 10. 1	東急不動産㈱(※2)、㈱東急コミュニティー(※2)及び東急リバブル㈱(※2)は、共同株式移転の方法により3社の完全親会社となる東急不動産ホールディングス㈱(※2)を設立。
25. 10. 1	東急不動産ホールディングス㈱(※2)は、東京証券取引所市場第一部に上場。
27. 11. 2	当社を代表企業とする「東急前田豊通グループ」により、仙台国際空港㈱(※1)を設立。
28. 3. 17	公開買付け及び自己株式処分の引受により、㈱東急レクリエーション(※1)を連結子会社化。
28. 7. 1	仙台国際空港㈱(※1)は、空港運営事業を開始。
28. 10. 1	横浜金沢プロパティーズ㈱(旧:東急車輛製造㈱)を当社に吸収合併。

(注) 現連結子会社、現持分法適用関連会社及び現持分法適用非連結子会社以外の会社の社名は、当時の社名で記載しております。

※1 現:連結子会社

※2 現:持分法適用関連会社

3【事業の内容】

当社の企業グループは、当社、子会社132社及び関連会社25社で構成され、その営んでいる主要な事業内容は、次のとおりであります。なお、事業区分は、報告セグメントの区分と同一であります。

当連結会計年度より、経営管理の観点から当社の個別財務諸表において、「その他事業」の区分を新設しております。これに伴い、連結財務諸表の報告セグメント内においても、一部事業について区分の変更をしております。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」に記載しております。

当連結会計年度末現在の各事業に係る主な事業内容

(交通事業)

鉄軌道業では、当社が東京都西南部及び神奈川県において、東横線・目黒線・田園都市線・大井町線・池上線・東急多摩川線・こどもの国線の鉄道7路線と東京都世田谷区において、世田谷線の軌道1路線の計8路線、営業キロ104.9kmで旅客輸送を行っております。連結子会社では、伊豆急行(株)が伊豆半島で伊東～伊豆急下田間、営業キロ45.7kmで旅客輸送を行っているほか、上田電鉄(株)が長野県において上田～別所温泉間、営業キロ11.6kmで旅客輸送を行っております。

バス業では、連結子会社の東急バス(株)が東京都西南部及び神奈川県において、路線バスの運行を行っております。また、北海道では、連結子会社の(株)じょうてつが路線バスによる旅客輸送及び北海道一円を対象に貸切バス業を行っております。

空港運営事業では、連結子会社の仙台国際空港(株)が宮城県の仙台空港において、平成28年7月に滑走路の維持管理や着陸料等の収受を行う空港運営事業を開始しております。

鉄道車両関連事業では、連結子会社の東急テクノシステム(株)が、鉄道車両機器の設計製作並びに更新修理定期検査の請負、鉄道関係電気工事の設計施工等を行っております。

(不動産事業)

不動産販売業では、当社が多摩田園都市を中心に宅地を造成販売し、住宅等の建設販売を行うとともに、不動産コンサルティング業務を行っております。関連会社の東急不動産(株)では、首都圏・近畿圏及び地方中核都市等において、住宅地等の開発及び分譲並びに戸建住宅・中高層住宅・別荘等の建設及び分譲を行っております。また、連結子会社のベカメックス東急有限会社では、ベトナム・ビンズン省において、住宅地等の開発及び分譲を行っております。

不動産賃貸業では、当社が東京都・神奈川県等当社沿線を中心に、また、関連会社の東急不動産(株)が首都圏・近畿圏及び地方中核都市等においてオフィスビル等の不動産の賃貸を行っております。

不動産管理業では、連結子会社の東急ファシリティサービス(株)が、ビル等の設備管理・清掃その他総合的管理運営業務を行うビル管理業、関連会社の(株)東急コミュニティーが、同様のビル管理業及びマンションの事務管理・設備管理等総合的管理運営業務を行うマンション管理業を行っております。

不動産仲介業では、関連会社の東急リバブル(株)が関東地方を中心とする主要都市において、地域に密着したネットワークによる住宅等の斡旋・仲介及びそれらに付帯するサービスの提供・斡旋を行っております。

建設業では、関連会社の東急建設(株)が、住宅・事務所・庁舎等の建築工事及び道路・鉄道・土地造成等の土木工事を行っております。また、関連会社の世紀東急工業(株)が、土木工事・舗装工事・水利工事・建築工事を行っております。

(生活サービス事業)

百貨店業では、連結子会社の(株)東急百貨店が、東京都、神奈川県、北海道札幌市において百貨店業を行っております。また、連結子会社の(株)ながの東急百貨店が長野県において同様の事業を展開しております。

チェーンストア業では、連結子会社の(株)東急ストアが、首都圏を中心に食料品・衣料品・日用品等の生活用品を取り扱っております。

ショッピングセンター業では、連結子会社の(株)東急モールズデベロップメント及び(株)SHIBUYA109エンタテイメントが、渋谷を中心に都市型ファッションビルを展開するとともに、東急線沿線を中心に商業施設の運営を行っております。

クレジットカード業では、連結子会社の東急カード(株)が、クレジットカードの取扱いに関する業務を行っております。

ケーブルテレビ事業では、連結子会社のイツ・コミュニケーションズ(株)が、東京、川崎、横浜の当社沿線を中心に敷設された光ファイバーケーブル及び同軸ケーブルによるネットワークを通じ、ケーブルテレビサービス及びインターネット接続サービスを提供しております。

広告業では、連結子会社の(株)東急エージェンシーが、各種広告の代理業務を行っております。

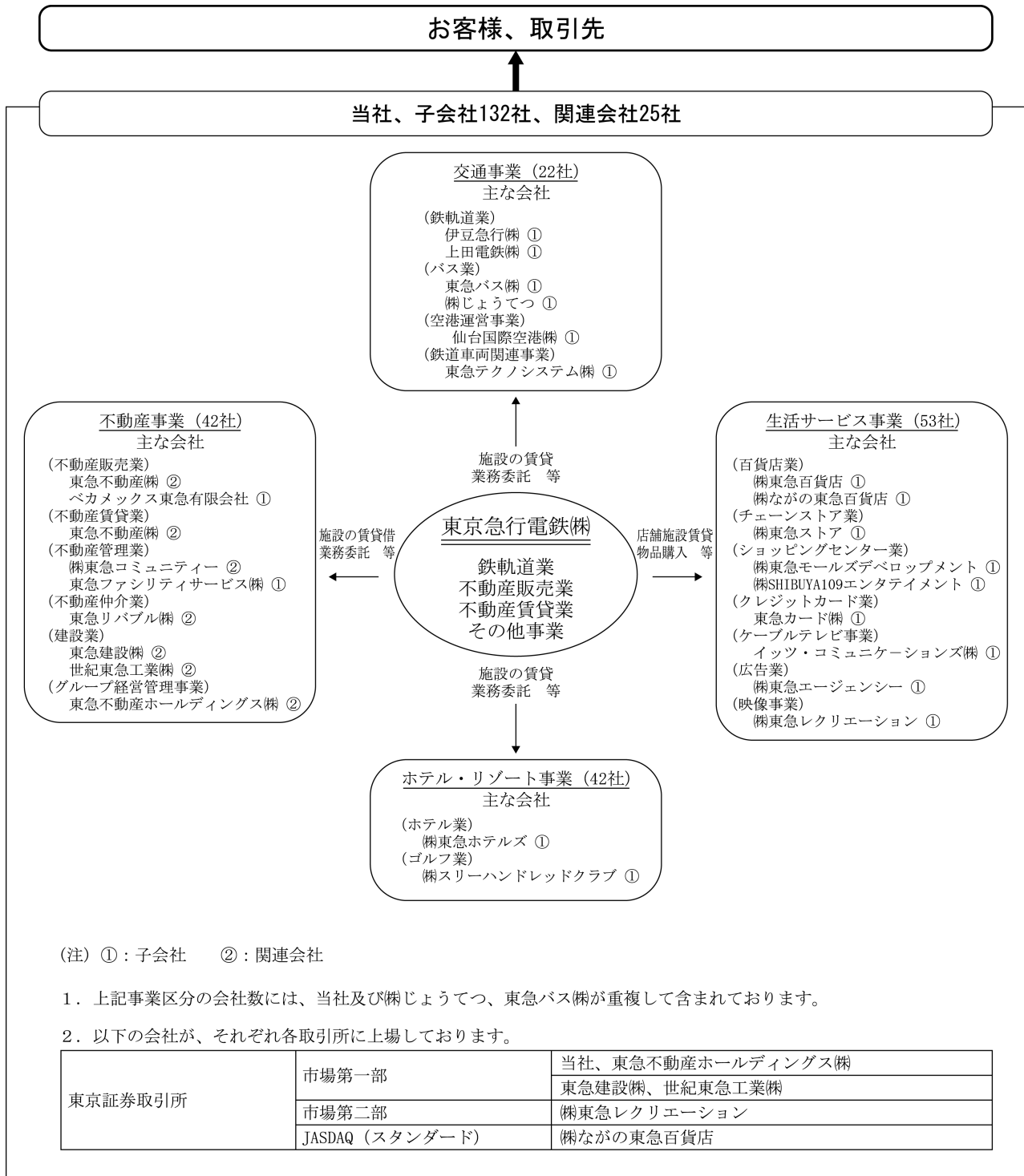
映像事業では、連結子会社の㈱東急レクリエーションが、全国各地にシネマコンプレックス（複合映画施設）を展開するとともに、映像関連イベントの運営・受託、直営映画館での広告プランニングを行っております。

（ホテル・リゾート事業）

ホテル業では、連結子会社の㈱東急ホテルズが、「東急ホテル」「エクセルホテル東急」「東急REIホテル」の3ブランド（当連結会計年度末現在直営33店舗）で運営を行っております。

ゴルフ業では、連結子会社の㈱スリーハンドレッドクラブ、㈱東急セブンハンドレッドクラブなど5社がゴルフ場の営業を行っております。

企業集団の状況について事業系統図を示すと次のとおりとなります。



4 【関係会社の状況】

平成30年3月31日現在

名称	住所	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業内容	議決権に対する所有割合 (%)	関係内容				
					役員の兼任等		資金 援助	主たる 営業上の取引	施設の 賃貸借
					当社 役員 (人)	当社 職員 (人)			
(連結子会社)									
伊豆急行(株)	静岡県伊東市	90	交通事業	100.0 (100.0)	2	4	有	無	有
上田電鉄(株)	長野県上田市	10	交通事業	100.0 (100.0)	0	4	無	無	無
(株)じょうてつ *1	北海道札幌市 白石区	200	交通事業 不動産事業	58.7	1	2	無	無	無
網走交通(株)	北海道網走市	50	交通事業	100.0	0	3	無	無	無
東急バス(株)	東京都目黒区	3,300	交通事業 不動産事業	100.0	2	3	無	当社が乗車券を 代売	有
仙台国際空港(株) *2	宮城県名取市	4,249	交通事業	43.0 (1.0)	2	2	無	無	無
(株)東急レールウェイサ ービス	東京都世田谷区	50	交通事業	100.0	1	5	有	当社は業務を委 託	有
東急テクノシステム(株)	神奈川県川崎市 中原区	480	交通事業	100.0 (100.0)	2	6	無	当社車両の保守 業務を委託	有
東急ファイナンスアン ドアカウンティング(株)	東京都渋谷区	100	交通事業	100.0	2	5	無	当社は財務・給 与計算処理業務 を委託	無
伊豆急ホールディング ス(株)	静岡県伊東市	100	交通事業	100.0	2	4	無	無	無
東急ファシリティサー ビス(株)	東京都世田谷区	100	不動産事業	100.0	2	9	無	当社の施設等の 管理業務を委託	有
(株)東急設計コンサル タント	東京都目黒区	100	不動産事業	70.0	1	3	無	当社は設計、工 事を発注	無
東急ジオックス(株)	東京都渋谷区	50	不動産事業	89.6	1	4	無	当社は物品等を 購入	有
(株)伊豆急コミュニテ ィー	静岡県伊東市	10	不動産事業	100.0 (100.0)	1	3	無	無	有
東急ウェルネス(株)	東京都渋谷区	100	不動産事業	100.0	1	4	無	無	有
C Tリアルティ有限会 社 *2	東京都中央区	3	不動産事業	[100.0] -	0	0	無	無	無
渋谷宮下町リアルティ (株)	東京都渋谷区	100	不動産事業	51.0	0	0	無	当社は業務を受 託	無
渋谷スクランブルスク エア(株)	東京都渋谷区	10	不動産事業	64.1	2	3	無	当社は業務を委 託	有
ヤンチェップ サン シティ(株)	オーストラリア パース	55,200 千オーストラ リアドル	不動産事業	100.0	1	2	無	当社は業務を委 託	無
セント アンドリュー ス プライベート エ ステート(株)	オーストラリア パース	16,000 千オーストラ リアドル	不動産事業	100.0	1	2	無	無	無
ベカメックス東急有限 会社	ベトナム ビンズン省	8,600,000 百万ベトナム ドン	不動産事業	65.0	1	4	無	無	無
(株)東急百貨店 *4	東京都渋谷区	100	生活サービ ス事業	100.0	3	5	有	当社は業務を委 託	有
(株)ながの東急百貨店 *1	長野県長野市	2,368	生活サービ ス事業	57.9 (57.9)	1	1	無	無	無
(株)北長野ショッピング センター	長野県長野市	100	生活サービ ス事業	100.0 (100.0)	0	0	無	無	無
(株)セントラルフーズ	東京都品川区	100	生活サービ ス事業	100.0 (100.0)	0	2	無	無	無

名称	住所	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業内容	議決権に 対する所有割 合 (%)	関係内容				
					役員の兼任等		資金 援助	主たる 営業上の取引	施設の 賃貸借
					当社 役員 (人)	当社 職員 (人)			
㈱東急ストア *4	東京都目黒区	100	生活サービス 事業	100.0	4	1	有	無	有
㈱東急モールズデベ ロップメント	東京都渋谷区	1,550	生活サービス 事業	100.0	1	8	無	当社は業務を委 託	有
㈱SHIBUYA10 9エンタテイメント	東京都渋谷区	326	生活サービス 事業	100.0	0	4	無	無	有
東急カード㈱	東京都世田谷区	300	生活サービス 事業	100.0	2	3	無	当社は業務を委 託	有
㈱東急ステーションリ テールサービス	東京都目黒区	64	生活サービス 事業	100.0	0	4	無	無	有
イツ・コミュニケー ションズ㈱	東京都渋谷区	5,294	生活サービス 事業	100.0	4	6	無	当社は業務を委 託	有
㈱東急エージェンシー	東京都港区	100	生活サービス 事業	98.4 (12.0)	4	3	無	当社は業務を委 託	有
㈱東急エージェンシー プロミックス	東京都港区	50	生活サービス 事業	100.0 (100.0)	0	0	無	無	無
㈱東急レクリエーショ ン *1	東京都渋谷区	7,028	生活サービス 事業	50.4 (1.2)	3	1	無	無	有
東急保険コンサルティ ング㈱	東京都渋谷区	405	生活サービス 事業	60.0 (5.0)	0	5	無	当社は業務を委 託	有
東急セキュリティ㈱	東京都世田谷区	100	生活サービス 事業	100.0	2	6	無	当社は業務を委 託	有
㈱東急パワーサブライ	東京都世田谷区	2,350	生活サービス 事業	66.7	2	4	有	当社は電力を購 入	有
㈱東急ホテルズ	東京都渋谷区	100	ホテル・リゾー ト事業	100.0	3	5	無	無	有
㈱スリーハンドレッド クラブ	東京都渋谷区	79	ホテル・リゾー ト事業	98.5	5	1	無	無	無
東急リネン・サブライ ㈱	東京都品川区	100	ホテル・リゾー ト事業	100.0	1	4	有	当社の施設等の リネン業務を委 託	有
㈱ティー・エイチ・ブ ロパティーズ	東京都渋谷区	100	ホテル・リゾー ト事業	100.0	0	4	無	当社は業務を受 託	無
合同会社ニュー・パー スペクティブ・ワン *2	東京都中央区	1	ホテル・リゾー ト事業	[100.0] -	0	0	無	無	無
その他 87社									

名称	住所	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業内容	議決権に対する所有割合 (%)	関係内容				
					役員の兼任等		資金援助	主たる営業上の取引	施設の賃貸借
					当社役員(人)	当社職員(人)			
(持分法適用関連会社) 東急不動産ホールディングス㈱ *1 *3	東京都港区	60,000	不動産事業	[0.1] 16.1 (0.2)	2	0	無	無	無
東急不動産㈱ *3	東京都港区	57,551	不動産事業	[100.0] —	1	0	無	無	有
㈱日本住情報交流センター	神奈川県横浜市都筑区	98	不動産事業	35.2	0	3	無	当社は業務を受託	無
㈱東急コミュニティー *3	東京都世田谷区	1,653	不動産事業	[100.0] —	1	0	無	当社は施設等の管理業務を委託	有
東急リバブル㈱ *3	東京都渋谷区	1,396	不動産事業	[100.0] —	1	0	無	当社は不動産の販売を委託	有
東急建設㈱ *1 *3	東京都渋谷区	16,354	不動産事業	<7.1> 15.1 (0.6)	1	0	無	当社は工事を発注	有
東急リニューアル㈱ *3	東京都渋谷区	100	不動産事業	[90.5] 9.5 (9.5)	0	1	無	当社は工事を発注	有
世紀東急工業㈱ *1 *3	東京都港区	2,000	不動産事業	[22.2] 4.0 (0.2)	0	0	無	当社は工事を発注	有
横浜ケーブルビジョン㈱	神奈川県横浜市保土ヶ谷区	320	生活サービス事業	49.0	0	4	無	無	無
YOUテレビ㈱ *3	神奈川県横浜市鶴見区	2,726	生活サービス事業	17.6 (17.6)	0	1	無	無	無
その他 10社									

- (注) 1. 事業内容の欄には、セグメントの名称を記載しております。
2. 特定子会社に該当するものは、ベカメックス東急有限会社であります。
3. 議決権に対する所有割合の()内は、間接所有割合で内数、[]内は、緊密な者又は同意している者の所有割合で外数、< >内は、信託拠出分で外数であります。
4. *1は、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社であります。
5. *2は、持分は100分の50以下ではありますが、実質的に支配しているため、子会社としたものであります。
6. *3は、持分は100分の20未満ではありますが、実質的な影響力を持っているため、関連会社としたものであります。
7. *4は、営業収益(連結会社相互間の内部営業収益を除く)の連結営業収益に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

会社名	営業収益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	純資産額 (百万円)	総資産額 (百万円)
㈱東急百貨店	194,212	1,051	65	22,360	107,225
㈱東急ストア	214,032	2,777	2,293	18,161	68,186

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数 (人)
交通事業	7,596 [1,100]
不動産事業	2,568 [6,209]
生活サービス事業	8,607 [11,917]
ホテル・リゾート事業	3,338 [2,419]
全社 (共通)	876 [317]
合計	22,985 [21,962]

- (注) 1. 従業員数は就業人員数 (当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む) であり、臨時従業員数は、〔 〕内に当連結会計年度の平均人員を外数で記載しております。
2. 全社 (共通) として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

当連結会計年度より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」に記載しております。

平成30年3月31日現在

従業員数 (人)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与 (円)
4,535 [784]	40歳 6か月	18年 5か月	7,460,012

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数 (人)
交通事業	3,230 [218]
不動産事業	407 [163]
その他事業	95 [108]
全社 (共通)	803 [295]
合計	4,535 [784]

- (注) 1. 従業員数は就業人員数 (当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む) であり、臨時従業員数は、〔 〕内に当事業年度の平均人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 上記の従業員数には、出向者 (社員、嘱託、契約社員等) 706名を含んでおりません。
4. 全社 (共通) として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合の状況は、次のとおりであり、労使間において特記すべき事項はありません。

平成30年3月31日現在

名称	組合員数 (人)	上部組織
東急労働組合	4,048	日本私鉄労働組合総連合会
全関東単一労働組合東急分会	1	全関東単一労働組合

なお、連結子会社においても労使間において特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「美しい時代へー東急グループ」をグループスローガンとして掲げるとともに、「グループを共につくり支える志を持ち、共有する理念」として、以下のとおり「グループ理念」を定めております。

(グループ理念)

「存在理念」：美しい生活環境を創造し、調和ある社会と、一人ひとりの幸せを追求する。

「経営理念」：自立と共創により、総合力を高め、信頼され愛されるブランドを確立する。

○市場の期待に応え、新たな期待を創造する。

○自然環境との融和をめざした経営を行う。

○世界を視野に入れ、経営を革新する。

○個性を尊重し、人を活かす。

もって、企業の社会的責任を全うする。

「行動理念」：自己の責任を果たし、互いに高めあい、グローバルな意識で自らを革新する。

(2) 中長期的な経営戦略、目標とする経営指標及び会社の対処すべき課題

(長期ビジョン・長期経営戦略)

当社および連結子会社では「安全」をすべての事業の根幹と位置づけ、安全の確保が最大かつ最重要の責務であり、不変の経営課題であると認識しております。また人口動態・ライフスタイルの変化についても、長期的・多面的に取り組むことにより、「選ばれる沿線」を実現していかなくてはなりません。

当社は2012年に、当社の創業100周年にあたる2022年にありたい姿として、「日本一住みたい沿線 東急沿線」「日本一訪れたい街 渋谷」「日本一働きたい街 二子玉川」の3つの日本一を実現することで、「東急沿線が“選ばれる沿線”であり続ける」、あわせて「“ひとつの東急”として強い企業集団を形成する」を掲げた「長期ビジョン」を策定いたしました。

さらに2015年には、「長期ビジョン」の実現及び持続的な成長に向けた全体戦略として、「長期経営戦略」を策定いたしました。「長期経営戦略」は、長期ビジョンと実行計画である中期経営計画との間に位置付けるもので、「健全性の回復から、規模の拡大・効率の向上へ」を長期的方向性として定めるとともに、全体戦略として「沿線のバリューアップ」「お客さまを軸とした東急シェアの拡大」「沿線外展開・新規事業展開」を掲げております。

(中期3か年経営計画“Make the Sustainable Growth”)

当社および連結子会社は、将来の大きな飛躍に向け、既存事業・プロジェクトを強化するとともに、当社の強みを生かすことのできる新規領域にも積極的に進出することにより、持続的な成長を目指すことを方針に据え、2018年度を初年度とする中期3か年経営計画「Make the Sustainable Growth」を策定いたしました。

この経営計画につきましては、“Make the Sustainable Growth”（持続可能な成長を目指して）というスローガンを定め、サステナブルな「街づくり」「企業づくり」「人づくり」の、「3つのサステナブル」の基本方針のもと、具体的には次の5つの重点施策を実施してまいります。

(重点施策)

1) 「安全」「安心」「快適」のたゆまぬ追求（基幹たる鉄道事業の強靱化）

安全・安定輸送を実現するため、事故の未然防止や早期復旧の体制を強化するとともに、ホームドア設置や車両新造などのハード施策、情報配信や分散乗車の推進などのソフト施策により、遅延や混雑の低減・解消を図ってまいります。

2) 世界のSHIBUYAへ（“エンタテインメントシティSHIBUYA”の実現）

渋谷ストリーム、渋谷スクランブルスクエア東棟などの大規模再開発を確実に推進・開業させるとともに、エリアブランディングの取り組みにより、魅力あふれる渋谷を実現してまいります。また、広域渋谷圏において事業機会を積極的に獲得することで収益の拡大を目指してまいります。

3) 沿線価値・生活価値の螺旋的向上（グループ各事業の総合力発揮）

① 沿線開発の推進

南町田グランベリーパークなど、地元・行政等と連携した総合開発により、沿線価値のさらなる向上を図るとともに、郊外のリモデルにより多様な世代が暮らすバランスのとれた沿線を実現してまいります。

② リテール事業の再構築

業態集約・構造改革の推進、横串機能の強化による効率性・収益性向上に取り組むとともに、鉄道事業、不動産事業などとのさらなる連携により、沿線価値向上、沿線人口の増加に寄与してまいります。

③ ICT・メディア事業のサービス拡充

「暮らしのIoT」などの「家ナカサービス」や、スマートフォン向けクレジット決済ソリューションなどの「街なかの店舗・サービス」を拡充させることで顧客接点の強化を進めてまいります。

4) 戦略的アライアンスによる事業拡大（グループ内外との共創）

連結およびグループ各社、さらにはグループ外との連携により、当社沿線のみならず、国内拠点エリア、アジア各都市への事業拡大を推進してまいります。

① 交流人口の取り込み

最適なパートナーとの連携により、東急ホテルズの新規出店や空港運営事業拡大を図るとともに、観光商材発掘と商品化を進め、拠点エリアの観光振興と交流人口の取り込みを進めてまいります。

② 海外展開

進出済みのベトナム、タイ、オーストラリアを中心に新たな事業機会を獲得しながら、バランスのとれたポートフォリオを実現してまいります。

③ 新たなビジネス分野、ビジネスモデルの探索

新時代のまちづくりを目指し、沿線をはじめとする既存市街地におけるライフスタイル、ワークスタイルをより豊かなものにしていくために、新たなテクノロジーを活用した事業を創出してまいります。

5) ワークスタイル・イノベーションの進化（東急版「働き方改革」の展開）

働きがいがある仕事と働きやすい環境の整備、生産性向上とイノベーション創出により、「日本一働き続けたい会社」を実現するとともに、自ら実践した働き方改革を社会へも展開してまいります。

（目標とする経営指標）

中期3か年経営計画「Make the Sustainable Growth」のもと、当社が経営上の目標の達成状況を判断するための指標について、以下のとおり設定しております。

○収益性指標として、「東急EBITDA」及び「営業利益」を採用しております。

東急EBITDAは、大規模工事の竣工等による営業利益の変動を補正したうえで、事業スキームの多様化を反映し、当社の稼ぐ力をより正確に表す指標として採用しております。

なお、東急EBITDAの算出方法は、以下のとおりであります。

東急EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋固定資産除却費＋のれん償却費＋受取利息配当＋持分法投資損益

○健全性指標として、「有利子負債（※）／東急EBITDA倍率」を採用しております。

○効率性指標（参考）として、「ROE」を採用しております。

※ 有利子負債：借入金、社債、コマーシャル・ペーパーの合計

具体的な数値目標については、以下のとおりであります。

	2018年度	2019年度	2020年度	2022年度（参考）
東急EBITDA	1,750億円	1,845億円	2,064億円	2,200億円
営業利益	770億円	780億円	970億円	1,100億円
有利子負債／ 東急EBITDA倍率	6.2倍	6.1倍	5.3倍	5倍台
ROE（参考）	7.2%	7.2%	8.4%	9%台

(CSR経営とコーポレートガバナンスの充実)

当社および連結子会社は、かねてより企業市民として、その社会的責任の重要性を認識し、グループ全体でコンプライアンスに取り組んでまいりました。また、創業以来「街づくり」などにおいて、事業を通じて社会的な課題を解決するとともに、企業の重要な使命として、教育、文化、環境面での社会貢献活動を、長年にわたり幅広く展開してまいりました。今後も時代の変化に即してCSR活動を推進し、さまざまなステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションをより一層緊密にするとともに、経営の透明性、業務の適正性を向上させるべく実効的なコーポレートガバナンスを図ってまいります。

(ダイバーシティマネジメント・健康経営の推進)

当社および連結子会社は、中期3か年経営計画の重点施策に「ワークスタイル・イノベーションの進化」を掲げ、「2020年度までに女性管理職40名(当社)」「健康経営の定着による従業員が健康に就業できる会社」を目標としたほか、働く「時間」「場所」の柔軟化、取締役会等における取り組み状況の報告など、「制度」「風土」「マインド」の観点から、女性活躍を含むダイバーシティマネジメント・健康経営を推進しております。2017年度には、役員及び全管理職マネジメントセミナーにおいて、経営トップから「東急電鉄(連結)ダイバーシティマネジメント宣言」を発信し、多様な人材がその能力を最大限発揮することで新たな価値を創造することを目指してまいります。また、健康経営を継続的に推進することで、従業員が健康で生き生きと活躍できる環境づくりを図ってまいります。

(3) 株式会社の支配に関する基本方針

当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

① 当社の財務及び事業の基本的方針

当社は、2000年4月、「21世紀においても持続的に成長する東急グループ」を目指して「東急グループ経営方針」を策定し、グループ再編を積極的に進めるとともに、財務的な課題の克服に努めてまいりました。次いで2005年4月より成長戦略に軸足を移し、持続的成長の基盤確立に努め、2018年度からは、「サステナブルな「街づくり」「企業づくり」「人づくり」」を基本方針とする中期3か年経営計画に取り組んでおります。

当該計画は、渋谷など大型開発プロジェクトを確実に竣工・開業し、利益貢献を開始させるとともに、長期的な視点に立ち、既存事業・プロジェクトを強化するとともに、当社の強みを生かすことのできる新規領域にも積極的に進出することにより、持続的な成長を目指すことを目的としております。

このように長期的な視点に立った経営計画を推進し、当社が企業価値・株主の共同の利益を保全・確保し向上させていくためには、以下の各項目を実行することが不可欠と考えており、より一層これらの実現に努めてまいります。

- 1) 当社の鉄道事業は極めて公共性の高い事業領域に属しており、お客さまの安全確保を第一義とした全社的推進体制を確保すること
- 2) 安全性および利便性の向上を目指した中長期的な投資を継続的に行い、それを可能とする経営の安定性を確保すること
- 3) 長期的な視点に立ち、沿線開発と不動産事業の更なる推進を継続するとともに、広域の移動を促進、街や地域を活性化させるべく、交通・リテール・生活サービスなどグループの各事業が一体的に展開すること
- 4) 子会社の少数株主の利益を損なわないように配慮しつつ、グループの各事業を全体最適の観点から一元的にマネジメントすることができるよう、当社が強力なグループガバナンスを発揮すること
- 5) 株主の皆さま、お客さま、沿線住民の方々、行政機関、関係事業者、債権者、そして従業員やその家族といった事業にとって重要なステークホルダー全般との信頼関係を維持向上させること

② 当社の支配に影響を与える株式の大量取得行為について

当社の株式は上場されており、当社株式の大量取得を目的とする買付であっても、それが当社の企業価値・株主の共同の利益に資すると判断される限り否定されるべきものではありません。また、株式会社の支配権の移転を伴う買収提案について対抗措置をとるべきとの判断には、最終的には合理的手続きを経て確定される株主全体の意思が反映されるべきものと考えております。

しかしながら、株式の大量取得行為の中にはその目的・手法などから見て、企業価値・株主の共同の利益に対して明白な侵害をもたらすもの、例えば短期的な利益追求を目的とすることなどにより鉄道事業の安全確保に悪影響を及ぼす可能性があるもの、また、買収を二段階で行い、最初の買付に応じなければ不利益になる、あるいはそのような危惧を抱かせる状況を作り出し、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの等、不適切な方法による、あるいは不適切な者による企業買収の存在は否定できません。また、株式の大量取得行為の提案がなされた場合において、これの是非を判断する十分な情報や代替案を株主の皆さまが持ち合わせていないにも関わらず、そのまま買収が行われてしまう場合もあり得ます。

当社事業にとって重要なステークホルダーの利益を考慮しつつ、このような買収から企業価値・株主の共同の利益を守り、これらに資するよう行動することは、当社の経営を負託された者として当然の責務であると認識しております。

現時点において、当社は具体的にこのような買収の脅威にさらされているとの認識はありませんが、当社株式の取引や株主の異動の状況を常にチェックするとともに、当社株式を大量に取得しようとする者が出現した場合に、判断の客観性を担保しつつ、企業価値・株主の共同の利益を保全・確保および向上させるために必要な措置が取れるよう、社内における体制を整え、役割分担や行うべき対応を明確にしております。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクには、次のようなものがあります。なお、当社グループ（当社及び連結子会社）は、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。なお、以下の記載は、当社グループの事業等のリスクをすべて網羅することを意図したものではありませんことにご留意下さい。

(1) 自然災害

当社グループは、大規模地震や台風等の自然災害の発生を想定したさまざまな施策を講じておりますが、大規模な自然災害が発生し、人的被害や事業の中断等が生じた場合には、当社グループの業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 事故等

当社グループは、事故、テロ等の不法行為による災害、設備や情報システムの故障、食品、建設工事等の品質問題、その他の理由によるトラブルの発生を想定したさまざまな施策を講じておりますが、重大な事故等が発生し、人的被害や事業の中断等が生じた場合には、当社グループの業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(3) コンプライアンス

当社グループは、鉄軌道事業、不動産事業をはじめとする各種事業において、関係法令を遵守し、企業倫理に従って事業を行っておりますが、これらに反する行為が発生し、社会的信頼を損なった場合には、お客さまや取引先の離反等により、当社グループの業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(4) 経営環境変化

① 法的規制

当社グループは、鉄軌道事業、不動産事業をはじめとする各種事業において、鉄道事業法、建築基準法等の法令・規則等の適用を受けておりますが、これらの法的規制が変更された場合には、規制を遵守するための費用の増加や活動の制限により、当社グループの業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

② 経済情勢

当社グループは、当社鉄道沿線地域に経営資源が集中しており、同地域の消費動向の悪化、人口の減少、人口動態の変化（少子高齢化）等が起こった場合には、収益が減少し、当社グループの業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループは、「中期3か年経営計画」を策定し、各種施策を実施しておりますが、経済情勢の変化等によって、これらの計画が予定通り進捗しない場合や、想定した収益や期待した効果を生まない場合があり、当社グループの業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 地価下落

当社グループは、事業遂行上必要な多くの不動産（販売用及び事業用）を保有しており、不動産市況の低迷その他の理由に起因して不動産価格が下落した場合には、収益の減少や評価損、売却損の計上により、当社グループの業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

④ 株価下落

当社グループは、株式等の投資有価証券を保有しており、企業年金資産、退職給付信託等においても多くの株式・債券等を保有しており、株式・債券市況の低迷や投資先の自己資本の悪化等が生じた場合には、評価損や売却損の計上により、当社グループの業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 金利上昇

当社グループは、これまで鉄軌道事業をはじめとする各事業の必要資金の多くを、社債や金融機関からの借入により調達しており、有利子負債（※）は総資産に比して高い水準にあるため、固定金利による調達や有利子負債の抑制を行っていますが、市場金利が上昇した場合や、格付機関が当社の格付けを引き下げた場合には、相対的に金利負担が重くなったり、資金調達の条件が悪化したりすることにより、当社グループの業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑥ 国際情勢

当社グループは、国内のみならずベトナム等の海外においても事業活動を行っており、紛争又は戦争、テロ事件、伝染病の流行などの国際情勢の変化が生じた場合には、当社グループの業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、為替相場に変動があった場合には、当社グループの円貨での業績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

※ 有利子負債：借入金、社債、コマーシャル・ペーパーの合計

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(業績等の概要)

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響により、先行きは不透明な状況で推移したものの、政府・日銀による各種政策の効果により、企業収益や雇用情勢は改善し、個人消費も持ち直しの動きが続くなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

当連結会計年度の営業収益は、当社の不動産販売業が堅調に推移したことなどにより、1兆1,386億1千2百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益は、829億1千8百万円（同6.3%増）となりました。経常利益は、支払利息の減少などにより、837億4千6百万円（同9.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産売却益が増加したことなどにより、700億9千5百万円（同4.2%増）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであり、各セグメントの営業収益は、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含んで記載しております。なお、各セグメントの営業利益をセグメント利益としております。

また、当連結会計年度より、一部事業について報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(交通事業)

2017年11月15日に発生いたしました田園都市線での架線不具合をはじめ、当社起因による度重なる輸送障害によりご迷惑、ご心配をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。今後の対策として、地下区間の重要設備の点検方法を見直すなど、安全・安定輸送の確保に向けた取り組みを実施してまいります。

ホーム上の安全対策につきましては、2020年までに東横線・田園都市線・大井町線全64駅にホームドアを設置する計画を前倒し、2019年度にホームドア・センサー付き固定式ホーム柵の整備率が業界トップとなる100%を目指しております。2017年度は田園都市線三軒茶屋駅など13駅でホームドアの利用を開始し、人身傷害件数は2014年度に比べ約3分の1に減少するなど、安全・安定輸送の確保に大きく寄与いたしました。

利便性・快適性向上の面では、2017年11月から2018年2月にかけて大井町線の急行車両を6両編成から7両編成に順次変更し、輸送力の増強をいたしました。また、2018年3月にはさらなる混雑緩和や利便性の向上を目指し、田園都市線など5路線でダイヤ改正を実施したほか、新型車両として田園都市線に2020系を、大井町線に6020系を導入いたしました。大井町線では2018年冬に平日夜間下り方面への有料座席指定サービス車両の運用を開始する予定です。

当社の鉄軌道業における輸送人員は、前連結会計年度に比べて、沿線人口の増加などにより、定期で1.7%、定期外で0.8%増加し、全体でも1.3%の増加となりました。

連結子会社の輸送人員は、伊豆急行(株)で0.3%減少いたしました。

バス業では、東急バス(株)の輸送人員が0.3%増加いたしました。

交通事業全体の営業収益は、当社の鉄軌道業において、輸送人員が増加したことなどにより、2,115億5千7百万円(同2.0%増)、営業利益は、290億2百万円(同8.6%増)となりました。

(当社の鉄軌道業の営業成績)

種別	単位	第148期	第149期
		28. 4. 1～29. 3. 31	29. 4. 1～30. 3. 31
営業日数	日	365	365
営業キロ程	キロ	104.9	104.9
客車走行キロ	千キロ	148,372	149,150
輸送人員	定期外	千人	464,259
	定期	千人	698,764
	計	千人	1,163,023
旅客運輸収入	定期外	百万円	75,834
	定期	百万円	62,787
	計	百万円	138,621
運輸雑収	百万円	14,199	14,614
収入合計	百万円	152,820	154,853
一日平均収入	百万円	419	424
乗車効率	%	51.6	51.6

(注) 乗車効率の算出方法
$$\text{乗車効率} = \frac{\text{輸送人員}}{\text{客車走行キロ}} \times \frac{\text{平均乗車キロ}}{\text{平均定員}} \times 100$$

(不動産事業)

不動産事業では、「東急多摩田園都市」の開発をはじめとする「街づくり」を事業活動の中心におき、さまざまな領域での不動産事業を総合的に展開しております。

2018年9月開業予定の、「渋谷ストリーム(SHIBUYA STREAM)」においてはオフィス、ホテル、商業施設におけるすべての賃貸区画について入居テナントが内定いたしました。なお、全てのオフィス区画にはGoogle合同会社の本社機能が移転入居いたします。また、2019年度に東棟が開業予定の「渋谷駅街区開発計画」の施設名称を「渋谷スクランブルスクエア(SHIBUYA SCRAMBLE SQUARE)」に決定し、オフィス及び商業施設のリーシングも順調に進んでおります。

町田市と当社が田園都市線南町田駅周辺において推進している「南町田拠点創出まちづくりプロジェクト」につきましては、鶴間公園及び商業施設を含むまち名称を「南町田グランベリーパーク」に決定し、2019年秋のまちびらきを目指して順調に取り組んでおります。

このほか、東急線駅構内・高架下・駅ビルの店舗開発及びリニューアルの推進についても積極的に実施しており、目黒線武蔵小山駅構内では2017年9月に「エトモ武蔵小山」がリニューアルオープンしたほか、2018年3月には池上線五反田駅から大崎広小路駅の高架下に新たに5つの店舗を開業いたしました。また、田園都市線中央林間駅前にも装いを新たに「中央林間東急スクエア」をオープンし、大和市立中央林間図書館や子育て支援施設と連携し、地域の皆さまのライフスタイルを支える新たな街のコミュニティ拠点を創出いたしました。

不動産事業全体の営業収益は、当社の不動産販売業において、物件の販売収入が増加したことなどにより、1,825億7千4百万円(同7.3%増)、営業利益は、323億5千7百万円(同5.8%増)となりました。

(生活サービス事業)

当社は、生活サービス事業を街の生活基盤として沿線価値の向上に寄与するものと位置づけるとともに、収益力の向上に取り組んでまいりました。同事業は、魅力ある施設づくりに加えて、お客さまの期待を上回る商品やサービスの提供に努めるとともに、交通事業、不動産事業をはじめとする各事業との相乗効果を発揮するため、グループ間連携をさらに促進しております。

百貨店業の㈱東急百貨店では、吉祥寺店で進めてきたリニューアルが2018年5月にグランドオープンを迎えたほか、「東急フードショースライス」を2017年12月に目黒駅、自由が丘駅にオープン、チェーンストア業の㈱東急ストアでは2017年4月に「東急ストアフードステーション 渋谷キャスト店」をオープンいたしました。

ショッピングセンター業の㈱東急モールズデベロップメントでは、2017年11月に「クイーンズスクエア横浜[アット!]」と「クイーンズイースト」を統合し、「みなとみらい東急スクエア」を開業、「SHIZUOKA109」を「静岡東急スクエア」にリニューアルいたしました。

ショッピングセンター業の㈱SHIBUYA109エンタテイメントでは、エンタテイメントとファッションを融合させるポップアップストア区画「DISP!!!」を開設するなど、渋谷から新たなムーブメントやカルチャーを発信しております。

2017年11月には、セキュリティ事業の東急セキュリティ(株)とケーブルテレビ事業のイツ・コミュニケーショングループ(株)の両社のサービス特長を活かし、安全・安心の警備体制と、スマートフォンを活用した先進のセキュリティスタイル「東急スマートセキュリティ」サービスの提供を開始いたしました。また、新たな社会インフラの創造を目指した取り組みを進めるために、業界の垣根を越えた企業連合として2017年7月に「コネクティッドホーム アライアンス」を設立いたしました。

生活サービス事業全体の営業収益は、電力小売事業の㈱東急パワーサプライにおいて、顧客獲得が進捗したことなどにより、7,003億5千2百万円(同1.5%増)、営業利益は、159億9千9百万円(同9.2%増)となりました。

(ホテル・リゾート事業)

ホテル業の㈱東急ホテルズでは、渋谷地区の3ホテルとザ・キャピトルホテル東急の合計で外国人宿泊比率が高い状況が継続するなどインバウンドのプラスの影響があり、客室部門を中心に好調に推移いたしました。

既存店舗の品質向上のため、2017年4月には「下田東急ホテル」をリニューアルオープンしたほか、2018年5月に「東京ベイ東急ホテル」を開業、2018年秋には「渋谷ストリームエクセルホテル東急」の開業を控えるなど、新規出店を進めております。同社は、当連結会計年度末現在、直営ホテル33店舗を展開しております。

ホテル・リゾート事業全体の営業収益は、ホテル業の㈱東急ホテルズにおいて、高稼働を維持したことに加え、販売単価も増加し増収したものの、マウナラニリゾート(オペレーション)(株)において、保有資産を譲渡した影響により、1,041億4百万円(同1.3%減)、㈱東急ホテルズにおいて、客室を中心としたバリエーションアップ施策費用の増加等により、営業利益は、51億3百万円(同10.0%減)となりました。なお、㈱東急ホテルズ直営店舗の客室稼働率は、84.1%(同0.3P減)となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物の期末残高は383億2千2百万円となり、前連結会計年度に比べて15億1百万円減少いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益960億6千9百万円に減価償却費749億1百万円、法人税等の支払額172億3千7百万円などを調整し、1,525億5千8百万円の収入となりました。前連結会計年度に比べ、法人税等の支払額が減少したことなどにより、262億2百万円の収入増となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出1,769億9千1百万円などがあり、1,453億7千8百万円の支出となりました。前連結会計年度に比べ、固定資産の取得による支出が増加したことなどにより、130億6千8百万円の支出増となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済及び社債の償還による支出などにより、78億9千2百万円の支出となりました。

(3) 財政状態

当連結会計年度末の総資産は、当社の設備投資による有形固定資産の増加などにより、前連結会計年度末の2兆1,486億円から1,160億円増加し、2兆2,646億円となりました。

負債は、有利子負債(※)が増加したことなどにより、前連結会計年度末の1兆4,702億円から473億円増加し、1兆5,175億円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上などにより、前連結会計年度末の6,783億円から686億円増加し、7,470億円となりました。

この結果、自己資本比率は30.8%となり、前連結会計年度末に比べ1.5ポイント上昇いたしました。また、1株当たり純資産額は1,146.46円となりました。

※ 有利子負債：借入金、社債、コマーシャル・ペーパーの合計

(生産、受注及び販売の状況)

当社グループの各事業は、受注生産形態をとらない事業が多く、セグメントごとに生産規模及び受注規模を金額あるいは数量で示すことはしていません。

このため生産、受注及び販売の状況については、「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (業績等の概要) (1) 業績」における各セグメント業績に関連付けて示しております。

(経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容)

文中における将来に関する事項は、当有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積もり

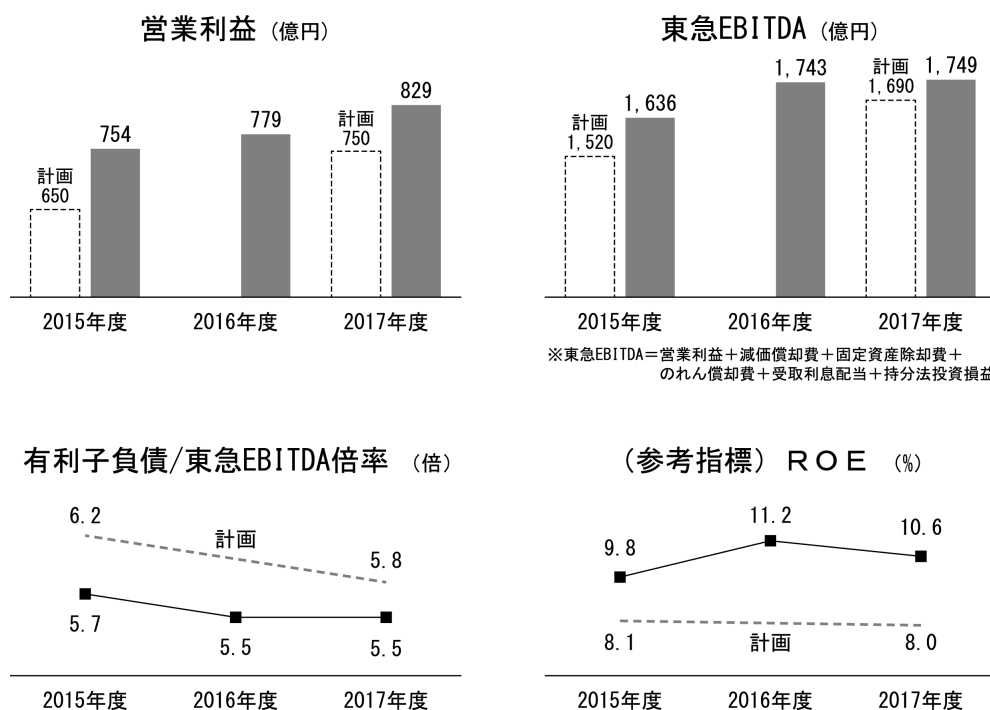
当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、経営者は、決算日における資産・負債及び報告期間における収益・費用の報告金額並びに開示に影響を与える見積りを行わなければなりません。これらの見積りについては、過去の実績、現在の状況に応じ合理的に判断を行っておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

(2) 経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社（連結子会社を含む）は、将来の大きな飛躍に向け、財務健全性を確保しつつ、既存事業・プロジェクトの強化、当社の強みを生かすことのできる新規領域への積極的進出や成長領域への重点投資を実施し、収益性、効率性双方の向上の実現を目指した、2015年度を初年度とする中期3か年経営計画「STEP TO THE NEXT STAGE」（以下「前中期3か年経営計画」という。）を推進してまいりました。

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、鉄道ネットワーク強化、二子玉川ライズの全面開業による効果、訪日外国人客の増加によるホテル業の好調などが寄与し、営業利益829億円、東急EBITDA 1,749億円、有利子負債／東急EBITDA倍率5.5倍、参考指標であるROEが10.6%となりました。この結果、前中期3か年経営計画の目標指標を全て達成いたしました。

また、数値面以外でも、国管理空港としては民間委託1号案件の仙台空港の運営や、電力小売事業への参入、社内起業家育成制度による新規事業の創出など順調に展開できており、定量・定性面ともに計画を達成いたしました。



当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因は、当社沿線の事業環境（人口動態）、外部環境の変化等があります。

当社グループの利益の大半を生み出す東急線沿線の人口動態は、前中期3か年経営計画では2020年に人口のピークを迎えるという前提でしたが、最新のデータでは2035年まで人口増加が続くと想定しており、渋谷・二子玉川・たまプラーザなど、当社の街づくりの成果と捉えております。一方、多くのエリアで高齢化の進行、生産年齢人口の減少が見られ、今後、少子高齢化が一層進むことを踏まえると、沿線住民の流動性の活性化が課題と認識しております。加えて、長期的視点から海外含む沿線外での収益源確保も一層重要になると考えております。

また、外部環境として、人口動態の変化等に伴う深刻な人手不足、ECの隆盛などによる消費行動や顧客接点の変化、テクノロジーの進展による新たな事業機会の出現、グローバルレベルでの競争激化など、当社を取り巻く事業環境はかつてないほどのスピードとスケールで大きく変化しており、スピード感を持った対応が必要であると認識しております。

こうした激しい世の中の変化に対応し、持続的な成長を続ける企業でありたいという想いを込め、2018年度を初年度とする中期3か年経営計画を策定いたしました。本計画では“Make the Sustainable Growth”（持続可能な成長をめざして）というスローガンを定め、サステナブルな「街づくり」「企業づくり」「人づくり」の、「3つのサステナブル」の基本方針のもと、次の100年に向けて、既存事業や沿線外拠点を強化するとともに、当社の強みを活かすことのできる新規領域にも積極的に進出することで、激しい時代の変化の中でも、持続的な成長を続ける企業集団を目指します。中期3か年経営計画の詳細につきましては、「第2 事業の状況 1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」をご参照ください。

(3) 資本の財源及び資金の流動性

当社グループでは持続的な成長を果たすことを目的に投資計画を立案しており、資金使途のうち主なものは設備投資・投融資（以下「投資」という。）であります。

前中期3か年経営計画期間における投資実施額は、成長投資が2,035億円、既存事業投資が2,812億円、合計4,847億円となり、仙台空港の運営事業参画、新規の不動産賃貸物件の取得などが順調に推移し、計画（成長投資2,000億円、既存事業投資2,500億円、合計4,500億円）を上回る規模となりました。また、資金調達につきましては、企業活動から得られる営業キャッシュ・フローが増加したことなどにより、有利子負債による調達に500億円（前中期3か年経営計画600億円）に減少したことに加え、株主還元への拡充も実施いたしました。

2018年度を初年度とする中期3か年経営計画においては、成長投資に2,600億円、既存事業投資に2,600億円、合計5,200億円の投資を計画しており、成長投資の内訳は、渋谷再開発に1,200億円、沿線開発に800億円、戦略案件に600億円であります。また、既存事業投資の内訳は、鉄軌道投資に1,600億円、うち960億円を安全投資として計画しており、安定輸送・快適性向上に万全を尽くしてまいります。

また、資金につきましては、企業活動から得られる営業キャッシュ・フローに加え、社債の発行や金融機関からの借入による調達1,200億円を想定しております。

なお、当連結会計年度末における有利子負債残高は9,697億円であり、有利子負債／東急EBITDA倍率は5.5倍であります。中期3か年経営計画期間中は設備投資の実施に伴い有利子負債の増加を見込んでおり、2018年度、19年度末は一時的に6倍台となりますが、渋谷開発などの大型開発案件が収益貢献を始める2020年度には5.3倍へ改善を見込んでおります。

※1 有利子負債：借入金、社債、コマーシャル・ペーパーの合計

※2 設備投資・投融資の金額については、投資計画の進捗説明を主眼とし一部組替を行っており、「キャッシュ・フロー計算書」とは数値が異なります。

4 【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、新たに締結した経営上の重要な契約等はありません。

5 【研究開発活動】

当連結会計年度における当社グループの研究開発費の総額は、4億1千7百万円であり、セグメントごとの研究開発費は、交通事業が3億9千4百万円、生活サービス事業が2千2百万円であります。

主な研究開発活動は、(株)東急総合研究所において、経済、社会、地域等に関する消費研究や消費構造、消費者の意識・行動に関する調査・研究を行っております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）では、大規模プロジェクトの推進、事業用資産の増強、施設の改良、サービス向上のための設備投資を行い、当連結会計年度は不動産事業を中心に1,812億6千5百万円の設備投資を実施いたしました。なお、設備投資の金額には、ソフトウェア等無形固定資産への投資額も含めて記載しております。

交通事業では、当社がホームドア整備計画の前倒しや大井町線急行7両化、バリアフリー強化、新型車両の導入等により利便性向上と安全対策のための設備投資を引き続き行いました。また、連結子会社では、バス業において車両の新規購入を行う等、事業全体では714億2千6百万円の設備投資を行いました。

不動産事業では、当社が「渋谷駅南街区プロジェクト」の推進や「青山オーバルビル」の取得等を行いました。また、連結子会社では、不動産賃貸設備として「渋谷キャスト（SHIBUYA CAST.）」の建設等を行い、事業全体では772億3千5百万円の設備投資を行いました。

生活サービス事業では、百貨店業、チェーンストア業における既存店舗設備の改装及び改修工事や、ケーブルテレビ事業における通信事業用設備工事等を行い、事業全体では201億7千4百万円の設備投資を行いました。

ホテル・リゾート事業では、ホテル業における既存ホテル設備の改修工事等を行い、事業全体では93億8千万円の設備投資を行いました。

前連結会計年度において計画中であった連結子会社である渋谷宮下町リアルティ(株)の渋谷宮下町計画については、当連結会計年度に工事が完了し、「渋谷キャスト（SHIBUYA CAST.）」として営業を開始しております。

前連結会計年度においてホテル・リゾート事業に記載しておりました連結子会社であるマウナ ラニ リゾート（オペレーション）(株)では、ホテル設備である「マウナ ラニ ベイホテル&バンガローズ」（帳簿価格47億2千6百万円）を当連結会計年度に譲渡しております。

2【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、多種多様な事業を行っており、その設備の状況をセグメント毎の数値とともに主たる設備の状況を開示する方法によっております。

当連結会計年度末における状況は、次のとおりであります。

(1) セグメント内訳

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	帳簿価額（百万円）						従業員数 （人）
	建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地		その他	合計	
			金額	面積 （千㎡）			
交通事業	380,664	53,945	190,360	4,003	7,092	632,063	7,596 〔1,100〕
不動産事業	238,952	1,941	352,384	2,620	2,353	595,631	2,568 〔6,209〕
生活サービス事業	69,430	4,280	96,983	1,061	11,027	181,723	8,607 〔11,917〕
ホテル・リゾート事業	28,833	1,824	40,721	5,511	3,585	74,964	3,338 〔2,419〕
小計	717,881	61,990	680,450	13,197	24,059	1,484,381	22,109 〔21,645〕
全社	11,009	976	16,667	364	1,608	30,262	876 〔317〕
合計	728,891	62,967	697,118	13,562	25,667	1,514,644	22,985 〔21,962〕

（注）1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、リース資産の合計であり、建設仮勘定は含まれておりません（以下同じ）。なお、金額には消費税等は含まれておりません（以下同じ）。

2. 従業員数の〔 〕は、臨時従業員数を外書しております。

(2) 交通事業

① 鉄軌道業

〔提出会社〕

ア. 路線及び施設

平成30年3月31日現在

線別	区間	営業キロ	単線・複線の別	駅数	変電所数
東横線	渋谷～横浜	24.2	複線	21	27
目黒線	目黒～日吉	11.9	複線	13	
田園都市線	渋谷～中央林間	31.5	複線	27	
大井町線	大井町～溝の口	12.4	複線	16	
池上線	五反田～蒲田	10.9	複線	15	
東急多摩川線	多摩川～蒲田	5.6	複線	7	
こどもの国線	長津田～こどもの国	3.4	単線	3	
鉄道計		99.9		87	27
世田谷線	三軒茶屋～下高井戸	5.0	複線	10	1
軌道計		5.0		10	1
合計		104.9		97	28

(注) 1. 軌間は、鉄道1.067m、軌道1.372m、電圧は、鉄道1,500V、軌道600Vであります。

2. こどもの国線については、横浜高速鉄道株式会社から鉄道施設を借り入れ、第2種鉄道事業を営んでおります。

3. 鉄道計、合計に記載している駅数については、路線の重複する駅を1駅としているため、線別の駅数の合算とは異なります。

イ. 車両数

平成30年3月31日現在

電動客車 (両)	制御 (付随) 客車 (両)	架線検測車 (両)	動力車 (両)	軌道検測車 (両)	合計 (両)
681	433	1	1	1	1,117
(64)	(60)	(-)	(-)	(-)	(124)

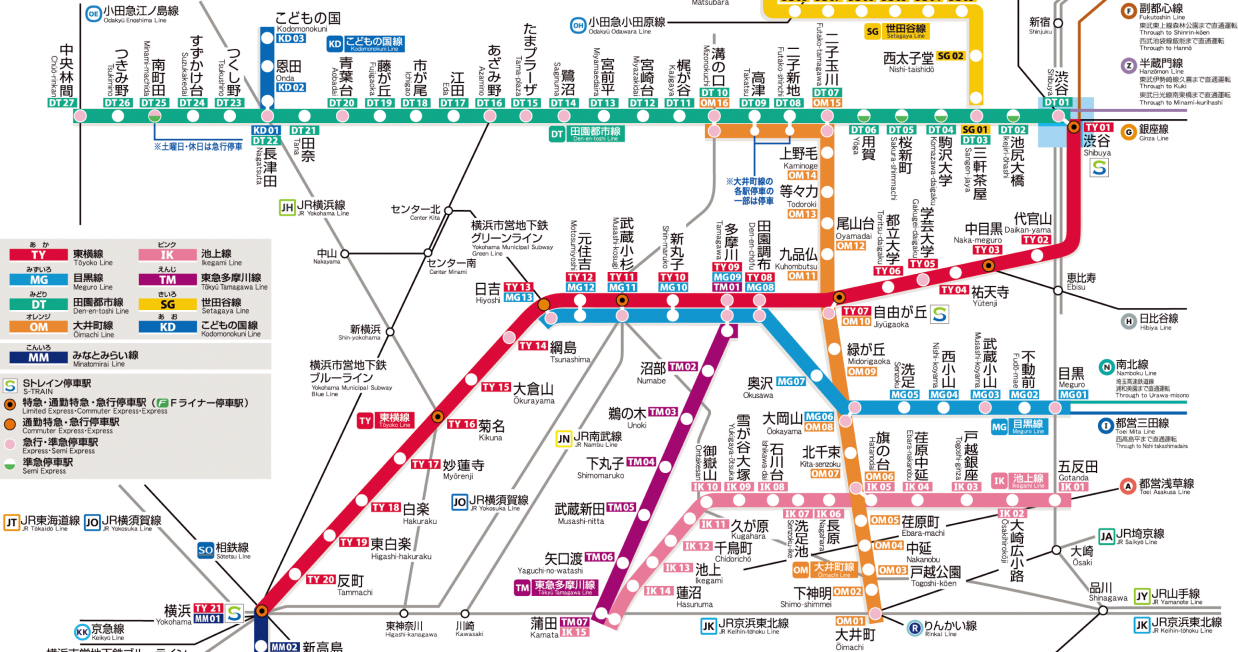
(注) 1. () は外書でリース契約により使用する車両であります。

2. 工場は、長津田車両工場、車庫は元住吉車庫ほか3カ所があり、概要は次のとおりであります。

平成30年3月31日現在

名称	所在地	土地		建物		従業員数 (人)
		面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
長津田車両工場	横浜市青葉区	44,437	627	17,742	764	81
元住吉車庫	川崎市中原区	44,582	8,846	6,995	1,786	48
奥沢車庫	東京都世田谷区	9,132	661	31	3	—
長津田車庫	横浜市緑区	64,500	4,296	7,382	332	65
雪が谷車庫	東京都大田区	8,792	13	3,138	190	30
計		171,446	14,444	35,290	3,077	224

東急線・みなとみらい線路線案内 Tokyu Lines · Minatomirai Line



- あか **TY** 東横線 Tokyu Line
 - あお **MS** 目黒線 Meguro Line
 - あざ **DT** 田園都市線 Denentoshi Line
 - あろ **OM** 大井町線 Oimachi Line
 - あさ **MM** みなとみらい線 Minatomirai Line
 - ピンク **IK** 池上線 Ikuzawa Line
 - あざ **TM** 東急多摩川線 Tokyu Tamagawa Line
 - あろ **SG** 世田谷線 Setagaya Line
 - あさ **KD** こどもの国線 Kodomonokuni Line
- S** S-Tレイン停車駅 (S-TRAIN)
● 特急・通勤特急・急行停車駅 (Fライナー停車駅)
○ 通勤特急・急行停車駅
◇ 急行・準急停車駅
◇ 準急停車駅



〔国内子会社〕

ア. 路線及び施設

平成30年3月31日現在

会社名	線名	区間	営業キロ	単線・複線の別	駅数	変電所数
上田電鉄(株) * 1	別所線	上田～別所温泉	11.6	単線	15	1
伊豆急行(株) * 1	伊豆急行線	伊東～伊豆急下田	45.7	単線	* 2 15	7

(注) * 1 : 軌間は、1,067m、電圧は、1,500Vであります。

* 2 : 上記の他に、共同使用駅が1駅あります。

イ. 車両数

平成30年3月31日現在

会社名	電動客車 (両)	制御(付随) 客車(両)	架線検測車 (両)	動力車(両)	軌道検測車 (両)	合計(両)
上田電鉄(株) * 1	6	6	—	—	—	12
伊豆急行(株) * 2	45	24	—	—	—	69

(注) * 1 : 車庫及び工場として、下之郷技術区(長野県上田市)があります。

* 2 : 車両基地として、伊豆高原運輸区(静岡県伊東市)があります。

② その他の交通事業

〔国内子会社〕

平成30年3月31日現在

会社名 事業所名 所在地	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
		建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 面積(m ²)	その他	合計	
東急バス(株) 淡島営業所他 東京都世田谷区他 東京都及び神奈川県内11カ所	バス業営業 所設備 * 1	3,681	3,527	6,533 (81,040)	93	13,837	1,398
仙台国際空港(株) 空港ターミナルビル 宮城県名取市	空港ターミ ナルビル	6,230	59	— (—)	476	6,766	111

(注) * 1 : 車両数は乗合バス925両であります。また、土地建物を賃借している設備を含んでおります。

(3) 不動産事業

主な賃貸施設及び設備は次のとおりであります。

〔提出会社〕

平成30年3月31日現在

事業所名 所在地	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
		建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 面積(m ²)	その他	合計	
渋谷ヒカリエ 東京都渋谷区	不動産賃貸 設備 * 1、2	35,845	523	37,720 (5,218)	51	74,141	—

事業所名 所在地	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 （人）
		建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 面積（㎡）	その他	合計	
二子玉川ライズ 東京都世田谷区	不動産賃貸 設備 * 1、3	27,808	282	23,197 (35,674)	247	51,536	—
東急キャピトルタワー 東京都千代田区	不動産賃貸 設備 * 1、4	19,238	52	11,851 (7,881)	30	31,173	—
クイーンズスクエア横浜 横浜市西区	不動産賃貸 設備 * 1、5	14,172	91	12,180 (8,269)	55	26,500	—
横浜市金沢区土地建物 横浜市金沢区	不動産賃貸 設備 * 1、6	217	—	25,379 (288,121)	—	25,597	—
東急番町ビル 東京都千代田区	不動産賃貸 設備 * 1、7	1,210	7	14,289 (1,312)	2	15,511	—
中央区京橋一丁目所在土地建物 東京都中央区	不動産賃貸 設備 * 1	1	—	12,969 (1,285)	—	12,971	—
東急渋谷駅前ビル 東京都渋谷区	不動産賃貸 設備 * 1、8	972	22	10,944 (1,201)	0	11,940	—
青山オーバルビル 東京都渋谷区	不動産賃貸 設備 * 1、9	721	—	9,235 (1,201)	—	9,956	—
東急鷺沼ビル 川崎市宮前区	不動産賃貸 設備 * 1、10	774	—	7,989 (5,658)	—	8,764	—
渋谷協和ビル 東京都渋谷区	不動産賃貸 設備 * 1、11	976	—	6,434 (566)	4	7,415	—
渋谷マークシティ 東京都渋谷区	不動産賃貸 設備 * 1、12	6,292	148	434 (3,852)	15	6,891	—
渋谷道玄坂スカイビル 東京都渋谷区	不動産賃貸 設備 * 1、13	971	0	5,382 (721)	—	6,354	—
八重洲センタービル 東京都中央区	不動産賃貸 設備 * 1、14	681	0	5,484 (875)	0	6,166	—
新溝ノロビル 川崎市高津区	不動産賃貸 設備 * 1、15	2,728	5	2,553 (6,746)	0	5,287	—

事業所名 所在地	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 （人）
		建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 面積（㎡）	その他	合計	
たまプラーザ テラス 横浜市青葉区	ショッピング センター * 1、16	15,138	2	646 (25,386)	8	15,795	—
青葉台東急スクエア 横浜市青葉区	ショッピング センター * 1、17	6,371	16	3,255 (17,176)	13	9,656	—
あざみ野ガーデンズ 横浜市青葉区	郊外型商業 施設 * 1、18	1,110	36	5,228 (40,158)	6	6,382	—

（注）* 1：賃貸又は施設運営を委託しているため、記載すべき従業員数はありません。

* 2：建物の賃貸可能面積は、61,725㎡であります。

* 3：建物の賃貸可能面積は、116,915㎡であります。

* 4：土地の一部を賃借しております。土地の賃借面積は、345㎡であります。

建物の賃貸可能面積は、53,620㎡であります。

* 5：建物の賃貸可能面積は、76,489㎡であります。

* 6：建物の賃貸可能面積は、26,370㎡であります。

* 7：建物の賃貸可能面積は、5,950㎡であります。

* 8：建物の賃貸可能面積は、6,486㎡であります。

* 9：建物の賃貸可能面積は、4,540㎡であります。

* 10：建物の賃貸可能面積は、18,326㎡であります。

* 11：建物の賃貸可能面積は、3,353㎡であります。

* 12：建物の賃貸可能面積は、20,599㎡であります。

* 13：建物の賃貸可能面積は、4,054㎡であります。

* 14：建物の賃貸可能面積は、4,691㎡であります。

* 15：建物の賃貸可能面積は、9,092㎡であります。

* 16：建物の賃貸可能面積は、83,876㎡であります。

* 17：建物の賃貸可能面積は、66,143㎡であります。

* 18：土地の一部を賃借しております。土地の賃借面積は、50,556㎡であります。

建物の賃貸可能面積は、8,132㎡であります。

〔国内子会社〕

平成30年3月31日現在

会社名 事業所名 所在地	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 （人）
		建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 面積（㎡）	その他	合計	
㈱じょうてつ ドエル札幌アクシア賃貸 マンション他 札幌市南区他	不動産賃貸 設備 * 1、2	3,739	14	5,812 (77,866)	30	9,596	—
CTリアルティ有限公司 セルリアンタワー東急ホテル 東京都渋谷区	不動産賃貸 設備 * 1、3	12,833	21	42,173 (9,396)	85	55,113	—
CTリアルティ有限公司他2社 世田谷ビジネススクエア 東京都世田谷区	不動産賃貸 設備 * 1、4	5,601	0	7,184 (9,599)	62	12,848	—
渋谷宮下町リアルティ株式会社 渋谷キャスト 東京都渋谷区	不動産賃貸 設備 * 1、5	14,859	244	— (—)	457	15,561	—

（注）* 1：賃貸又は施設運営を委託しているため、記載すべき従業員数はありません。

* 2：建物の賃貸可能面積は、62,395㎡であります。

* 3：建物の賃貸可能面積は、104,154㎡であります。

* 4：建物の賃貸可能面積は、20,087㎡であります。

* 5：建物の賃貸可能面積は、20,735㎡であります。

（4）生活サービス事業

主な設備は次のとおりであります。

〔国内子会社〕

平成30年3月31日現在

会社名 事業所名 所在地	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 （人）
		建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 面積（㎡）	その他	合計	
㈱東急ストア 五反田店他 東京都品川区他東京都内43店	販売店舗設 備 * 1	4,450	0	5,779 (18,593)	571	10,801	620
㈱東急ストア 中央林間店他 神奈川県大和市他 神奈川県内31店	販売店舗設 備 * 1	3,274	3	4,964 (13,088)	411	8,654	530
㈱東急ストア 東扇島流通センター 川崎市川崎区	物流 センター	3,758	47	10,206 (60,180)	32	14,045	65
㈱東急百貨店 本店 東京都渋谷区	販売店舗設 備	4,441	—	17,731 (6,217)	186	22,359	183

会社名 事業所名 所在地	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 （人）
		建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 面積（㎡）	その他	合計	
(株)東急百貨店 札幌店 札幌市中央区	販売店舗設 備	4,617	—	11,553 (8,454)	263	16,434	156
(株)東急百貨店 町田東急ツインズ 東京都町田市	販売店舗設 備 * 1	5,400	0	9,100 (4,950)	71	14,572	27
(株)ながの東急百貨店 長野店 長野県長野市	販売店舗設 備等 * 2	3,196	—	4,504 (15,261)	218	7,920	262
イツツ・コミュニケーションズ (株) メディアセンター他 横浜市青葉区他	ケーブルテ レビ設備	5,907	2,824	48 (100)	3,410	12,190	478
(株)東急モールズデベロップメン ト SHIBUYA109 東京都渋谷区	ショッピング センター * 3、4	264	—	5,070 (678)	2	5,337	—

(注) * 1：土地建物を賃借している設備を含んでおります。

* 2：土地の一部を賃借しております。土地の賃借面積は、1,814㎡であります。

* 3：建物の一部を賃借しております。

* 4：賃貸しているため、記載すべき従業員数はありません。

(5) ホテル・リゾート事業

主な設備は次のとおりであります。

〔提出会社〕

平成30年3月31日現在

事業所名 所在地	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 （人）
		建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 面積（㎡）	その他	合計	
新橋愛宕山東急イン本館 東京都港区	ホテル設備 * 1	1,358	0	4,022 (1,011)	2	5,383	—
東急セブンハンドレッドクラブ 千葉市緑区	ゴルフ場設 備 * 1、2	866	—	10,129 (1,018,519)	—	10,995	—

(注) * 1：賃貸しているため、記載すべき従業員数はありません。

* 2：土地の一部を賃借しております。土地の賃借面積は、250,261㎡であります。

〔国内子会社〕

平成30年 3月31日現在

会社名 事業所名 所在地	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 （人）
		建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 面積（㎡）	その他	合計	
合同会社ニュー・パースペクティブ・ワン 名古屋東急ホテル 名古屋市中区	ホテル設備 * 1	3,503	35	7,682 (9,172)	148	11,370	—

- （注） 1. * 1：賃貸しているため、記載すべき従業員数はありません。
 2. 上記の他、主要な賃借及びリース設備として、以下のものがあります。
 なお、賃貸しているため、記載すべき従業員数はありません。

平成30年 3月31日現在

会社名	事業所名 所在地	設備の内容	土地の面積 （㎡）	建物の面積 （㎡）	従業員数 （人）
㈱東急ホテルズ	横浜ベイホテル東急他 横浜市西区他21店	ホテル建物	125	308,616	—

（6） 全社

主な設備は次のとおりであります。

〔提出会社〕

平成30年 3月31日現在

事業所名 所在地	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 （人）
		建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 面積（㎡）	その他	合計	
Bunkamura 東京都渋谷区	複合文化設備 * 1	6,200	658	12,239 (7,777)	105	19,202	—

- （注） * 1：施設運営を委託しているため、記載すべき従業員数はありません。

（7） その他

- 不動産事業及び生活サービス事業において、当社及び連結子会社である㈱東急レクリエーションは、「東京都新宿区歌舞伎町一丁目29番1所在土地（帳簿価額11,922百万円、土地面積3,774㎡）」を共同で所有しており、また、不動産事業において、当社は、「東京都新宿区歌舞伎町一丁目29番3所在土地（帳簿価額7,907百万円、土地面積1,054㎡）」を所有しており、具体的な再開発計画の内容、時期等は検討中であります。
- 不動産事業において、当社は、「東京都町田市鶴間三丁目所在土地（帳簿価額12,562百万円、土地面積90,189㎡）」を所有しており、「南町田拠点創出まちづくりプロジェクト」として、開発中の物件であります。
- 不動産事業において、当社は、「東京都千代田区麴町六丁目所在土地（帳簿価額5,616百万円、土地面積1,186㎡）」を所有しており、「麴町東急ビル建替計画」として開発中の物件であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修等の計画は、以下のとおりであります。今後の所要資金については、借入金、社債及び自己資金でまかなう予定であります。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の除却、売却等の計画はありません。

(1) 平成30年度 当社鉄軌道事業設備投資計画

当社は、平成30年度、鉄軌道事業において総額597億円の設備投資を予定しております。鉄道運転事故・輸送障害の未然防止等の安全対策に310億円、都心方面の輸送力増強と快適で便利な電車や駅の実現に向けた付加価値向上・サービス拡充・バリアフリー強化等に287億円を投資する予定であります。

投資予定金額 (億円)	主な投資内容
597	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームドア整備（平成30年度12駅運用開始予定） ・田園都市線 新型車両「2020系」6編成（60両）の新造 ・池上線、東急多摩川線「7000系」6編成（18両）の新造 ・東横線 デジタルATC（自動列車制御装置）の導入（平成34年供用開始予定） ・池上線池上駅改良工事 他

(2) その他の計画

平成30年3月31日現在

会社名 工事件名	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		着手及び完了予定	
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)	着手	完了
当社 渋谷駅街区開発計画 I期（東棟）工事	不動産事業等	不動産賃貸設備等	49,869	12,137	平成26. 7	平成31年度
当社 渋谷駅南街区プロジェクト	不動産事業等	不動産賃貸設備等	68,080	18,696	平成27. 8	平成30. 9
当社 南町田拠点創出まちづくり プロジェクト	不動産事業等	ショッピングセンター等	53,303	10,827	平成29. 5	平成31年度
当社及び(株)東急ホテルズ 三島駅南口西街区計画	ホテル・リゾート 事業	ホテル設備等	6,841	714	平成30. 3	平成32. 6

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	900,000,000
計	900,000,000

(注) 当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会における決議に基づき、平成29年8月1日を効力発生日とする株式併合（普通株式2株を1株に併合）及び発行可能株式総数の変更（1,800,000,000株から900,000,000株に変更）を実施しております。

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成30年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	624,869,876	624,869,876	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	624,869,876	624,869,876	—	—

(注) 当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会における決議に基づき、平成29年8月1日を効力発生日とする株式併合（普通株式2株を1株に併合）及び単元株式数の変更（1,000株から100株に変更）を実施しております。

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年9月30日 (注1)	△13,786,000	1,249,739,752	—	121,724	—	92,754
平成29年8月1日 (注2)	△624,869,876	624,869,876	—	121,724	—	92,754

(注) 1. 自己株式の消却による減少であります。

2. 当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会における決議に基づき、平成29年8月1日を効力発生日とする株式併合（普通株式2株を1株に併合）を実施しております。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							単元未満株式の状況（株）	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	3	115	39	1,087	538	63	72,086	73,931	—
所有株式数（単元）	124	2,990,604	38,652	202,487	1,156,990	808	1,849,369	6,239,034	966,476
所有株式数の割合（%）	0.00	47.93	0.62	3.25	18.54	0.01	29.64	100.00	—

- (注) 1. 自己株式15,242,781株は「個人その他」に152,427単元及び「単元未満株式の状況」に81株含めて記載しております。
2. 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ59単元及び9株含まれております。
3. 当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会における決議に基づき、平成29年8月1日を効力発生日とする単元株式数の変更（1,000株から100株に変更）を実施しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合（%）
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13番1号	38,737	6.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町2丁目11番3号	30,800	5.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	東京都中央区晴海1丁目8番11号	26,919	4.42
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	23,527	3.86
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号	22,395	3.67
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	10,738	1.76
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	10,594	1.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	東京都中央区晴海1丁目8番11号	10,379	1.70
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	9,906	1.62
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234 （常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部）	1776 HERITAGE DRIVE, NORTH QUINCY, MA 02171, U. S. A. （東京都港区港南2丁目15番1号）	9,669	1.59
計	—	193,670	31.77

- (注) 1. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）及び日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）の所有株式数は信託業務に係るものであります。
2. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日に株式会社三菱UFJ銀行に商号変更されております。
3. 当社は自己株式を15,242千株所有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

4. 平成29年6月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、ブラックロック・ジャパン株式会社並びにその共同保有者であるブラックロック・ライフ・リミテッド、ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド、ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ、ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ．エイ．及びブラックロック・インベストメント・マネジメント（ユーケー）リミテッドが平成29年6月15日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成30年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
ブラックロック・ジャパン株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目8番3号	22,391	1.79
ブラックロック・ライフ・リミテッド	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー 12	1,944	0.16
ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド	アイルランド共和国 ダブリン インターナショナル・ファイナンシャル・サービス・センター JPモルガン・ハウス	4,391	0.35
ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	15,427	1.23
ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ．エイ．	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	18,168	1.45
ブラックロック・インベストメント・マネジメント（ユーケー）リミテッド	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー 12	2,251	0.18
計	—	64,572	5.17

(注) 当社は、平成29年8月1日を効力発生日とする株式併合（普通株式2株を1株に併合）を実施しておりますが、上記の所有株式数は、株式併合前の株式数にて記載しております。

5. 平成29年11月8日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、株式会社みずほ銀行並びにその共同保有者であるみずほ証券株式会社、アセットマネジメントOne株式会社が平成29年10月31日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成30年3月31日現在におけるアセットマネジメントOne株式会社の実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	9,906	1.59
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町1丁目5番1号	728	0.12
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目8番2号	22,877	3.66
計	—	33,512	5.36

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 15,242,700 (相互保有株式) 普通株式 500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 608,660,200	6,086,602	—
単元未満株式	普通株式 966,476	—	—
発行済株式総数	624,869,876	—	—
総株主の議決権	—	6,086,602	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が5,900株含まれております。

また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数59個が含まれております。

2. 当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会における決議に基づき、平成29年8月1日を効力発生日とする株式併合(普通株式2株を1株に併合)及び単元株式数の変更(1,000株から100株に変更)を実施しております。

② 【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 東京急行電鉄(株)	東京都渋谷区南平台町5番6号	15,242,700	—	15,242,700	2.44
(相互保有株式) (株)伊東アンテナ協会	静岡県伊東市広野2丁目3番17号	500	—	500	0.00
計	—	15,243,200	—	15,243,200	2.44

(注) 当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会における決議に基づき、平成29年8月1日を効力発生日とする株式併合(普通株式2株を1株に併合)及び単元株式数の変更(1,000株から100株に変更)を実施しております。

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

① 従業員株式所有制度

(イ) 従業員持株E S O P信託の概要

当社は、平成27年9月に、中長期的な企業価値向上と福利厚生 of 拡充を目的とした従業員インセンティブ・プラン「従業員持株E S O P信託」を導入しております。

E S O P信託とは、米国のE S O P (Employee Stock Ownership Plan) 制度を参考に、従業員持株会の仕組みを応用した信託型の従業員インセンティブ・プランであり、当社株式を活用した従業員の財産形成を促進する貯蓄制度の拡充(福利厚生制度の拡充)を図る目的を有するものをいいます。

当社が「東急グループ従業員持株会」(以下「持株会」といいます。)に加入する従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者とする信託を設定し、当該信託は一定期間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を、予め定める取得期間中に取得します。その後、当該信託は当社株式を毎月一定日に持株会に売却します。信託終了時に、株価の上昇により信託収益がある場合には、受益者たる従業員の抛割割合等に応じて金銭が分配されます。株価の下落により売却損失が生じ信託財産に係る債務が残る場合には、金銭消費貸借契約の保証条項に基づき、当社が銀行に対して一括して返済するため、従業員の追加負担はありません。従業員持株会信託口が取得する当社株式については、本項における自己株式の数に含めておりません。

(ロ) 従業員等持株会に取得させる予定の株式の総数

6,165千株

(注) 上記の株式の総数は、株式併合前の株式数によるものです。

(ハ) 当該従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

平成31年10月31日以前に持株会への抛出を開始し、かつ信託終了時に持株会に加入している者

② 取締役等に対する株式報酬制度

(イ) 役員報酬B I P信託の概要

当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会決議に基づき、当社取締役及び執行役員等(社外取締役及び海外居住者を除きます。以下「取締役等」といいます。)に対し、中長期的な業績向上及び株主価値の最大化への貢献意識を一層高めることを目的として、株式報酬制度を導入しております。本制度を導入するにあたり、「役員報酬B I P信託」と称される仕組みを採用しております。

役員報酬B I P (Board Incentive Plan) 信託とは、信託が取得した当社株式及び当社株式の換価処分金相当額の金銭を、役位等に応じて、原則として取締役等の退任時に交付及び給付する制度です。役員報酬B I P信託が取得する当社株式については、本項における自己株式の数に含めておりません。

なお、本制度の対象期間は、平成30年3月末日で終了する事業年度から平成34年3月末日で終了する事業年度までの5年間です。

(ロ) 取締役等に取得させる予定の株式の総数

325千株

(ハ) 当該株式報酬制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

取締役等のうち受益者要件を充足する者

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号及び同法第155条第9号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
取締役会 (平成29年9月28日) での決議状況 (取得期間 平成29年9月28日～平成29年9月28日)	4,875	7,829,250
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	4,875	7,829,250
残存決議株式の総数及び価額の総額	—	—
当事業年度の末日現在の未行使割合 (%)	—	—
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合 (%)	—	—

(注) 会社法第155条第9号の規定により、株式併合により生じた端数株式を取得したものであります。

当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会における決議に基づき、平成29年8月1日を効力発生日とする株式併合 (普通株式2株を1株に併合) を実施しております。当該株式併合により生じた1株に満たない端数の処理について、会社法第235条第2項、第234条第4項及び第5項の規定に基づき、自己株式の買取を行ったものであります。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	46,644	44,470,405
当期間における取得自己株式	928	1,675,568

(注) 1. 当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会における決議に基づき、平成29年8月1日を効力発生日とする株式併合 (普通株式2株を1株に併合) を実施しております。当事業年度における取得自己株式46,644株の内訳は、株式併合前39,835株、株式併合後6,809株であります。

2. 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	5,030	5,111,585	—	—
保有自己株式数	15,242,781	—	15,243,709	—

- (注) 1. 当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会における決議に基づき、平成29年8月1日を効力発生日とする株式併合（普通株式2株を1株に併合）を実施しております。当事業年度におけるその他（単元未満株式の売渡請求による売渡）の株式数5,030株の内訳は、株式併合前3,829株、株式併合後1,201株であります。
2. 当期間における処理自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。
3. 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社の主要な事業であります鉄軌道業は、公共性の極めて高い事業であるため、長期にわたり安定した業績を確保しつつ、経営基盤の一層の強化に努めるとともに、輸送力の増強、安全対策の充実、バリアフリー化の推進、サービスの向上などの設備投資を継続して実施してまいりました。

また、平成30年度を初年度とする中期3か年経営計画期間においては、安全対策の充実、輸送力増強などの鉄軌道投資に加えて、渋谷・南町田等の大規模成長投資を計画しております。今後とも、公共輸送機関としての使命を果たしつつ、持続的成長をとげるため、相当の設備投資を続ける必要があると考えております。

利益配分につきましては、安定・継続的な配当を実施するとともに、さらなる株主還元の充実にも取り組むこととし、財務健全性、資本効率、フリーキャッシュフローの状況等を勘案し、中長期的には総還元性向30%を目指すこととしております。また当社は、会社法第454条5項に規定される中間配当をすることができる旨を定款に定めており、年2回の剰余金配当（中間配当及び期末配当）を行っております。これらの配当の決議機関は、中間配当については取締役会、期末配当に関しては株主総会であります。なお、配当回数の変更は予定しておりません。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年11月10日 取締役会決議	(注1) 5,486	9.0
平成30年6月28日 定時株主総会決議	(注2) 6,096	10.0

(注1) 配当金の総額には、従業員持株会信託口及び役員報酬信託口に対する配当金19百万円を含めております。

(注2) 配当金の総額には、従業員持株会信託口及び役員報酬信託口に対する配当金18百万円を含めております。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第145期	第146期	第147期	第148期	第149期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	814	840	1,007	998	(864) 1,927
最低(円)	580	596	739	731	(786) 1,566

(注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

2. 当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会における決議に基づき、平成29年8月1日を効力発生日とする株式併合（普通株式2株を1株に併合）を実施しております。第149期の株価については、株式併合後の最高・最低株価を記載し、株式併合前の最高・最低株価は（ ）にて記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	1,733	1,792	1,886	1,927	1,855	1,736
最低(円)	1,580	1,638	1,749	1,809	1,700	1,634

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性20名 女性1名 (役員のうち女性の比率4.8%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役会長		野本 弘文	昭和22. 9. 27	昭和46年4月 当社入社 平成19年6月 当社取締役 平成20年1月 当社常務取締役 平成20年6月 当社専務取締役 平成22年6月 当社代表取締役(現) 平成23年4月 当社取締役社長 平成27年6月 当社社長執行役員 平成30年4月 当社取締役会長(現)	(注)3	131
代表取締役社長 社長執行役員		高橋 和夫	昭和32. 3. 1	昭和55年4月 当社入社 平成23年6月 当社取締役 平成23年7月 当社経営管理室長 平成26年4月 当社常務取締役 当社経営企画室長 平成27年6月 当社取締役 当社常務執行役員 平成28年4月 当社専務執行役員 平成30年4月 当社代表取締役(現) 当社取締役社長(現) 当社社長執行役員(現)	(注)3	18
代表取締役 副社長執行役員		巴 政雄	昭和28. 11. 23	昭和51年4月 当社入社 平成19年6月 当社取締役 平成23年4月 当社常務取締役 平成26年4月 当社専務取締役 平成26年7月 当社人材戦略室長 平成27年6月 当社取締役 当社専務執行役員 平成29年4月 当社代表取締役(現) 当社副社長執行役員(現)	(注)3	16
取締役 専務執行役員		渡邊 功	昭和31. 5. 12	昭和54年4月 当社入社 平成22年4月 当社執行役員 当社都市生活創造本部副本部長 平成22年6月 当社取締役 当社都市生活創造本部長 平成24年6月 当社常務取締役 平成27年4月 当社都市創造本部長 平成27年6月 当社取締役(現) 当社常務執行役員 平成28年4月 当社専務執行役員(現)	(注)3	21
取締役 専務執行役員		星野 俊幸	昭和32. 6. 28	昭和55年4月 当社入社 平成20年4月 当社執行役員 当社開発事業本部事業統括部長 平成22年6月 当社取締役 当社経営統括室長 平成23年7月 当社事業戦略室長 平成24年4月 当社国際事業部長 平成24年10月 当社調査役 平成25年4月 当社執行役員 当社国際事業部長 平成26年4月 当社常務取締役 平成27年6月 当社取締役(現) 当社常務執行役員 平成29年4月 当社専務執行役員(現)	(注)3	15

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 常務執行役員	事業開発室長	市来 利之	昭和31. 6. 15	昭和56年4月 当社入社 平成17年4月 イッツ・コミュニケーションズ （株）取締役 平成22年3月 同社代表取締役社長 平成27年4月 当社執行役員 当社生活創造本部長 平成27年6月 当社取締役（現） 平成29年4月 当社常務執行役員（現） 平成30年4月 当社事業開発室長（現）	（注）3	12
取締役 常務執行役員	経営企画室長	藤原 裕久	昭和35. 11. 6	昭和58年4月 当社入社 平成22年6月 東急ファンリテイサービス（株）取 締役執行役員 平成23年7月 当社執行役員 当社事業戦略室副室長 平成24年4月 当社国際事業部副事業部長 平成26年7月 当社財務戦略室長 平成27年6月 当社取締役（現） 平成30年4月 当社常務執行役員（現） 当社経営企画室長（現）	（注）3	5
取締役 常務執行役員	都市創造本部長	高橋 俊之	昭和34. 4. 21	昭和57年4月 当社入社 平成23年7月 当社執行役員 当社事業戦略室副室長 平成24年4月 当社国際事業部副事業部長 平成24年10月 当社国際事業部長 平成25年4月 当社都市開発事業本部都市戦略 事業部長 平成26年4月 東急ファンリテイサービス（株）代 表取締役社長 平成29年4月 当社執行役員 当社都市創造本部副本部長 平成29年6月 当社取締役（現） 平成29年7月 当社都市創造本部長（現） 平成30年4月 当社常務執行役員（現）	（注）3	5
取締役	技師長 鉄道事業本部長	城石 文明	昭和30. 11. 3	昭和55年4月 当社入社 平成22年4月 （株）東急総合研究所取締役常務執 行役員 平成24年7月 当社鉄道事業本部副事業本部長 平成24年9月 当社執行役員（現） 平成25年4月 当社鉄道事業本部長（現） 平成26年6月 当社取締役（現） 当社技師長（現）	（注）3	9
取締役	法人営業・リゾー ト事業部長	木原 恒雄	昭和31. 8. 6	昭和55年4月 当社入社 平成19年6月 東急ファンリテイサービス（株）取 締役 平成20年6月 同社執行役員 平成22年4月 同社取締役 平成24年6月 同社常務取締役 平成25年4月 当社執行役員（現） 当社営業本部長 平成26年6月 当社取締役（現） 平成26年7月 当社営業推進事業部長 平成30年4月 当社法人営業・リゾート事業部 長（現）	（注）3	20

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	リテール事業部長	堀江 正博	昭和36. 12. 31	昭和59年4月 当社入社 平成13年6月 東急リアル・エステート・イン ベストメント・マネジメント(株) 代表取締役執行役員副社長 平成14年9月 同社執行役員社長 平成15年6月 東急リアル・エステート投資法 人執行役員(代表) 平成27年5月 当社執行役員(現) 当社生活創造本部リテール事業 部長 平成28年6月 当社取締役(現) 平成29年7月 当社リテール事業部長(現)	(注)3	6
取締役	人材戦略室長	村井 淳	昭和38. 1. 28	昭和60年4月 当社入社 平成20年12月 当社リゾート事業部事業推進部 統括部長 平成21年4月 当社グループ事業本部第一部統 括部長 平成24年4月 (株)東急ホテルズ取締役執行役員 平成26年7月 当社人材戦略室副室長 平成27年4月 当社執行役員(現) 当社人材戦略室長(現) 平成30年6月 当社取締役(現)	(注)3	4
取締役	調査役	瀧名 節	昭和35. 7. 25	昭和58年4月 当社入社 平成23年4月 当社執行役員 当社都市生活創造本部ビル事業 部長 平成26年6月 当社取締役(現) 平成27年4月 当社都市創造本部副本部長 平成29年4月 当社調査役(現) 東急ファシリティサービス(株)代 表取締役社長(現)	(注)3	8
取締役		小長 啓一	昭和5. 12. 12	昭和59年6月 通商産業事務次官 平成元年3月 アラビア石油(株)取締役副社長 平成3年3月 同社取締役社長 平成15年1月 AOCホールディングス(株)取締 役社長 平成16年6月 同社相談役 平成17年7月 財団法人経済産業調査会 (現 一般財団法人経済産業調 査会)会長 平成19年6月 AOCホールディングス(株)取締 役相談役 平成20年6月 同社参与 当社取締役(現)	(注)3	7
取締役		金指 潔	昭和20. 8. 2	平成10年6月 東急不動産(株)取締役 平成20年4月 同社代表取締役社長 同社社長執行役員 当社取締役(現) 平成24年6月 東急不動産ホールディングス(株) 代表取締役社長 平成25年10月 東急不動産ホールディングス(株) 代表取締役社長 平成26年4月 同社取締役社長 同社社長執行役員 東急不動産(株)代表取締役会長 平成27年4月 東急不動産ホールディングス(株) 代表取締役会長(現) 平成27年6月 東急不動産(株)取締役会長(現)	(注)3	4

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		蟹瀬 令子	昭和26. 7. 14	昭和50年4月 ㈱博報堂入社 平成5年2月 ㈱ケイ・アソシエイツ代表取締役(現) 平成11年6月 ㈱イオンフォレスト(ザ・ボディショップ)代表取締役社長 平成13年1月 日本小売業協会生活者委員会委員(現) 平成13年5月 (社)日本ショッピングセンター協会理事(現) 平成16年5月 同協会情報委員会委員長(現) 平成19年2月 レナ・ジャポン・インスティテュート(㈱代表取締役(現)) 平成22年10月 昭和女子大学客員教授(現) 平成27年6月 当社取締役(現) 平成27年9月 内閣府消費者委員会委員(現)	(注)3	4
取締役		岡本 園衛	昭和19. 9. 11	平成11年3月 日本生命保険相互会社常務取締役 平成14年3月 同社専務取締役 平成17年4月 同社取締役社長 平成17年6月 当社監査役 平成23年4月 日本生命保険相互会社取締役会長 平成30年4月 同社取締役相談役(現) 平成30年6月 当社取締役(現)	(注)3	—
常勤監査役		島本 武彦	昭和34. 11. 15	平成20年4月 ㈱三菱東京UFJ銀行(現 ㈱三菱UFJ銀行)執行役員 ㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ執行役員 平成24年5月 ㈱三菱東京UFJ銀行常務執行役員 ㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ常務執行役員 平成24年6月 ㈱三菱東京UFJ銀行常務取締役 平成27年6月 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(㈱)監査役 三菱UFJ証券ホールディングス(㈱)監査役 ㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役 平成30年6月 当社常勤監査役(現)	(注)4	—
常勤監査役		秋元 直久	昭和32. 6. 20	昭和56年4月 当社入社 平成21年4月 東急車輛製造(㈱)執行役員 平成21年6月 同社取締役執行役員 平成24年4月 当社執行役員 当社生活サービス事業本部長 平成26年4月 ㈱東急エージェンシー執行役員 平成26年6月 同社常務取締役執行役員 平成28年6月 当社常勤監査役(現)	(注)4	16

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役		齋藤 勝利	昭和18. 12. 6	平成9年4月 第一生命保険相互会社常務取締役 平成13年4月 同社専務取締役 平成16年7月 同社取締役社長 平成20年6月 当社監査役(現) 平成22年4月 第一生命保険(株)取締役副会長 平成23年6月 同社取締役会長 平成28年10月 第一生命ホールディングス(株)取締役会長 平成29年4月 第一生命保険(株)特別顧問(現)	(注)4	—
監査役		石原 邦夫	昭和18. 10. 17	平成10年6月 東京海上火災保険(株)常務取締役 平成12年6月 同社専務取締役 平成13年6月 同社取締役社長 平成14年4月 ㈱ミレアホールディングス (現 東京海上ホールディングス(株))取締役社長 平成19年6月 同社取締役会長 平成24年6月 当社監査役(現) 平成25年6月 東京海上日動火災保険(株)相談役(現)	(注)4	7
計						315

- (注) 1. 取締役小長啓一、取締役金指潔、取締役蟹瀬令子、取締役岡本罔衛は、社外取締役であります。
2. 監査役齋藤勝利、監査役石原邦夫は、社外監査役であります。
3. 取締役17名の任期は、いずれも平成30年6月28日開催の定時株主総会から1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
4. 監査役4名の任期は、いずれも平成28年6月29日開催の定時株主総会から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
5. 当社は、平成30年6月28日開催の定時株主総会において、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の選任の効力は、平成30年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会の開始の時までとなります。補欠監査役が監査役に就任した場合の任期は、退任した監査役の任期が満了する時までとなります。補欠監査役の略歴は、以下のとおりであります。なお、同氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役の要件を満たしております。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
松本 拓生	昭和47. 11. 22	平成11年4月 第二東京弁護士会登録 平成18年3月 ニューヨーク州弁護士資格取得 平成19年4月 TMI総合法律事務所パートナー 平成22年4月 東京大学法科大学院客員准教授 平成26年4月 恵比寿松本法律事務所代表弁護士(現)	—

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、社会の基盤を担う責任ある企業として、企業の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、経営の公正性・透明性を確保するとともに、株主をはじめとするステークホルダーに対する説明責任を十分に果たしてまいります。

① 企業統治の体制（平成30年6月28日現在）

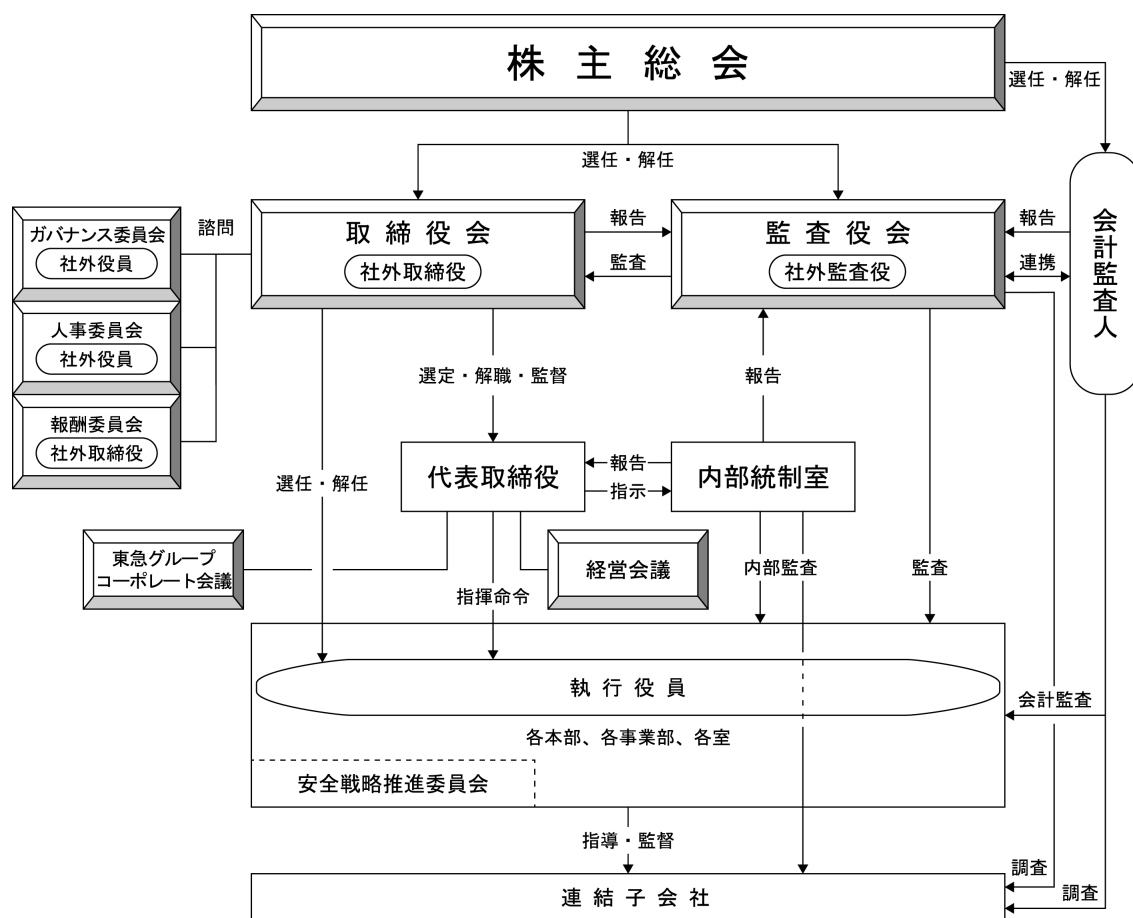
イ. 企業統治の体制の概要

当社は、取締役会を経営および監督の最高機関と位置づけており、原則として毎月1回定例で開催し、法令・定款および取締役会規程の定めによる会社の経営方針および業務執行上重要事項を議決するとともに、取締役の職務執行を監督しております。取締役会は社外取締役4名を含む17名（男性16名、女性1名）で構成されており、平成18年6月より取締役の任期を2年から1年に短縮し、会社経営に対する取締役の責任を明確化しております。また監査役会は社外監査役2名を含む4名（男性4名）からなり、株主の負託を受けた独立機関として取締役の職務執行を監査しています。

取締役会の諮問機関として、「ガバナンス委員会」「人事委員会」「報酬委員会」を設置し、全て筆頭独立社外取締役を委員長としております。「ガバナンス委員会」はコーポレートガバナンスに関する事項全般を審議しております。「人事委員会」は取締役候補者の選定、執行役員を選任に関する事項等について審議し、「報酬委員会」は取締役の報酬に関する事項を審議し決議を行っております。

業務執行体制としては、経営と執行の分離をすすめ、権限および責任を明確化し、業務執行体制の強化を図ることを目的とした執行役員制度を平成17年4月から導入しております。また当社および連結子会社からなる企業集団の経営に関する重要課題を審議する機関として東急グループコーポレート会議を定期的で開催するとともに、会社の業務執行に関する基本方針および重要事項を審議し決定するための経営会議を原則として毎週開催し、効率的かつ効果的な会社運営を実施しております。

なお、当社のコーポレート・ガバナンス体制の模式図は次のとおりです。



ロ. 企業統治の体制を採用する理由

当社および東急グループでは「安全」をすべての事業の根幹と位置づけており、特に鉄軌道事業は極めて公共性の高い事業領域に属しており、お客さまの安全の確保が最大かつ最重要の責務であると認識し、全社を挙げて積極的な取り組みを推進しております。今後にわたって当社の安全管理体制を保全・確保することにより、企業価値・株主の共同利益を向上させていくためには、コーポレート・ガバナンス体制に基づき、長期的視点にたった経営計画・職務遂行を推進する必要があると考えております。

当社の役員に関して、社内取締役は人格および見識にすぐれた高い経営能力を有する幹部社員を選任し、社外取締役は豊富な経験および幅広い見識を有する人材を選任しております。また、監査役は豊富な経験および幅広い見識を有し、かつ当社の事業や財務状況に関する十分な理解を有する人材を登用しております。なお、社外取締役・社外監査役は、その知見や独立した立場からの意見等を当社の経営に反映することで、社内取締役・執行役員 of 適切な職務執行を確保していると確信しております。

さらに当社は、多くの連結子会社とともに幅広い事業を展開しており、企業集団全体として、株主の皆さま、お客さま、沿線住民の方々、行政機関、関係事業者、債権者、そして従業員やその家族といった、ステークホルダー全般との信頼関係を維持向上させることが重要と考えております。そのため連結子会社を含めた企業集団を全体最適の観点から一元的にマネジメントすることができるよう、内部統制システム等の整備を進め、グループガバナンスを発揮するよう努めております。

ハ. 内部統制システムの整備の状況およびリスク管理体制の整備の状況等

グループ経営方針における「コンプライアンス経営によるリスク管理」に基づく取り組みを踏まえつつ、経営環境の変化等に対応するため、体制について不断の見直しを行い、実効性のある内部統制の高度化を推進しております。

a. 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

「東京急行電鉄行動規範」を周知、徹底し、適正な法令遵守体制を構築、運用するとともに、役員および従業員を対象に法令遵守に関する研修等を定期的実施しております。

コンプライアンス上の課題については、CSR経営推進委員会において社内からの報告を一元的に受けるものとし、このうち重要なものについては、経営会議において審議を行い、取締役会へ報告しております。

社内担当部署および社外の弁護士事務所に内部通報窓口を設置し、法令または行動規範に違反する行為に関し従業員および連結子会社従業員が直接通報、相談できるようにするとともに、違反行為の是正を行っております。

業務の適切な実行を確保するため、内部監査の体制を強化するとともに、内部監査の結果を経営層に対し報告しております。

財務報告の信頼性を確保するため、財務報告に係る内部統制を適切に整備、運用しております。

反社会的勢力および団体とは取引や利益供与等はもちろん、一切の関係を拒絶しております。また、警察当局等外部機関との連携を強化し、反社会的勢力排除のための体制を整備、運用しております。

b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る文書その他情報について、法令および社内規程等に基づき適切に保存および管理を行っております。

c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

安全管理上の課題については、安全推進会議において社内からの報告を一元的に受けるものとし、このうち重要なものについては、経営会議にて審議を行い、取締役会へ報告しております。

輸送の安全確保については、基本方針を定めるとともに、安全運行にかかわる従業員の行動原則を制定し、安全管理規程に基づく安全マネジメント体制を整備、運用しております。

連結経営の視点に基づいて当社および子会社の重要リスクの認識、評価を行い、リスク管理方針等を経営会議において審議し、取締役会へ報告しております。

事業活動に関する様々な危機管理を行い損失の最小化を図るため、危機管理の基本規程を定め、全社的な危機管理体制を整備、運用しております。

d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会において取締役の業務分担を決議し、取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するとともに、執行役員制度に基づき、経営と執行の役割を明確化し、業務執行体制の強化、権限と責任の明確化を行い、コーポレートガバナンスの強化を図っております。

取締役会を原則として毎月1回開催するほか、経営会議を開催し、会社の業務執行に関する基本方針および重要事項を審議し決定しております。

業務の円滑かつ能率的な運営を図るため、業務執行規程を定め、業務組織における主要業務の分掌ならびに権限および責任を明確にしております。

重要な情報が識別され適切に経営層に報告されるとともに、指示事項が組織全体に確実に伝達されるための仕組みを整備、運用しております。

e. 企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ・子会社の取締役等および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

グループ内部統制ガイドラインの周知により、内部統制の実効性を高めるとともに、子会社に対し、セルフチェック、内部監査等の手法を組み合わせモニタリングを実施し、業務の適正を確保しております。

東急グループCSR推進委員会を開催し、企業集団としてCSR活動を一体的に推進しております。

連結経理に関するガイドライン等により財務報告に係る内部統制の整備、運用を行うとともに、評価を実施し、不備を是正しております。

- ・子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する事項

グループ経営基本規程に基づいて、子会社から当社へ必要な報告を行わせるとともに、子会社の重要業務の執行等について当社の取締役会、経営会議において審議・報告しております。

- ・子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

グループ経営基本規程に基づいて、当社は子会社に対しリスクの把握、評価、対応を行わせるとともに、東急グループ安全推進会議等を開催し、企業集団として安全管理活動を一体的に推進しております。

- ・子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

東急グループコーポレート会議を開催し、グループ経営の方針を決定するとともに、グループ会社経営会議等を開催し、子会社の経営実態を把握し、評価しております。

f. 監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項

専任部署として監査役会事務局を設置し、その事務局の使用人は監査役の指示に基づきその職務を行っております。

当該使用人の人事異動については、監査役と事前協議を行っております。

g. 監査役への報告に関する体制

重要な意思決定の過程および業務の執行状況の把握に資するため、取締役会その他の重要な社内会議への監査役の出席の機会を確保するとともに、当社および子会社の役職員からの監査役への適切な報告を実施しております。

当社および子会社の著しい損害が生じるおそれのある事実その他重要な事項について監査役に報告するとともにリスクの管理の状況について監査役に報告しております。

内部監査部門は当社および子会社の内部監査の結果等の適切な報告を行い、緊密な連携を保っております。

当該報告を行った当社および子会社の役職員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な扱いをいたしません。

h. 監査役の職務の執行について生ずる費用等の処理に係る方針

監査役がその職務を執行するうえで必要な費用については、監査役と協議のうえ毎年度予算措置を行い、その費用の前払い等が必要な場合には、監査役の請求により担当部署において速やかに対応することとしております。

i. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

常勤監査役が子会社等の常勤監査役と監査方針・監査方法などの協議・情報交換を行うために定期的に開催する東急グループ常勤監査役会議および連結会社常勤監査役連絡会において、情報提供などの協力を行っております。

ニ. 責任限定契約の締結

当社は、各社外取締役および各社外出身の監査役との間で、職務を行うにつき、善意でかつ重大な過失がないときは、会社法第423条第1項の責任について、会社法第427条第1項に基づき、会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額を限度とする契約を締結しております。

② 内部監査および監査役監査の状況（平成30年6月28日現在）

イ. 内部監査

当社は、内部統制室に内部監査部門（18名）を設置して、会社業務の全般にわたり内部監査を実施することにより、会社経営の実態を正確に把握検討し、業務の改善を促進させる体制をとるとともに、内部監査の結果を経営者、監査役に報告しております。さらに連結子会社を含め経営の適正性を確保することを目的とした内部監査を強化し、継続的に実施しております。また、財務報告の信頼性を確保するため、16名の専任者を中心に財務報告に係る内部統制の整備・運用を進めております。

ロ. 監査役監査

当社は、4名の監査役のうち3名を社外から招聘し、経営者としての高い見識と独立した視点からの意見を求め、それを経営に適切に反映させるよう努めております。また1名は、長年にわたり当社にて事業部門を統括した豊富な経験と知識を有した人材を配置しております。なお、監査役の職務を補助する専任部署として、5名からなる監査役会事務局を設置し、監査役の指示に基づきその職務を遂行しております。

監査役は、監査役監査基準と監査役会規程の定めるところにより、当社の会計監査、業務監査に当たるとともに、企業集団内部統制システム監査の機能強化に取り組んでおります。常勤監査役による主要子会社の非常勤監査役の兼務や主要子会社監査役との日常的な連携に加え、東急グループ常勤監査役会議および連結会社常勤監査役連絡会の定例開催を通じて、企業集団として監査に係る情報の共有、監査の質的向上を図っております。

ハ. 内部統制部門、内部監査、監査役監査、会計監査の相互連携

監査役は、毎月内部統制室、サステナビリティ推進部等から連結子会社を含めた内部監査結果、内部通報状況、トラブル情報等の報告を受け、積極的に意見交換と緊密な連携を図っております。また、当社の会計監査人である新日本有限責任監査法人、常勤監査役と当社執行部門（内部監査部門を含む）は毎月連絡会を開催し、会計監査実施状況並びに当社および関係会社の監査に関する情報の交換を行っております。

③ 会計監査の状況

当事業年度において会計監査業務を執行した公認会計士は次のとおりです。

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
指定有限責任社員 業務執行社員	杉山 義勝	新日本有限責任監査法人
	成田 智弘	
	照内 貴	

(注) 継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 14名 会計士補等 5名 その他 8名

④ 社外取締役および社外監査役（平成30年6月28日現在）

イ. 社外取締役および社外監査役

当社の社外取締役は4名、社外監査役は2名であります。また、当社では社外取締役および社外監査役（以下総称して「社外役員」という。）を選任するにあたって、東京証券取引所が定める独立性基準に加え、当社独自の「社外役員の独立性判断基準」を制定し、その要件を満たす社外役員を全て独立役員に指定しており、社外役員5名を一般株主と利益相反の生じるおそれがないと判断し、東京証券取引所が定める独立役員として同取引所に届け出ております。

なお、「社外役員の独立性判断基準」は以下の通りです。

・社外役員の独立性判断基準

当社は、東京証券取引所が定める独立性基準に加え、以下の各要件のいずれにも該当しない者は、独立性を有するものと判断する。

- (i) 「過去3事業年度のいずれかにおいて、当社の連結売上の2%以上を占める取引先」の業務執行者
- (ii) 「過去3事業年度のいずれかにおいて、当社が売上の2%以上を占める取引先」の業務執行者
- (iii) 「過去3事業年度のいずれかにおいて、当社の連結総資産の2%以上を占める借入先」の業務執行者
- (iv) 「過去3事業年度のいずれかにおいて、出資比率10%以上の当社の主要株主および出資先」の業務執行者
- (v) 過去3事業年度のいずれかにおいて、当社から年間10百万円超の報酬を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- (vi) 当社および連結子会社の取締役等の配偶者または二親等以内の親族

ロ. 社外取締役および社外監査役の機能・役割、選任状況に関する考え方ならびに当社との関係

当社の社外取締役である小長啓一は、通商産業行政、企業経営、財界活動などを通じた豊富な経験と幅広い見識を当社の経営に反映していただくため、社外取締役として選任し、さらに独立役員として指定しているものであります。また同氏個人と当社との間で特別な利害関係はありません。なお、同氏は一般財団法人産業人材研修センターの理事長であり、当社は同法人との間に研修費等の取引がありますが、一般取引先と同様の条件で特記すべき取引関係にはなく、当社の経営に影響を与えるものではありません。

同じく社外取締役である金指潔は、主に不動産業界における経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の経営に反映していただくため、社外取締役として選任しているものであります。また同氏個人と当社との間で特別な利害関係はありません。なお、同氏は当社の関連会社である東急不動産ホールディングス株式会社の代表取締役会長および東急不動産株式会社の取締役会長であり、東急不動産株式会社は当社と同一の事業の部類に属する事業を行っており、当社との間に施設賃貸借等の取引がありますが、一般取引先と同様の条件で特記すべき取引関係にはなく、当社の経営に影響を与えるものではありません。

同じく社外取締役である蟹瀬令子は、リテール事業、マーケティングに関する豊富な経験と幅広い見識を当社の経営に反映していただくため、社外取締役として選任し、さらに独立役員として指定しているものであります。また同氏個人と当社との間で特別な利害関係はありません。

同じく社外取締役である岡本圀衛は、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有しており、これまで社外監査役として、その専門的見地から当社の経営執行の監査を行うとともに、当社の重要な経営判断の場において適切な助言および提言を行ってきた実績を踏まえ、社外取締役として選任し、さらに独立役員として指定しているものであります。また同氏個人と当社との間で特別な利害関係はありません。なお、同氏は日本生命保険相互会社の取締役相談役であり、同社から当社は、平成30年3月末時点で借入金残高全体の約3%に相当する21,017百万円の借入金残高が存在しますが、一般取引先と同様の条件で特記すべき取引関係にはなく、当社の経営に影響を与えるものではありません。

当社の社外監査役である斎藤勝利は、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の監査に反映していただくため、社外監査役として選任し、さらに独立役員として指定しているものであります。また同氏個人と当社との間で特別な利害関係はありません。なお、同氏は第一生命保険株式会社の特別顧問であり、同社から当社は、平成30年3月末時点で借入金残高全体の約4%に相当する29,481百万円の借入金残高が存在しますが、一般取引先と同様の条件で特記すべき取引関係にはなく、当社の経営に影響を与えるものではありません。

同じく社外監査役である石原邦夫は、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の監査に反映していただくため、社外監査役として選任し、さらに独立役員として指定しているものであります。また同氏個人と当社との間で特別な利害関係はありません。なお、同氏は東京海上日動火災保険株式会社の相談役であり、当社は同社との間に損害保険料等の取引がありますが、一般取引先と同様の条件で特記すべき取引関係にはなく、当社の経営に影響を与えるものではありません。

ハ、内部監査、監査役監査および会計監査との連携

社外取締役は、取締役会にて、内部監査および内部統制に関する事項に加え、鉄軌道事業の安全に対する取り組みや全社的重要リスク項目への対応等についての報告を定期的に行うことにより、業務の適正を確保するための体制の整備・運用状況を監督しております。

社外監査役は、取締役会への出席に加え、監査役会において業務統括担当役員等に内部統制システムやリスク管理の状況につき報告を求め、改善を要する点を指摘する等、相互連携を図りつつ監査の実効性を確保することに努めております。また、会計監査人から定期的に職務の執行状況の報告を受け、積極的な意見、情報交換を行っております。

⑤ 役員報酬等

イ、役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)		対象となる役員の員数 (名)
		基本報酬	株式報酬	
取締役	508	455	53	18
(うち社外取締役)	(33)	(33)	(-)	(4)
監査役	82	82	-	5
(うち社外監査役)	(57)	(57)	(-)	(4)

(注) 1. 上記には、平成30年3月31日をもって辞任した1名を含んでおります。

2. 取締役の報酬額は、平成19年6月28日開催の第138期定時株主総会において年額550百万円以内（うち社外取締役分45百万円以内、使用人兼務取締役の使用人分給与を除く）と決議いたしております。

3. 監査役の報酬額は、平成19年6月28日開催の第138期定時株主総会において年額90百万円以内と決議いたしております。

4. 株式報酬の額は、上記（注）2. とは別枠で、平成29年6月29日開催の当社第148期定時株主総会において決議した株式報酬制度に基づき費用計上した額を記載しております。

ロ. 役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため記載しておりません。

ハ. 役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容および決定方法

a. 取締役に対する報酬の額またはその算定方法の決定方針

取締役の報酬額等については、取締役会の諮問機関である報酬委員会に一任し、決定をしております。

なお、報酬制度は、中長期的な企業価値の向上および株主価値最大化への貢献意識を一層高めることを目的として、取締役の役割と責任に値する報酬および担当する部門の業績に連動する報酬、ならびに株主と取締役との一層の価値共有を図る株式報酬から成り立つ体系としております。

b. 役員報酬の決定について

役員の報酬は、役位等をもとにして定めた基準額をベースに、毎年の業績や従業員給与の動向を反映し次年度の基本報酬額を算定しており、上場企業等他社、主に公共性の高い企業の役員報酬水準も参考にしながら、株主総会で決議された総額の範囲内で支給しております。また、取締役（社外取締役を除く）の株式報酬については、株式交付信託を活用し、役位等に応じて付与される株式交付ポイントに基づき、当社株式および金銭を交付および給付します。

なお、取締役の報酬については取締役会の諮問機関である報酬委員会に一任し、監査役の報酬については監査役間で協議の上、それぞれ決定しております。

⑥ 取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨、定款に定めております。

⑦ 取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

⑧ 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項に基づき、取締役会の決議によって自己株式を取得することができる旨、定款に定めております。これは、機動的な資本政策の遂行を可能とするためであります。

⑨ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨、定款に定めております。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨、定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、特別決議を機動的に行うなど株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑪ 株式の保有状況（平成30年3月31日現在）

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
65銘柄 42,789百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、主な銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
第一生命ホールディングス(株)	3,734,400	7,455	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
東急リアル・エステート投資法人	49,000	6,860	当社は同法人のスポンサーであり、不動産物件取引等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
東映(株)	6,000,000	5,706	当社および連結子会社におけるエンターテインメントやメディア事業等の連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため
京浜急行電鉄(株)	2,226,891	2,721	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	3,479,000	2,434	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
京王電鉄(株)	2,405,400	2,121	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため
小田急電鉄(株)	955,055	2,068	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため
日本航空(株)	529,400	1,866	当社および連結子会社におけるカード事業やインバウンド施策、旅行事業等での事業連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため
ANAホールディングス(株)	4,000,000	1,359	当社および連結子会社におけるカード事業やインバウンド施策、旅行事業等での事業連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)ぐるなび	420,400	979	当社および連結子会社におけるインバウンド施策やTOKYUポイント等での事業連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)コンコルディア・フィナンシャルグループ	697,000	359	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)三菱総合研究所	100,000	322	当社不動産事業の主要顧客である他、当社各事業における調査業務の委託先として、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)西武ホールディングス	165,300	303	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため
スルガ銀行(株)	92,500	216	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	48,362	186	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
(株)八十二銀行	260,000	163	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)みずほフィナンシャルグループ	425,982	86	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
KDD I (株)	6,600	19	当社および連結子会社における通信事業の事業連携先である他、当社不動産事業の主要顧客であり、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	3,800	15	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
東武鉄道(株)	22,924	12	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	9,645,500	6,748	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	1,692,200	6,531	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
松竹(株)	2,062,600	2,704	当社および連結子会社におけるエンターテインメントやメディア事業等の連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
(株)T&Dホールディングス	1,177,940	1,903	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
(株)ぐるなび	702,600	1,637	当社および連結子会社におけるインバウンド施策やTOKYUポイント等での事業連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
(株)みずほフィナンシャルグループ	7,654,000	1,561	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
(株)コンコルディア・フィナンシャルグループ	2,090,000	1,077	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)

- (注) 1. 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。
2. 第一生命保険(株)は、平成28年10月1日付で会社分割により持株会社へ移行し、商号を第一生命ホールディングス(株)に変更しております。
3. 小田急電鉄(株)は、平成28年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しております。
4. 三井住友トラスト・ホールディングス(株)は、平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
第一生命ホールディングス(株)	3,734,400	7,254	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
東急リアル・エステート投資法人	49,000	7,188	当社は同法人のスポンサーであり、不動産物件取引等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
東映(株)	600,000	6,948	当社および連結子会社におけるエンターテインメントやメディア事業等の連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため
東日本旅客鉄道(株)	274,800	2,710	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	3,479,000	2,424	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
日本航空(株)	529,400	2,266	当社および連結子会社におけるカード事業やインバウンド施策、旅行事業等での事業連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため
京王電鉄(株)	481,080	2,186	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため
京浜急行電鉄(株)	1,113,445	2,059	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため
小田急電鉄(株)	955,055	2,056	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため
ANAホールディングス(株)	400,000	1,647	当社および連結子会社におけるカード事業やインバウンド施策、旅行事業等での事業連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)ぐるなび	420,400	623	当社および連結子会社におけるインバウンド施策やTOKYUポイント等での事業連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)コンコルディア・フィナンシャルグループ	697,000	409	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)三菱総合研究所	100,000	335	当社不動産事業の主要顧客である他、当社各事業における調査業務の委託先として、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)西武ホールディングス	165,300	306	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	48,362	208	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
(株)八十二銀行	260,000	148	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
スルガ銀行(株)	92,500	135	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)みずほフィナンシャルグループ	425,982	81	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
KDDI(株)	6,600	17	当社および連結子会社における通信事業の事業連携先である他、当社不動産事業の主要顧客であり、良好な関係の維持・強化を図るため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	3,800	16	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため
東武鉄道(株)	4,584	14	同業としての事業連携・情報交換の他、連結子会社での取引があり、良好な関係の維持・強化を図るため

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	1,692,200	7,288	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	9,645,500	6,722	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
松竹(株)	206,260	3,112	当社および連結子会社におけるエンターテイメントやメディア事業等の連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
(株)T&Dホールディングス	1,177,940	1,988	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
(株)みずほフィナンシャルグループ	7,654,000	1,464	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
(株)コンコルディア・フィナンシャルグループ	2,090,000	1,226	当社および連結子会社での金融取引や事業情報収集等の主要関係先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)
(株)ぐるなび	702,600	1,041	当社および連結子会社におけるインバウンド施策やTOKYUポイント等での事業連携先として、良好な関係の維持・強化を図るため (議決権行使の指図権を有する)

(注) 1. 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

2. 東映(株)およびANAホールディングス(株)は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。
3. 京王電鉄(株)および東武鉄道(株)は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。
4. 京浜急行電鉄(株)は、平成29年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しております。
5. 松竹(株)は、平成29年9月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。

ハ. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額ならびに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額
該当事項はありません。

ニ. 投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更をしたものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額
該当事項はありません。

ホ. 投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更をしたものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額
該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	180	—	168	0
連結子会社	166	1	162	—
計	347	1	330	0

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社は、監査公認会計士等に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）である社内向けセミナーの講師に対する対価を支払っております。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査時間数や監査内容等を勘案し、監査役会の同意を得た上で決定しております。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)第2条の規定に基づき、同規則並びに「鉄道事業会計規則」(昭和62年運輸省令第7号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等に的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構への加入並びに同機構や監査法人等各種団体の開催するセミナー等に参加しております。また、企業会計基準やディスクロージャー制度等に関する刊行物や資料を受領し、関係部署にて内容の確認を行っております。その他、当社及び連結子会社に対し、連結決算に関するガイドラインやマニュアル等を配備し、適時更新する体制を整備しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	※2 40,500	※2 39,007
受取手形及び売掛金	139,830	156,642
商品及び製品	14,975	14,454
分譲土地建物	※2 40,453	※2,※5 44,299
仕掛品	7,264	11,533
原材料及び貯蔵品	6,838	7,581
繰延税金資産	7,814	7,696
その他	33,771	39,876
貸倒引当金	△901	△1,001
流動資産合計	290,545	320,088
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※2,※3 720,125	※2,※3 728,891
機械装置及び運搬具（純額）	※2,※3 56,641	※2,※3 62,967
土地	※2,※3,※7 683,067	※2,※3,※7 697,118
建設仮勘定	120,547	158,858
その他（純額）	※2,※3 24,652	※2,※3 25,667
有形固定資産合計	1,605,034	1,673,502
無形固定資産	※2 33,380	※2 35,633
投資その他の資産		
投資有価証券	※1,※2,※6 141,580	※1,※2,※6 154,814
退職給付に係る資産	7,147	8,638
繰延税金資産	6,593	7,314
その他	64,867	65,261
貸倒引当金	△543	△617
投資その他の資産合計	219,644	235,411
固定資産合計	1,858,060	1,944,548
資産合計	2,148,605	2,264,636

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※2 90,074	※2 99,958
短期借入金	※2, ※3 308,464	※2, ※3 305,355
1年内償還予定の社債	8,000	25,000
未払法人税等	8,082	17,958
賞与引当金	11,405	11,448
前受金	23,375	37,541
その他	120,352	120,768
流動負債合計	569,754	618,030
固定負債		
社債	228,228	203,228
長期借入金	※2, ※3 419,705	※2, ※3 436,210
繰延税金負債	20,320	21,920
再評価に係る繰延税金負債	※7 9,174	※7 9,171
商品券回収損引当金	2,151	2,319
退職給付に係る負債	38,374	37,958
長期預り保証金	119,231	127,925
その他	43,202	43,252
固定負債合計	880,388	881,986
特別法上の準備金		
特定都市鉄道整備準備金	※4 20,080	※4 17,570
負債合計	1,470,223	1,517,587
純資産の部		
株主資本		
資本金	121,724	121,724
資本剰余金	131,842	133,132
利益剰余金	383,565	442,691
自己株式	△29,696	△29,092
株主資本合計	607,436	668,455
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,366	15,551
繰延ヘッジ損益	△8	△35
土地再評価差額金	※7 8,388	※7 8,384
為替換算調整勘定	4,787	6,083
退職給付に係る調整累計額	△6,663	△1,912
その他の包括利益累計額合計	20,871	28,070
非支配株主持分	50,074	50,522
純資産合計	678,382	747,049
負債純資産合計	2,148,605	2,264,636

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
営業収益	1,117,351	1,138,612
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	※2,※5 833,215	※2,※5 849,412
販売費及び一般管理費	※1,※2 206,161	※1,※2 206,281
営業費合計	1,039,376	1,055,693
営業利益	77,974	82,918
営業外収益		
受取利息	205	301
受取配当金	882	970
持分法による投資利益	8,314	8,372
その他	4,660	5,334
営業外収益合計	14,063	14,978
営業外費用		
支払利息	10,030	9,415
その他	5,558	4,734
営業外費用合計	15,588	14,149
経常利益	76,449	83,746
特別利益		
固定資産売却益	※3 712	※3 14,383
工事負担金等受入額	8,660	3,173
特定都市鉄道整備準備金取崩額	2,510	2,510
その他	252	3,719
特別利益合計	12,134	23,786
特別損失		
工事負担金等圧縮額	6,613	2,719
固定資産除却損	1,037	1,264
減損損失	※4 2,187	※4 2,855
関係会社整理損	—	※6 2,607
その他	937	2,018
特別損失合計	10,775	11,464
税金等調整前当期純利益	77,808	96,069
法人税、住民税及び事業税	17,024	26,402
法人税等調整額	△8,009	△2,015
法人税等合計	9,014	24,386
当期純利益	68,793	71,682
非支配株主に帰属する当期純利益	1,503	1,586
親会社株主に帰属する当期純利益	67,289	70,095

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
当期純利益	68,793	71,682
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,690	1,584
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	△2,799	825
退職給付に係る調整額	5,893	4,613
持分法適用会社に対する持分相当額	93	△113
その他の包括利益合計	※ 4,879	※ 6,909
包括利益	73,673	78,591
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	72,946	77,299
非支配株主に係る包括利益	726	1,292

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計
当期首残高	121,724	131,666	327,405	△19,088	561,708
当期変動額					
剰余金の配当			△11,080		△11,080
親会社株主に帰属する 当期純利益			67,289		67,289
土地再評価差額金の取崩			△50		△50
自己株式の取得				△11,699	△11,699
自己株式の処分		0		1,091	1,092
連結子会社からの 自己株式の取得による 剰余金の増加		162			162
支配継続子会社に対する 持分変動		13		△0	13
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	176	56,159	△10,607	45,728
当期末残高	121,724	131,842	383,565	△29,696	607,436

	その他の包括利益累計額						非支配株主 持分	純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額 合計		
当期首残高	12,577	43	8,338	6,835	△12,630	15,164	46,424	623,297
当期変動額								
剰余金の配当								△11,080
親会社株主に帰属する 当期純利益								67,289
土地再評価差額金の取崩								△50
自己株式の取得								△11,699
自己株式の処分								1,092
連結子会社からの 自己株式の取得による 剰余金の増加								162
支配継続子会社に対する 持分変動								13
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	1,788	△51	50	△2,047	5,966	5,706	3,649	9,356
当期変動額合計	1,788	△51	50	△2,047	5,966	5,706	3,649	55,084
当期末残高	14,366	△8	8,388	4,787	△6,663	20,871	50,074	678,382

(注) 連結子会社からの自己株式の取得による剰余金の増加

会社法第156条第1項及び第163条の規定に基づき、平成28年11月10日の当社取締役会決議により当社連結子会社である(株)東急レクリエーションが保有する当社株式を取得したことに伴う税金費用の調整により、資本剰余金が増加したものであります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計
当期首残高	121,724	131,842	383,565	△29,696	607,436
当期変動額					
剰余金の配当			△10,973		△10,973
親会社株主に帰属する 当期純利益			70,095		70,095
土地再評価差額金の取崩			3		3
自己株式の取得				△583	△583
自己株式の処分		△0		1,186	1,186
連結子会社からの 自己株式の取得による 剰余金の増加					—
支配継続子会社に対する 持分変動		1,289			1,289
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	1,289	59,125	603	61,018
当期末残高	121,724	133,132	442,691	△29,092	668,455

	その他の包括利益累計額						非支配株主 持分	純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額 合計		
当期首残高	14,366	△8	8,388	4,787	△6,663	20,871	50,074	678,382
当期変動額								
剰余金の配当								△10,973
親会社株主に帰属する 当期純利益								70,095
土地再評価差額金の取崩								3
自己株式の取得								△583
自己株式の処分								1,186
連結子会社からの 自己株式の取得による 剰余金の増加								—
支配継続子会社に対する 持分変動								1,289
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	1,184	△27	△3	1,295	4,750	7,199	448	7,647
当期変動額合計	1,184	△27	△3	1,295	4,750	7,199	448	68,666
当期末残高	15,551	△35	8,384	6,083	△1,912	28,070	50,522	747,049

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	77,808	96,069
減価償却費	76,986	74,901
のれん償却額	305	12
減損損失	2,187	2,855
退職給付費用	4,578	3,591
特定都市鉄道整備準備金の増減額 (△は減少)	△2,510	△2,510
工事負担金等受入額	△8,660	△3,173
工事負担金等圧縮額	6,613	2,719
固定資産売却損益 (△は益)	△707	△13,949
固定資産除却損	10,711	8,771
関係会社整理損益 (△は益)	—	2,607
持分法による投資損益 (△は益)	△8,314	△8,372
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,358	△17,349
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△7,399	△5,368
仕入債務の増減額 (△は減少)	△4,660	10,027
前受金の増減額 (△は減少)	1,300	5,360
預り保証金の増減額 (△は減少)	678	8,695
未払消費税等の増減額 (△は減少)	2,405	1,456
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	1,202	2,179
受取利息及び受取配当金	△1,088	△1,271
支払利息	10,030	9,415
その他	9,596	△622
小計	164,706	176,047
利息及び配当金の受取額	2,936	3,267
利息の支払額	△10,148	△9,519
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△31,138	△17,237
営業活動によるキャッシュ・フロー	126,356	152,558

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△140,171	△176,991
固定資産の売却による収入	2,404	23,309
固定資産の除却による支出	△2,163	△2,818
投資有価証券の取得による支出	△1,161	△5,258
投資有価証券の売却による収入	42	1,059
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	※2 1,202
工事負担金等受入による収入	8,495	12,753
その他	243	1,363
投資活動によるキャッシュ・フロー	△132,310	△145,378
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	18,769	746
長期借入れによる収入	62,563	60,425
長期借入金の返済による支出	△74,131	△47,725
コマーシャル・ペーパーの発行による収入	25,000	216,000
コマーシャル・ペーパーの償還による支出	△25,000	△216,000
社債の発行による収入	39,697	—
社債の償還による支出	△20,000	△8,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△4,003	△3,868
自己株式の取得による支出	△10,079	△583
配当金の支払額	△11,080	△10,973
非支配株主からの払込みによる収入	1,953	1,531
非支配株主への配当金の支払額	△519	△610
その他	△91	1,165
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,078	△7,892
現金及び現金同等物に係る換算差額	△210	△788
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,086	△1,501
現金及び現金同等物の期首残高	42,909	39,823
現金及び現金同等物の期末残高	※1 39,823	※1 38,322

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社数 129社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載のとおりであります。

TOKYU DEVELOPMENT CO., LTD. を新規設立により、新たに連結の範囲に含めております。また、(株)SHIBUYA109エンタテイメントは(株)東急モルズデベロップメントより会社分割(新設分割)によって子会社となり、新たに連結の範囲に含めております。

(株)松本東急REIホテルを会社清算により、ニッポンレンタカー北海道(株)を株式売却により、それぞれ連結の範囲から除外しております。

非連結子会社は(株)バンコク東急百貨店等3社であります。非連結子会社は、小規模であり、総資産、営業収益、当期純損益及び利益剰余金等のうち持分に見合う額の合計がいずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、非連結子会社としております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の非連結子会社は、(株)バンコク東急百貨店等2社であります。また、持分法適用の関連会社は東急不動産ホールディングス(株)、東急建設(株)等20社であります。

(株)リンクレイマーケティング他4社を新規設立により、新たに持分法の適用の範囲に含めております。

持分法非適用の非連結子会社1社及び関連会社5社は、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。持分法非適用非連結子会社は一般社団法人キッズコーチ協会、持分法非適用関連会社はクレードル興農(株)他4社であります。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なるものは次のとおりであります。

(A) 12月31日決算会社

(株)東急レクリエーション、
(株)広島東急レクリエーション、
(株)熊本東急レクリエーション、
(株)ティーアール・フーズ、
(株)ティーアール・サービス、
東急リネン・サプライ(株)、
東急ジオックス(株)、
渋谷宮下町リアルティ(株)、
マウナ ラニ リゾート(オペレーション)(株)、
マウナ ラニ リアルティ(株)、
ヤンチェップ サン シティ(株)、
セントアンドリュース プライベート エステート(株)、
ベカメックス東急有限会社、
ベカメックス東急バス有限会社、
サハ東急コーポレーション(株)、
東急商務諮詢(上海)有限公司、
東急商業發展(香港)有限公司、
TOKYU DEVELOPMENT CO., LTD.

1月31日決算会社

(株)東急文化村、
(株)東急百貨店、
渋谷地下街(株)、
(株)ながの東急百貨店、
(株)北長野ショッピングセンター、
(株)東急タイム、
(株)東急百貨店サービス、
(株)セントラルフーズ、
(株)みなとみらい東急スクエア

2月28日決算会社
㈱東急ストア、東光食品㈱、
㈱東光フローラ、東光サービス㈱、
C Tリアルティ有限会社

(B) 6月30日決算会社
合同会社ニュー・パースペクティブ・ワン

- (A) 連結子会社のうち、東急ジオックス㈱等32社については各社の決算財務諸表を基礎としておりますが、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。
- (B) 合同会社ニュー・パースペクティブ・ワンについては、連結決算日現在で実施した本決算に準じた仮決算に基づく財務諸表を基礎としております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券（投資その他の資産を含む）

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定）

時価のないもの

主として移動平均法による原価法

なお、匿名組合出資金（その他有価証券）については、匿名組合の損益のうち帰属する持分相当損益を「営業外損益」に計上するとともに「投資有価証券」を加減する処理を行っております。

(ロ) デリバティブ

時価法

(ハ) たな卸資産

分譲土地建物については主として地区別総平均法による原価法及び個別法による原価法、その他については、各業種に応じ個別法による原価法、総平均法による原価法、最終仕入原価法による原価法、先入先出法による原価法、売価還元法による原価法、移動平均法による原価法（いずれも貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産（リース資産を除く）については、定率法によるほか当社の一部賃貸施設及び一部連結子会社については定額法との併用を行っております。

ただし、当社及び国内連結子会社については、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降取得した建物附属設備及び構築物について、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は建物及び構築物が2年～75年であります。

(ロ) 無形固定資産（リース資産を除く）については、定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、各社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(ハ) 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする、定額法を採用しております。

(3) 重要な繰延資産の処理方法

社債発行費等及び株式交付費は支出時に全額費用として処理しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ) 賞与引当金

使用人及び使用人兼務役員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額基準により設定しております。

(ハ) 商品券回収損引当金

商品券等が負債計上中止後に回収された場合に発生する損失に備えるため、過去の実績に基づく将来の回収見込額を計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

(イ) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、主として期間定額基準によっております。

(ロ) 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、主としてその発生時の使用人の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用は、主としてその発生時の使用人の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により費用処理することとしております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は主として期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(7) 特別法上の準備金

特定都市鉄道整備準備金は、特定都市鉄道整備促進特別措置法第8条の規定により取り崩しております。

(8) 鉄軌道業における工事負担金等の処理方法

当社及び当社の連結子会社であります伊豆急行㈱及び上田電鉄㈱において、工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しております。

なお、連結損益計算書においては、工事負担金等受入額を特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を、工事負担金等圧縮額として特別損失に計上しております。

また、工事負担金等を受け入れた工事費のうち、撤去済の仮設構造物等に係る部分については、営業費（固定資産除却費等）に計上しております。

(9) 重要なヘッジ会計の方法

(イ) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を、金利通貨スワップについて一体処理（特例処理、振当処理）の要件を満たしている場合は一体処理を採用しております。また、為替予約について振当処理の要件を満たす場合は振当処理を採用しております。

(ロ) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 金利スワップ、金利通貨スワップ、為替予約

ヘッジ対象 借入金、外貨建社債、外貨建借入金、外貨建金銭債務

(ハ) ヘッジ方針

当社は、取引の権限等を定めた基準を業務執行規程の中において設けており、この基準に基づき、金利変動リスク及び為替変動リスクをヘッジしております。また、連結子会社においても、内部規程に基づき、主に事業活動上生じる金利変動リスク及び為替変動リスクを回避するため、デリバティブ取引を利用しております。

(ニ) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象について、それぞれの既に経過した期間についてキャッシュ・フロー変動額の比率で判定しております。

- (10) のれんの償却方法及び償却期間
のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。ただし、重要性のないものは、一括償却しております。
- (11) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (12) 消費税等の会計処理
税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(公共施設等運営事業における運営権者の会計処理等に関する実務上の取扱いの適用)

「公共施設等運営事業における運営権者の会計処理等に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第35号 平成29年5月2日)を当連結会計年度から適用しております。

なお、当該変更による連結財務諸表への影響はありません。

(未適用の会計基準等)

(税効果会計に係る会計基準の適用指針等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日)

1. 概要

個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取り扱いが見直され、また(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いの明確化が行われております。

2. 適用予定日

平成31年3月期の期首より適用予定であります。

3. 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(収益認識に関する会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

1. 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

2. 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

3. 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

1. 前連結会計年度において、「営業外費用」に独立掲記しておりました「固定資産解体費」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」に表示していた「固定資産解体費」790百万円、「その他」4,768百万円は、「その他」5,558百万円として組み替えております。

2. 前連結会計年度において、「特別損失」の「その他」に含めていた「固定資産除却損」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。また、前連結会計年度において、「特別損失」に独立掲記されておりました「固定資産売却損」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別損失」の「その他」に表示していた1,970百万円、「固定資産売却損」に表示していた4百万円は、「固定資産除却損」1,037百万円、「その他」937百万円として組み替えております。

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度において、「資本剰余金」13百万円、「自己株式」△0百万円、「株主資本合計」及び「純資産合計」13百万円と「当期変動額」に表示しておりました「その他」は、「支配継続子会社に対する持分変動」として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に独立掲記しておりました「固定資産解体費」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「固定資産解体費」790百万円、「その他」8,806百万円は、「その他」9,596百万円として組み替えております。

(追加情報)

(従業員持株E S O P信託について)

当社は、平成27年9月に、中長期的な企業価値向上と福利厚生 of 拡充を目的とした従業員インセンティブ・プラン「従業員持株E S O P信託」を導入しております。

(1) 取引の概要

E S O P信託とは、米国のE S O P (Employee Stock Ownership Plan) 制度を参考に、従業員持株会の仕組みを応用した信託型の従業員インセンティブ・プランであり、当社株式を活用した従業員の財産形成を促進する貯蓄制度の拡充(福利厚生制度の拡充)を図る目的を有するものをいいます。

当社が「東急グループ従業員持株会」(以下「持株会」といいます。)に加入する従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者とする信託を設定し、当該信託は一定期間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を、予め定める取得期間中に取得します。その後、当該信託は当社株式を毎月一定日に持株会に売却します。信託終了時に、株価の上昇により信託収益がある場合には、受益者たる従業員の拠出割合等に応じて金銭が分配されます。株価の下落により売却損失が生じ信託財産に係る債務が残る場合には、金銭消費貸借契約の保証条項に基づき、当社が銀行に対して一括して返済するため、従業員の追加負担はありません。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度3,710百万円、2,202千株、当連結会計年度2,528百万円、1,500千株であります。

(注) 当社は、平成29年8月1日付で株式併合(普通株式2株を1株に併合)を実施しており、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、信託に残存する当社株式数を算定しております。

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額
前連結会計年度3,690百万円、当連結会計年度2,512百万円

(役員報酬BIP信託について)

当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会決議に基づき、当社取締役及び執行役員等（社外取締役及び海外居住者を除きます。以下「取締役等」といいます。）に対し、中長期的な業績向上及び株主価値の最大化への貢献意識を一層高めることを目的として、株式報酬制度を導入しております。本制度を導入するにあたり、「役員報酬BIP信託」と称される仕組みを採用しております。

(1) 取引の概要

役員報酬BIP（Board Incentive Plan）信託とは、信託が取得した当社株式及び当社株式の換価処分金相当額の金銭を、役員等に応じて、原則として取締役等の退任時に交付及び給付する制度です。

なお、本制度の対象期間は、平成30年3月末日で終了する事業年度から平成34年3月末日で終了する事業年度までの5年間です。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当連結会計年度531百万円、325千株であります。

(連結貸借対照表関係)

1. 有形固定資産減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	1,094,551百万円	1,114,920百万円

2. 偶発債務

(1) 企業集団以外の会社などに対し、債務保証を次のとおり行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
金融機関等からの借入		
住宅融資保証	37百万円	30百万円
その他	10	10
計	47	41

(2) 社債の債務履行引受契約に係る偶発債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
第62回無担保普通社債	10,000百万円	10,000百万円

3. ※1 非連結子会社及び関連会社に係る注記

以下の科目に含まれる非連結子会社及び関連会社に対する主なものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券	91,158百万円	99,750百万円

4. ※2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)		当連結会計年度 (平成30年3月31日)	
分譲土地建物	247百万円	(100百万円)	272百万円	(13百万円)
建物及び構築物	370,984	(346,163)	385,450	(345,988)
機械装置及び運搬具	40,392	(40,349)	46,289	(46,016)
土地	135,940	(71,395)	136,304	(72,618)
投資有価証券	14	(0)	14	(0)
その他の資産	14,666	(14,138)	15,006	(13,995)
計	562,247	(472,046)	583,338	(478,632)

(注) 上記のほか、連結処理により相殺消去されている以下の資産を担保に供しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	2,703百万円	357百万円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)		当連結会計年度 (平成30年3月31日)	
短期借入金	15,799百万円	(10,923百万円)	16,228百万円	(10,735百万円)
長期借入金	83,931	(42,791)	77,915	(32,157)
その他	3,718	(0)	3,855	(0)
計	103,449	(53,714)	97,999	(42,893)

上記のうち () 内書は鉄道財団抵当、軌道財団抵当、道路交通事業財団抵当及び当該債務を示しております。

5. ※3 ノンリコース債務

ノンリコース債務は、次のとおりであります。

なお、下記の金額は、「4. 担保資産及び担保付債務」に記載の金額に含めております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	500百万円	500百万円
長期借入金	31,350百万円	44,560百万円

ノンリコース債務に対応する資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物及び構築物	19,822百万円	34,444百万円
機械装置及び運搬具	43	272
土地	53,883	53,883
その他	122	605
計	73,871	89,205

(注) 上記のほか、連結処理により相殺消去されている以下の資産を担保に供しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	100百万円	357百万円

6. ※4 特定都市鉄道整備準備金のうち一年内に使用されると認められるもの

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	2,510百万円	2,510百万円

7. 固定資産の取得原価から直接減額された工事負担金等累計額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	206,180百万円	208,610百万円

8. ※5 保有目的の変更による固定資産から分譲土地建物への振替額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	－百万円	1,842百万円

9. ※6 有価証券の貸付

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券	980百万円	1,026百万円

10. ※7 連結子会社であります伊豆急行(株)及び(株)じょうてつ、持分法適用関連会社であります東急不動産(株)において、「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日改正法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行ったことに伴い計上された土地再評価差額金のうち、持分相当額について純資産の部に土地再評価差額金として計上しております。

なお、再評価の方法、再評価を行った年月日、再評価後の帳簿価額と時価との差額は以下のとおりであります。

(1) 伊豆急行(株)

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第5号に定める算定方法を原則として、一部の土地については同施行令同条第3号に定める算定方法によっております。

・再評価を行った年月日

平成12年3月31日

・再評価を行った土地の当連結会計年度末における時価と再評価後の帳簿価額との差額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	△250百万円	△1,907百万円

(2) (株)じょうてつ

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出しております。

・再評価を行った年月日

平成14年3月31日

・再評価を行った土地の当連結会計年度末における時価と再評価後の帳簿価額との差額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	△622百万円	△480百万円

(3) 東急不動産(株)

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第5号に定める算定方法を原則として、一部の土地については同施行令同条第2号、第3号及び第4号に定める算定方法によっております。

・再評価を行った年月日

平成12年3月31日

・再評価を行った年月日(子会社の合併による再評価)

平成13年3月31日

・前連結会計年度末及び当連結会計年度末において、再評価を行った土地の時価が再評価後の帳簿価額を上回っているため、差額を記載しておりません。

11. 当社連結子会社における貸出コミットメントに係る貸出未実行残高は、次のとおりであります。

東急カード㈱

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
貸出コミットメントの総額	48,946百万円	49,699百万円
貸出実行残高	1,201	1,232
差引額	47,745	48,466

なお、上記貸出コミットメントは、クレジットカードに付与されているキャッシング枠であり、必ずしも全額が実行されるものではありません。

(連結損益計算書関係)

1. 退職給付費用及び引当金繰入額の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
貸倒引当金繰入額	611百万円	667百万円
賞与引当金繰入額	11,405	11,448
退職給付費用	10,661	9,675

2. ※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
人件費	88,928百万円	89,277百万円
経費	101,888	101,650
諸税	4,080	4,211
減価償却費	10,959	11,128
のれん償却額	305	12

3. ※2 営業費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	376百万円	417百万円

4. ※3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
渋谷区渋谷二丁目 (土地)	203百万円	米国ハワイ州 (土地・建物及び構築物等) 14,045百万円
上尾市小敷谷 (土地・建物及び構築物)	151	横浜市港北区日吉二丁目 (土地) 75
伊勢原市桜台 (土地・建物及び構築物)	75	
その他	281	その他 263
計	712	計 14,383

5. ※4 減損損失

減損損失の算定にあたっては、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位に拠って資産のグループ化を行いました。その結果、継続的な地価の下落に伴い帳簿価額に対し著しく時価が下落している固定資産グループ及び営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなっている固定資産グループ等について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

地域	主な用途	種類	セグメント	減損損失 (百万円)
首都圏	主に店舗等 計24件	土地及び建物等	生活サービス事業 ホテル・リゾート事業	1,842
中部北陸圏	主に店舗等 計5件	土地及び建物等	不動産事業 生活サービス事業 ホテル・リゾート事業	181
近畿圏	主にレジャー施設等 計2件	建物等	生活サービス事業	159
その他	主に工場等 計2件	土地及び建物等	交通事業 不動産事業	4
合計	計33件	—	—	2,187

地域ごとの減損損失の内訳

地域	土地 (百万円)	建物及び構築物 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
首都圏	258	1,151	432	1,842
中部北陸圏	12	156	12	181
近畿圏	—	128	30	159
その他	0	0	3	4
合計	270	1,438	479	2,187

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

地域	主な用途	種類	セグメント	減損損失 (百万円)
首都圏	主に店舗等 計20件	土地及び建物等	交通事業 不動産事業 生活サービス事業 ホテル・リゾート事業	1,710
中部北陸圏	主に店舗等 計4件	土地及び建物等	生活サービス事業	460
その他	主に賃貸不動産等 計8件	土地及び建物等	不動産事業	683
合計	計32件	—	—	2,855

地域ごとの減損損失の内訳

地域	土地 (百万円)	建物及び構築物 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
首都圏	158	1,239	311	1,710
中部北陸圏	6	430	24	460
その他	8	669	5	683
合計	174	2,339	342	2,855

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額、或いは使用価値により測定しております。

回収可能価額を正味売却価額により測定している場合には、土地等の時価、又は収益還元法によって評価しております。また、回収可能価額を使用価値により測定している場合には、将来キャッシュ・フローを主として4.0%~5.0%（前連結会計年度は4.0%~5.0%）で割り引いて算定しております。

6. ※5 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
運輸業等営業費及び売上原価	2百万円	73百万円

7. ※6 関係会社整理損

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
		連結子会社であるマウナ ラニ リゾート（オペレーション）(株)およびマウナ ラニ リアルティ(株)において、解散を決議したことに伴い、発生したものであります。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	2,446百万円	2,701百万円
組替調整額	△11	△126
税効果調整前	2,434	2,574
税効果額	△744	△990
その他有価証券評価差額金	1,690	1,584
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	0	△0
組替調整額	—	—
税効果調整前	0	△0
税効果額	△0	0
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△2,799	△1,781
組替調整額	—	2,607
税効果調整前	△2,799	825
税効果額	—	—
為替換算調整勘定	△2,799	825
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	3,551	2,985
組替調整額	4,582	3,580
税効果調整前	8,133	6,566
税効果額	△2,240	△1,952
退職給付に係る調整額	5,893	4,613
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	△41	△244
組替調整額	135	130
持分法適用会社に対する持分相当額	93	△113
その他の包括利益合計	4,879	6,909

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	1,249,739	—	—	1,249,739
合計	1,249,739	—	—	1,249,739
自己株式				
普通株式(注)	23,113	13,525	1,296	35,342
合計	23,113	13,525	1,296	35,342

(注) (1) 当連結会計年度期首の株式数には、従業員持株会信託口が保有する当社株式5,691千株を含めて記載しております。

(2) 当連結会計年度末の株式数には、従業員持株会信託口が保有する当社株式4,404千株を含めて記載しております。

(3) 自己株式の株式数の増加の内訳は、以下のとおりであります。

① 取締役会決議に基づく自己株式の市場買付による増加	11,744千株
② 取締役会決議に基づく連結子会社からの自己株式の 取得による当社帰属分の増加	1,687千株
③ 単元未満株式の買取りによる増加	93千株
④ 持分の変動による増加	0千株

(4) 自己株式の株式数の減少の内訳は、以下のとおりであります。

① 従業員持株会信託口における株式売却による減少	1,287千株
② 単元未満株式の買増請求による減少	9千株

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	(注1) 5,555	4.5	平成28年3月31日	平成28年6月30日
平成28年11月10日 取締役会	普通株式	(注2) 5,555	4.5	平成28年9月30日	平成28年12月5日

(注1) 配当金の総額には、従業員持株会信託口に対する配当金25百万円を含めております。

(注2) 配当金の総額には、従業員持株会信託口に対する配当金22百万円を含めております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	(注) 5,486	利益剰余金	4.5	平成29年3月31日	平成29年6月30日

(注) 配当金の総額には、従業員持株会信託口に対する配当金19百万円を含めております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式 (注1, 2)	1,249,739	—	624,869	624,869
合計	1,249,739	—	624,869	624,869
自己株式				
普通株式 (注1, 3, 4, 5, 6)	35,342	376	18,395	17,323
合計	35,342	376	18,395	17,323

- (注) (1) 当社は、平成29年8月1日付で株式併合（普通株式2株を1株に併合）を実施しております。
- (2) 普通株式の発行済株式の減少624,869千株は、株式併合を実施したことによるものであります。
- (3) 当連結会計年度期首の株式数には、従業員持株会信託口が保有する当社株式4,404千株（株式併合前）を含めて記載しております。
- (4) 当連結会計年度末の株式数には、従業員持株会信託口及び役員報酬信託口が保有する当社株式1,825千株（株式併合後）を含めて記載しております。
- (5) 自己株式の株式数の増加の内訳は、以下のとおりであります。
- ① 役員報酬信託口における自己株式の市場買付による増加（株式併合後） 325千株
- ② 単元未満株式の買取りによる増加 46千株
- (注) 単元未満株式の買取りによる増加の内訳
- 株式併合前 39千株 株式併合後 6千株
- ③ 株式併合による端株の買取りによる増加（株式併合後） 4千株
- (6) 自己株式の株式数の減少の内訳は、以下のとおりであります。
- ① 株式併合による減少 17,416千株
- ② 従業員持株会信託口における株式売却による減少 973千株
- (注) 従業員持株会信託口における株式売却による減少の内訳
- 株式併合前 545千株 株式併合後 428千株
- ③ 単元未満株式の買増請求による減少 5千株
- (注) 単元未満株式の買増請求による減少の内訳
- 株式併合前 3千株 株式併合後 1千株

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	(注1) 5,486	(注2) 4.5	平成29年3月31日	平成29年6月30日
平成29年11月10日 取締役会	普通株式	(注3) 5,486	(注4) 9.0	平成29年9月30日	平成29年12月5日

- (注1) 配当金の総額には、従業員持株会信託口に対する配当金19百万円を含めております。
- (注2) 当社は、平成29年8月1日付で株式併合（普通株式2株を1株に併合）を実施しており、当該株式併合前の1株当たり配当額を記載しております。なお、(注4)については、当該株式併合を勘案した1株当たり配当額を記載しております。
- (注3) 配当金の総額には、従業員持株会信託口及び役員報酬信託口に対する配当金19百万円を含めております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	(注) 6,096	利益剰余金	10.0	平成30年3月31日	平成30年6月29日

(注) 配当金の総額には、従業員持株会信託口及び役員報酬信託口に対する配当金18百万円を含めておりません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. ※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	40,500百万円	39,007百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△676	△684
現金及び現金同等物	39,823	38,322

2. 当連結会計年度に株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

ニッポンレンタカー北海道㈱

流動資産	3,034百万円
固定資産	2,081
流動負債(注)	△3,699
固定負債	△867
非支配株主持分	△291
その他有価証券評価差額金	△2

(注) 連結上相殺消去されていた㈱じょうてつからの借入金を含めております。

※2 なお、譲渡により取得した現金及び現金同等物から、上記流動資産に含まれる現金及び現金同等物を控除した1,202百万円を「連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入」として表示しております。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

(所有権移転ファイナンス・リース取引)

① リース資産の内容

有形固定資産

主として、交通事業における鉄道車両(機械装置及び運搬具)であります。

② リース資産の減価償却の方法

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(所有権移転外ファイナンス・リース取引)

① リース資産の内容

有形固定資産

主として、生活サービス事業における通信設備(工具、器具及び備品)であります。

② リース資産の減価償却の方法

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引（借主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	12,580	12,130
1年超	60,056	62,300
合計	72,637	74,430

3. ファイナンス・リース取引（貸主側）

(1) リース投資資産の内訳

(流動資産)

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
リース料債権部分	5,274	3,806
見積残存価額部分	45	45
受取利息相当額	△2,260	△2,028
リース投資資産	3,059	1,822

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の連結決算日後の回収予定額

(流動資産)

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)						
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
リース債権	3	3	3	2	—	—	13
リース投資資産	730	633	513	458	370	2,568	5,274

（単位：百万円）

	当連結会計年度 (平成30年3月31日)						
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
リース債権	3	3	3	0	0	—	10
リース投資資産	322	317	310	298	282	2,273	3,806

4. オペレーティング・リース取引（貸主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	4,747	7,797
1年超	5,790	19,189
合計	10,537	26,987

5. 転リース取引に該当し、かつ、利息相当額控除前の金額で連結貸借対照表に計上している額

(1) リース投資資産 (単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産	1,089	—

(2) リース債務 (単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動負債	395	—
固定負債	754	—

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社及び連結子会社は、鉄軌道事業をはじめとする各事業の設備投資計画に照らして、必要な資金を主に金融機関からの借入や社債発行により調達しております。資金運用については元本保証もしくはこれに準じる商品による余剰資金の運用に限定し、デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約を利用してヘッジしております。

借入金及び社債の用途は主として設備投資資金や運転資金であり、償還日は最長で決算日後28年であります。このうち一部は、金利や為替の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引又は金利通貨スワップ取引）を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引、外貨建ての借入金及び外貨建ての社債に係る支払金利及び為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利通貨スワップ取引、地震発生による収支変動リスクに対するヘッジを目的とした地震デリバティブ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性評価の方法等については、前述の「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項 (9) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社では、内部規程に従い、各部門が所管業務の債権を相手先別に期日及び残高の管理を行い、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社においても、同様の管理を行っております。

満期保有目的の債券は、業務上の必要から保有しており、信用リスクも僅少であります。

デリバティブ取引については、取引相手先を金融機関に限定しているため、信用リスクは極めて低いと認識しております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

一部の連結子会社は、予定取引により確実に発生すると見込まれる外貨建て債務の為替変動リスクに対して、為替予約を利用してヘッジしております。

当社は、外貨建ての借入金及び外貨建ての社債に係る支払金利及び為替の変動リスクを抑制するために、金利通貨スワップ取引を利用してしております。

また、当社及び一部の連結子会社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用してしております。

投資有価証券については、定期的の時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握しております。

デリバティブ取引の実行・管理については、当社は、取引の権限等を定めた基準を業務執行規程の中において設けており、この規程に基づいて財務部が取引の実行、管理及び報告を行っております。また、連結子会社においても、取引の実行及び管理は、取引毎に担当役員の承認を受け、財務担当部署で行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき財務部が月次で資金計画を作成するなどの方法により流動性リスクを管理しております。連結子会社においても、同様の管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(デリバティブ取引関係)」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2. 参照）。

前連結会計年度（平成29年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	40,500	40,500	—
(2) 受取手形及び売掛金	139,830		
貸倒引当金(*1)	△901		
	138,929	138,929	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券(*2)	478	480	1
関連会社株式	80,553	74,096	△6,457
その他有価証券	44,454	44,454	—
資産計	304,916	298,460	△6,455
(1) 支払手形及び買掛金	90,074	90,074	—
(2) 短期借入金(*3)	265,007	265,007	—
(3) 社債(*2)	236,228	247,267	11,039
(4) 長期借入金(*4)	463,162	484,276	21,113
負債計	1,054,472	1,086,625	32,153
デリバティブ取引(*5)	0	0	—

(*1)受取手形及び売掛金に対する貸倒引当金を控除しております。

(*2) 1年内償還額を含めております。

(*3)長期借入金の1年内返済額を含めておりません。

(*4) 1年内返済額を含めております。

(*5)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	39,007	39,007	—
(2) 受取手形及び売掛金	156,642		
貸倒引当金(*1)	△1,001		
	155,640	155,640	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券(*2)	24	25	0
関連会社株式	86,870	95,601	8,731
その他有価証券	49,964	49,964	—
資産計	331,507	340,239	8,731
(1) 支払手形及び買掛金	99,958	99,958	—
(2) 短期借入金(*3)	265,627	265,627	—
(3) 社債(*2)	228,228	238,302	10,074
(4) 長期借入金(*4)	475,938	496,358	20,420
負債計	1,069,752	1,100,247	30,494
デリバティブ取引(*5)	(0)	(0)	—

(*1) 受取手形及び売掛金に対する貸倒引当金を控除しております。

(*2) 1年内償還額を含めております。

(*3) 長期借入金の1年内返済額を含めておりません。

(*4) 1年内返済額を含めております。

(*5) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、() で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(有価証券関係)」をご参照下さい。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 社債

社債の時価は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金の合計額(*)を新規に同様の社債を発行した場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(*) 金利通貨スワップの一体処理(特例処理、振当処理)の対象とされた社債(「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(デリバティブ取引関係)」を参照)については、当該金利通貨スワップのレートによる元利金の合計額

(4) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映することから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額(*)を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(*) 金利スワップの特例処理、金利通貨スワップの一体処理(特例処理、振当処理)の対象とされた長期借入金(「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(デリバティブ取引関係)」を参照)については、当該金利スワップ、金利通貨スワップのレートによる元利金の合計額

デリバティブ取引

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(デリバティブ取引関係)」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:百万円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非上場株式(*1)	16,406	17,765
その他(*1)	141	203
地震デリバティブ取引(*2)	997	655

(*1) 市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(*2) 市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「デリバティブ取引」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	35,178	—	—	—
受取手形及び売掛金	135,808	4,021	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	454	15	—	—
社債	—	—	10	—
合計	171,441	4,036	10	—

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	32,812	—	—	—
受取手形及び売掛金	152,351	4,288	1	0
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	15	10	—	—
社債	—	—	—	—
合計	185,179	4,298	1	0

4. 社債、長期借入金の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	8,000	25,000	23,138	35,090	—	145,000
長期借入金	43,457	37,591	65,746	29,985	45,471	240,910
合計	51,457	62,591	88,885	65,075	45,471	385,910

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	25,000	23,138	35,090	—	10,000	135,000
長期借入金	39,728	64,254	31,101	50,110	37,138	253,605
合計	64,728	87,392	66,191	50,110	47,138	388,605

(有価証券関係)

I 前連結会計年度(平成29年3月31日現在)

1. 満期保有目的の債券

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	468	470	1
	(2) 社債	10	10	0
	(3) その他	—	—	—
	小計	478	480	1
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		478	480	1

2. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	35,255	19,232	16,022
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	6,862	5,182	1,680
	小計	42,117	24,415	17,702
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	2,336	2,681	△344
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	2,336	2,681	△344
合計		44,454	27,096	17,357

(注) 市場価格がない非上場株式等(連結貸借対照表計上額 5,942百万円)については、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	41	11	—
(2) 債券	—	—	—
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	0	—	—
合計	42	11	—

4. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、時価のあるその他有価証券について減損処理は行っておりません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

Ⅱ 当連結会計年度（平成30年3月31日現在）

1. 満期保有目的の債券

	種類	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	14	15	0
	(2) 社債	10	10	0
	(3) その他	—	—	—
	小計	24	25	0
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		24	25	0

2. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額 （百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	38,133	19,304	18,828
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	7,191	5,182	2,008
	小計	45,324	24,487	20,837
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	4,639	5,544	△904
	(2) 債券	—	—	—
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	4,639	5,544	△904
合計		49,964	30,031	19,932

(注) 市場価格がない非上場株式等（連結貸借対照表計上額 5,088百万円）については、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	1,059	476	0
(2) 債券	—	—	—
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	0	—	—
合計	1,059	476	0

4. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、時価のあるその他有価証券について減損処理は行っておりません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

また、市場価格がない非上場株式等について570百万円の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、財政状態の悪化により実質価額が著しく低下した場合に、個別に回復可能性を判断し、減損処理の要否を決定しております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

区分	デリバティブ取引の種類等	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	地震デリバティブ取引 買建	11,000	11,000	—	—
合計		11,000	11,000	—	—

(注) 地震デリバティブ取引については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価評価は行っておりません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米ドル	外貨建金銭債務	13	—	0
合計			13	—	0

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	87,612	86,309	(*)
金利通貨スワップの一体処理 (特例処理・振当処理)	金利通貨スワップ取引 変動受取・固定支払 日本円受取・米ドル支払	社債・長期借入金	43,634	28,973	(*)
合計			131,247	115,283	—

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。金利スワップの特例処理、金利通貨スワップの一体処理 (特例処理・振当処理) によるものは、ヘッジ対象と一体として処理されているため、それらの時価 (*) はそれぞれのヘッジ対象である社債、長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

区分	デリバティブ取引の種類等	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	地震デリバティブ取引 買建	11,000	11,000	—	—
合計		11,000	11,000	—	—

(注) 地震デリバティブ取引については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価評価は行っておりません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米ドル	外貨建金銭債務	34	—	△0
合計			34	—	△0

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	85,809	74,850	(*)
金利通貨スワップの一体処理 (特例処理・振当処理)	金利通貨スワップ取引 変動受取・固定支払 日本円受取・米ドル支払	社債・長期借入金	31,927	31,927	(*)
合計			117,737	106,777	—

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。金利スワップの特例処理、金利通貨スワップの一体処理（特例処理・振当処理）によるものは、ヘッジ対象と一体として処理されているため、それらの時価(*)はそれぞれのヘッジ対象である社債、長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付制度として、退職一時金制度及び確定給付企業年金制度等を、確定拠出制度として、確定拠出年金制度及び中小企業退職金共済制度等を採用しております。また、当社及び一部の連結子会社において退職給付信託の設定をしております。

一部の連結子会社が採用している退職一時金制度及び確定給付企業年金制度は、簡便法により退職給付に係る負債、退職給付に係る資産及び退職給付費用を計算しております。

なお、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表 (簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	75,577百万円	73,352百万円
勤務費用	3,291	3,305
利息費用	412	398
数理計算上の差異の発生額	641	737
過去勤務費用の発生額	—	△53
退職給付の支払額	△6,570	△4,841
退職給付債務の期末残高	73,352	72,900

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表 (簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
年金資産の期首残高	44,949百万円	46,877百万円
期待運用収益	229	204
数理計算上の差異の発生額	4,196	3,658
事業主からの拠出額	865	917
退職給付の支払額	△3,363	△3,237
年金資産の期末残高	46,877	48,421

(3) 簡便法を適用した制度の退職給付に係る負債と退職給付に係る資産の純額の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債と退職給付に係る資産の純額の期首残高	4,633百万円	4,752百万円
退職給付費用	542	508
退職給付の支払額	△328	△306
制度への拠出額	△95	△147
その他	—	33
退職給付に係る負債と退職給付に係る資産の純額の期末残高	4,752	4,840

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	49,942百万円	49,136百万円
年金資産	△48,174	△49,564
	1,768	△428
非積立型制度の退職給付債務	29,459	29,747
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	31,227	29,319
退職給付に係る負債	38,374百万円	37,958百万円
退職給付に係る資産	△7,147	△8,638
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	31,227	29,319

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	3,291百万円	3,305百万円
利息費用	412	398
期待運用収益	△229	△204
数理計算上の差異の費用処理額	4,686	3,738
過去勤務費用の費用処理額	△107	△146
簡便法で計算した退職給付費用	542	508
確定給付制度に係る退職給付費用	8,596	7,599
合計	8,596	7,599

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
数理計算上の差異	8,241百万円	6,659百万円
過去勤務費用	△107	△92
合計	8,133	6,566

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識数理計算上の差異	△8,342百万円	△1,683百万円
未認識過去勤務費用	△343	△436
合計	△8,686	△2,120

(8) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
株式	65%	69%
債券	17%	15%
一般勘定	10%	9%
その他	8%	7%
合計	100%	100%

(注) 年金資産合計には、一時金制度及び企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度71%、当連結会計年度74%含まれております。

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
割引率	主として0.7%	主として0.7%
長期期待運用収益率	主として1.5%	主として1.5%
予想昇給率	主として3.2%	主として3.2%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度2,065百万円、当連結会計年度2,075百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	37,636百万円	37,102百万円
減損損失	16,991	16,751
繰越欠損金	13,537	13,059
固定資産	7,350	7,354
未実現利益	6,358	6,346
賞与引当金	3,692	3,678
減価償却費	2,103	2,006
資産除去債務	1,675	1,929
その他	15,506	16,483
繰延税金資産小計	104,852	104,711
評価性引当額	△48,224	△47,925
繰延税金資産合計	56,627	56,786
繰延税金負債		
土地建物評価益	△30,073	△29,499
退職給付信託設定益	△13,485	△13,468
会社分割に伴う関係会社株式差額	△7,135	△7,144
その他有価証券評価差額金	△5,564	△6,552
固定資産圧縮積立金	△4,215	△4,124
その他	△2,279	△3,091
繰延税金負債合計	△62,753	△63,881
繰延税金資産(負債△)純額	△6,125	△7,094
土地再評価に係る繰延税金負債		
再評価に係る繰延税金負債	△9,174	△9,171

繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	7,814百万円	7,696百万円
固定資産－繰延税金資産	6,593	7,314
流動負債－その他	212	184
固定負債－繰延税金負債	20,320	21,920
固定負債－再評価に係る繰延税金負債	9,174	9,171

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因の主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等損金不算入項目	0.4	0.3
受取配当金益金不算入項目	△0.9	△2.6
住民税均等割等	0.5	0.4
評価性引当の増減額	△14.0	0.6
のれん償却額	0.1	-
持分法による投資損益	△3.3	△2.7
受取配当金消去による影響額	1.0	2.5
税率変更による影響額	△0.9	△0.1
その他	△2.2	△3.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	11.6	25.4

(企業結合等関係)

(事業分離)

当社の連結子会社である㈱じょうてつは、同社の子会社であるニッポンレンタカー北海道㈱の保有株式のすべてを、平成29年12月20日に譲渡いたしました。

当該事業分離の状況は、以下のとおりであります。

(1) 事業分離の概要

①分離先企業の名称

ニッポンレンタカーサービス株式会社

②分離した事業の内容

車両の有償貸渡し事業

③事業分離を行った主な理由

同社は、昭和47年に当社の連結子会社である㈱じょうてつのグループ傘下となって以来、北海道内各地の東急グループ関係会社等の協力を得ながら45年間にわたり事業を拡大してまいりましたが、同社の更なる発展を総合的に検討した結果、㈱じょうてつが保有する同社株式を譲渡することといたしました。

④事業分離日

平成29年12月20日

⑤法的形式を含むその他取引の概要

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

(2) 実施した会計処理の概要

①移転損益の金額

子会社株式売却益 2,155百万円

②移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内容

流動資産 3,034百万円

固定資産 2,081百万円

資産合計 5,116百万円

流動負債(※) 3,699百万円

固定負債 867百万円

負債合計 4,567百万円

(※)連結上相殺消去されていた㈱じょうてつからの借入金を含めております。

③会計処理

ニッポンレンタカー北海道㈱の連結上の帳簿価額と売却価額との差額を特別利益のその他(子会社株式売却益)に計上しております。

(3) 分離した事業が含まれていた報告セグメントの名称

生活サービス事業

(4) 当連結会計年度に係る連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

営業収益 5,814百万円

営業利益 466百万円

(共通支配下の取引等)

当社の連結子会社である㈱東急パワーサプライは、平成30年3月8日に東北電力㈱より出資を受け入れました。

当該取引の状況は、以下のとおりであります。

(1) 共通支配下の取引等の概要

①子会社の名称及び事業の内容

子会社の名称：株式会社東急パワーサプライ

事業の内容：電力小売事業

②取引の目的を含む取引の概要

東北電力㈱が保有する競争力のある電源を安定的に調達するとともに、電気事業に関わる豊富な知見・ノウハウを共有することで、顧客に一層のメリットのある電気サービスを提供することを目的に、当社が所有する株式の一部譲渡及び同社を引受先とする第三者割当増資を行ったものであります。

③企業結合日（取引日）

平成30年3月8日

④法的形式を含むその他取引の概要

非支配株主への株式譲渡及び子会社における第三者割当増資の実施

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

(3) 非支配株主との取引に係る親会社の持分変動に関する事項

資本剰余金の主な変動要因：子会社株式の一部譲渡及び子会社における第三者割当増資
非支配株主との取引によって増加した資本剰余金の金額：1,282百万円

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等や、鉄軌道車両等に含有するアスベストの撤去費用等であり、

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を固定資産の耐用年数などを勘案して0年～78年と見積り、割引率は0.0%～2.5%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
期首残高	5,251百万円	5,140百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	73	485
時の経過による調整額	67	69
資産除去債務の履行による減少額	△206	△272
見積りの変更による増加額	118	398
その他増減額（△は減少）	△163	156
期末残高	5,140	5,977

4. 資産除去債務の見積りの変更

当連結会計年度において、鉄軌道車両等に含有するアスベストの撤去費用等として計上していた資産除去債務について、新たな情報の入手に伴い、見積りの変更を行っております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、東京都や神奈川県の本社沿線地域及びその他の地域において、賃貸オフィスビルや賃貸商業施設、賃貸住宅等を所有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は31,446百万円（賃貸収益は主として営業収益に、主な賃貸費用は主として運輸業等営業費及び売上原価にそれぞれ計上）、固定資産売却益は211百万円（特別利益に計上）、固定資産売却損は0百万円（特別損失に計上）、減損損失は233百万円（特別損失に計上）であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は31,497百万円（賃貸収益は主として営業収益に、主な賃貸費用は主として運輸業等営業費及び売上原価にそれぞれ計上）、固定資産売却益は37百万円（特別利益に計上）、減損損失は706百万円（特別損失に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産に関する連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	409,206	420,170
期中増減額	10,964	44,036
期末残高	420,170	464,207
期末時価	659,909	739,458

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
2. 前連結会計年度増減額のうち、主な増加額は次のとおりであります。
渋谷道玄坂スカイビル (6,386百万円)
当連結会計年度増減額のうち、主な増加額は次のとおりであります。
渋谷キャスト (15,507百万円)
東京都新宿区歌舞伎町一丁目所在土地建物 (12,228百万円)
青山オーバルビル (9,956百万円)
3. 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であり、一部の重要な物件については不動産鑑定士による不動産鑑定評価等に基づく金額であります。
4. 当連結会計年度における渋谷駅街区開発計画等（連結貸借対照表計上額92,544百万円）は、大規模な賃貸商業施設等を開発するものであり、現在開発中であることから、時価を把握することが極めて困難であるため、上表には含まれておりません。

(公共施設等運営事業関係)

(1) 公共施設等運営権の概要

連結子会社である仙台国際空港株が運営権者となり、実施する公共施設等運営事業は以下のとおりであります。

対象となる公共施設等の内容	仙台空港特定運営事業 仙台空港における①空港基本施設、②空港航空保安施設、③道路、④駐車場施設、⑤空港用地、⑥上記各施設に付帯する施設
実施契約に定められた運営権対価の支出方法	運営権取得時に運営権対価を一括で支払
運営権設定期間	平成27年12月1日から平成57年11月30日までの30年間
残存する運営権設定期間	平成30年4月1日から平成57年11月30日まで

(2) 公共施設等運営権の減価償却の方法

公共施設等運営権については、運営権設定期間（30年）に基づく定額法により償却しております。

(3) 更新投資に係る事項

- ① 主な更新投資の内容及び当該更新投資を予定している時期
以下の内容について、平成30年4月1日から運営権設定期間まで、順次更新の見込であります。
 - ・滑走路、誘導路の更新（路面舗装等）
 - ・航空灯火、電気設備更新工事
- ② 更新投資に係る資産の計上方法
更新投資を実施した際に、当該更新投資のうち資本的支出に該当する部分に関する支出額を、資産として計上しております。
- ③ 更新投資に係る資産の減価償却の方法
公共施設等運営権更新投資については、更新投資の経済的耐用年数（当該更新投資の物理的耐用年数が公共施設等運営権の残存する運営権設定期間を上回る場合は、当該残存する運営権設定期間）に基づく定額法により償却しています。
- ④ 翌連結会計年度以降に実施すると見込まれる更新投資のうち資本的支出に該当する部分の内容及びその金額
翌連結会計年度以降、運営権設定期間においては、順次、必要となる更新投資を行う予定です。
具体的な内容については以下のとおりであります。
 - ・滑走路、誘導路、航空灯火設備等の機能維持を目的とした投資
 - ・駐車場の拡張等の空港活性化を目的とした投資 等なお、翌連結会計年度においては、更新投資のうち資本的支出に該当する部分について、約400百万円を見込んでおります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループ（当社及び連結子会社）の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、沿線地域を中心に、お客さまの日々の暮らしに密着したさまざまな領域で幅広い事業を展開しております。

したがって、当社グループは、サービスの種類別セグメントから構成されており、「交通事業」「不動産事業」「生活サービス事業」「ホテル・リゾート事業」の4つの領域を報告セグメントとしております。各報告セグメントの主要な事業内容は以下のとおりであります。

交通事業	鉄軌道業、バス業、空港運営事業
不動産事業	不動産販売業、不動産賃貸業、不動産管理業
生活サービス事業	百貨店業、チェーンストア業、ショッピングセンター業、 ケーブルテレビ事業、広告業、映像事業
ホテル・リゾート事業	ホテル業、ゴルフ業

当連結会計年度より、経営管理の観点から当社の個別財務諸表において、「その他事業」の区分を新設し、従来「不動産事業」に区分していた生活サービス事業、ホテル・リゾート事業に関わる事業を当該事業区分に変更しております。これに伴い、連結財務諸表の報告セグメント内においても、一部事業について区分の変更をしております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の区分方法に基づき作成したものを記載しております。

2. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの金額であります。

セグメント間の内部営業収益又は振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				計	調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	交通 事業	不動産 事業	生活 サービス 事業	ホテル・ リゾート 事業			
営業収益							
外部顧客への営業収益	205,611	130,728	676,402	104,609	1,117,351	—	1,117,351
セグメント間の内部営業収益又は振替高	1,882	39,396	13,826	893	55,998	△55,998	—
計	207,494	170,124	690,229	105,502	1,173,350	△55,998	1,117,351
セグメント利益	26,706	30,591	14,651	5,671	77,621	353	77,974
セグメント資産	784,994	750,634	414,123	115,848	2,065,601	83,004	2,148,605
その他の項目							
減価償却費	39,194	17,924	15,926	4,018	77,064	△77	76,986
のれん償却額	—	—	305	—	305	—	305
持分法適用会社への投資額	—	—	—	—	—	91,158	91,158
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	62,162	52,888	22,808	7,614	145,474	△75	145,398

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額353百万円は、セグメント間取引消去額であります。
- (2) セグメント資産の調整額83,004百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産185,610百万円、セグメント間取引消去△102,605百万円であります。
- (3) 減価償却費の調整額△77百万円は、セグメント間取引消去額であります。
- (4) 持分法適用会社への投資額の調整額91,158百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。
- (5) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額△75百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産2,098百万円、セグメント間取引消去△2,173百万円であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				計	調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	交通 事業	不動産 事業	生活 サービス 事業	ホテル・ リゾート 事業			
営業収益							
外部顧客への営業収益	209,660	139,643	685,919	103,388	1,138,612	—	1,138,612
セグメント間の内部営業収益又は振替高	1,896	42,930	14,432	716	59,976	△59,976	—
計	211,557	182,574	700,352	104,104	1,198,588	△59,976	1,138,612
セグメント利益	29,002	32,357	15,999	5,103	82,462	456	82,918
セグメント資産	804,945	823,951	410,353	111,243	2,150,494	114,142	2,264,636
その他の項目							
減価償却費	37,973	16,442	16,533	4,027	74,977	△75	74,901
のれん償却額	—	—	12	—	12	—	12
持分法適用会社への投資額	—	—	—	—	—	99,750	99,750
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	71,426	77,235	20,174	9,380	178,216	3,048	181,265

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額456百万円は、セグメント間取引消去額であります。
 - (2) セグメント資産の調整額114,142百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産206,523百万円、セグメント間取引消去△92,381百万円であります。
 - (3) 減価償却費の調整額△75百万円は、セグメント間取引消去額であります。
 - (4) 持分法適用会社への投資額の調整額99,750百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。
 - (5) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額3,048百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産3,391万円、セグメント間取引消去△342百万円であります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が、連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が、連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

本邦の外部顧客への営業収益のうち、連結損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が、連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が、連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

本邦の外部顧客への営業収益のうち、連結損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：百万円)

	交通 事業	不動産 事業	生活 サービス 事業	ホテル・ リゾート 事業	全社・消去	合計
減損損失	4	10	2,023	148	—	2,187

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：百万円)

	交通 事業	不動産 事業	生活 サービス 事業	ホテル・ リゾート 事業	全社・消去	合計
減損損失	158	1,175	1,465	55	—	2,855

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

		交通 事業	不動産 事業	生活 サービス 事業	ホテル・ リゾート 事業	全社・消去	合計
のれん	当期償却額	－	－	305	－	－	305
	当期末残高	－	－	13	－	－	13

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

		交通 事業	不動産 事業	生活 サービス 事業	ホテル・ リゾート 事業	全社・消去	合計
のれん	当期償却額	－	－	12	－	－	12
	当期末残高	－	－	1	－	－	1

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	東急建設㈱	東京都 渋谷区	16,354	建設事業	(所有) 直接 14.5 間接 0.6	建設工事の 発注等 役員の兼任	建設工事代	19,521	未払金	3,249

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針

市場実勢を参考に交渉の上で決定しております。

3. 東急建設㈱の持分は100分の20未満ですが、実質的な影響力を持っているため、関連会社としたものであります。

4. 東急建設㈱における議決権等につきましては、所有割合として記載しているもののほか、同社株式7,500千株（議決権等の所有割合7.1%）を退職給付信託に拠出してあります。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	東急建設㈱	東京都 渋谷区	16,354	建設事業	(所有) 直接 14.5 間接 0.6	建設工事の 発注等 役員の兼任	建設工事代	49,479	未払金	4,783

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針

市場実勢を参考に交渉の上で決定しております。

3. 東急建設㈱の持分は100分の20未満ですが、実質的な影響力を持っているため、関連会社としたものであります。

4. 東急建設㈱における議決権等につきましては、所有割合として記載しているもののほか、同社株式7,500千株（議決権等の所有割合7.1%）を退職給付信託に拠出してあります。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及び その近親者	岡本 園衛	—	—	当社監査役 (日本生命 保険相互会 社代表取締 役会長)	(被所有) —	借入先	資金の借入	500	短期借入金	2,690
							利息の支払	424	長期借入金	18,327
役員及び その近親者	斎藤 勝利	—	—	当社監査役 (第一生命 保険㈱代表 取締 役 会 長)	(被所有) —	借入先	資金の借入	1,958	短期借入金	1,957
							利息の支払	473	長期借入金	27,524
									未払利息	62
									未払利息	43

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
一般的な取引条件で行っております。なお、資金借入については、市場金利を勘案して借入利率を合理的に決定しております。
3. 日本生命保険相互会社、第一生命保険㈱との取引は、いわゆる第三者のための取引であります。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及び その近親者	岡本 園衛	—	—	当社監査役 (日本生命 保険相互会 社代表取締 役会長)	(被所有) —	借入先	資金の借入	2,690	短期借入金	3,474
							利息の支払	357	長期借入金	17,543
									未払利息	57

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
一般的な取引条件で行っております。なお、資金借入については、市場金利を勘案して借入利率を合理的に決定しております。
3. 日本生命保険相互会社との取引は、いわゆる第三者のための取引であります。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

当連結会計年度において、重要な関連会社は東急不動産ホールディングス(株)であり、その要約連結財務諸表は以下のとおりであります。

流動資産合計	588,025百万円
固定資産合計	1,479,126
流動負債合計	537,737
固定負債合計	1,083,106
純資産合計	446,307
営業収益	808,503
税金等調整前当期純利益	45,860
親会社株主に帰属する当期純利益	31,518

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

当連結会計年度において、重要な関連会社は東急不動産ホールディングス(株)であり、その要約連結財務諸表は以下のとおりであります。

流動資産合計	658,554百万円
固定資産合計	1,518,206
流動負債合計	396,114
固定負債合計	1,305,301
純資産合計	475,345
営業収益	866,126
税金等調整前当期純利益	59,409
親会社株主に帰属する当期純利益	35,185

(開示対象特別目的会社関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	1,034円77銭	1,146円46銭
1株当たり当期純利益金額	110円02銭	115円42銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
2. 当社は、平成29年8月1日付で株式併合（普通株式2株を1株に併合）を実施しており、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。
3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。
なお、「普通株式の自己株式数」は、従業員持株会信託口及び役員報酬信託口が所有する当社株式（前連結会計年度2,202千株、当連結会計年度1,825千株）を含めております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
連結貸借対照表の純資産の部の合計額（百万円）	678,382	747,049
純資産の部の合計額から控除する金額（百万円）	50,074	50,522
（うち非支配株主持分）（百万円）	(50,074)	(50,522)
普通株式に係る純資産額（百万円）	628,308	696,526
普通株式の発行済株式数（千株）	624,869	624,869
普通株式の自己株式数（千株）	17,671	17,323
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数（千株）	607,198	607,546

- (注) 4. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。
なお、「普通株式の期中平均株式数」は、従業員持株会信託口及び役員報酬信託口が所有する当社株式（前連結会計年度2,534千株、当連結会計年度2,047千株）を控除しております。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額（百万円）	67,289	70,095
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額（百万円）	67,289	70,095
普通株式の期中平均株式数（千株）	611,641	607,333

(重要な後発事象)

(無担保社債の発行)

当社は、平成30年5月29日を払込期日とする無担保社債を下記の条件にて発行しております。
なお、この発行は、募集総額等を定めた平成30年3月27日開催の取締役会の決議に基づくものであります。

(1) 第87回無担保社債 (10年債)

発行総額	100億円
発行価額	額面100円につき金100円
利率	年 0.315%
払込期日	平成30年5月29日
償還期日	平成40年5月29日
手取金の使途	社債償還資金及び借入金返済資金の一部に充当

(2) 第88回無担保社債 (20年債)

発行総額	100億円
発行価額	額面100円につき金100円
利率	年 0.723%
払込期日	平成30年5月29日
償還期日	平成50年5月28日
手取金の使途	社債償還資金及び借入金返済資金の一部に充当

(3) 財務上の特約 (担保提供制限)

当社は、上記社債の未償還残高が存する限り、上記社債発行後、当社が国内で既に発行した、または国内で今後発行する他の無担保社債 (但し担付切換条項付きのものを除く) のために担保権を設定する場合には、上記社債のためにも担保付社債信託法に基づき、同順位の担保権の設定を行います。したがって、上記社債は、上記社債の未償還残高が存する限り、上記社債発行後、当社が国内で既に発行した、または国内で今後発行する他の無担保社債以外の債権に対しては劣後することがあります。これに違背したときは、当社は上記社債について期限の利益を失います。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
		平成年月日					平成年月日
東京急行電鉄株	第60回無担保普通社債	16. 6. 18	10,000	10,000	2.70	—	31. 6. 18
	第62回無担保普通社債	18. 6. 13	—	—	2.76	—	33. 6. 11
	第63回無担保普通社債	20. 6. 6	15,000	(15,000) 15,000	2.16	—	30. 6. 6
	第64回無担保普通社債	20. 6. 6	15,000	15,000	2.70	—	35. 6. 6
	第69回無担保普通社債	21.10.27	10,000	10,000	1.70	—	31.10.25
	第71回無担保普通社債	22. 6. 11	20,000	20,000	1.47	—	32. 6. 11
	第73回無担保普通社債	22.12.16	10,000	10,000	1.422	—	32.12.16
	第74回無担保普通社債	23. 6. 16	10,000	10,000	1.882	—	38. 6. 16
	第75回無担保普通社債	24. 6. 7	10,000	10,000	0.982	—	34. 6. 7
	第76回無担保普通社債	24. 6. 7	10,000	10,000	1.563	—	39. 6. 7
	第77回無担保普通社債	25. 6. 12	10,000	10,000	0.987	—	35. 6. 12
	第78回無担保普通社債	25. 6. 12	10,000	10,000	1.528	—	40. 6. 12
	第79回無担保普通社債	26. 4. 28	10,000	10,000	0.709	—	36. 4. 26
	第80回無担保普通社債	26. 4. 28	10,000	10,000	1.211	—	41. 4. 27
	第81回無担保普通社債	27. 6. 3	10,000	10,000	0.535	—	37. 6. 3
	第82回無担保普通社債	27. 6. 3	10,000	10,000	1.307	—	45. 6. 3
	第83回無担保普通社債	28. 4. 22	10,000	10,000	0.459	—	43. 4. 22
	第84回無担保普通社債	28. 4. 22	10,000	10,000	0.662	—	48. 4. 22
	第85回無担保普通社債	28. 9. 26	10,000	10,000	0.761	—	48. 9. 26
	第86回無担保普通社債	28. 9. 26	10,000	10,000	0.951	—	58. 9. 26
	2019年2月15日 満期ユーロ円貨建普通社債	11. 2. 15	10,000	(10,000) 10,000	3.05	—	31. 2. 15
	2017年5月23日 満期ユーロ円貨建普通社債	19. 5. 23	(2,000) 2,000	—	2.00	—	29. 5. 23
	2017年5月29日 満期ユーロ円貨建普通社債	19. 5. 29	(1,000) 1,000	—	1.98	—	29. 5. 29
	2017年6月13日 満期ユーロ円貨建普通社債	19. 6. 13	(1,000) 1,000	—	1.98	—	29. 6. 13
	2017年6月14日 満期ユーロ円貨建普通社債	19. 6. 14	(2,000) 2,000	—	1.98	—	29. 6. 14
	2017年6月19日 満期ユーロ円貨建普通社債	19. 6. 19	(1,000) 1,000	—	2.08	—	29. 6. 19
	2017年12月20日 満期ユーロ円貨建普通社債	19.12.20	(1,000) 1,000	—	1.89	—	29.12.20
	2019年12月6日 満期ユーロ米ドル建普通社債	24.12.6	2,065 〔25,000千 米ドル〕	2,065 〔25,000千 米ドル〕	* 1	—	31.12.6

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
		平成年月日					平成年月日
	2019年12月6日 満期ユーロ米ドル建普通社債	24. 12. 6	1,073 〔13,000千 米ドル〕	1,073 〔13,000千 米ドル〕	2.02	—	31. 12. 6
	2021年3月26日 満期ユーロ米ドル建普通社債	26. 3. 26	5,090 〔50,000千 米ドル〕	5,090 〔50,000千 米ドル〕	* 2	—	33. 3. 26
合計	—	—	(8,000) 236,228	(25,000) 228,228	—	—	—

(注) 1. () 内で表示した金額は償還期限が一年以内の金額で連結貸借対照表には「1年内償還予定の社債」として計上しております。

2. [] 内で表示した金額は外貨建の金額であります。

3. 第62回無担保普通社債10,000百万円(償還期限 平成33年6月11日)については、社債の信託型デット・アサンプション契約(債務履行引受契約)を締結し、履行すべき債務を譲渡しているため、償還したものととして処理しております。

なお、社債権者に対する当社の社債償還義務は社債償還時まで存続するため、偶発債務として連結貸借対照表に注記しております。

4. * 1は3ヶ月米ドルLIBOR プラス 0.70%

5. * 2は3ヶ月米ドルLIBOR プラス 0.525%

6. 連結決算日後5年以内における償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内(百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
25,000	23,138	35,090	—	10,000

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	265,007	265,627	0.3	—
1年以内に返済予定の長期借入金	42,957	39,228	1.3	—
1年以内に返済予定のノンリコース長期借入金	500	500	0.8	—
1年以内に返済予定の所有権移転ファイナンス・リース債務	3,091	943	0.2	—
1年以内に返済予定の所有権移転外ファイナンス・リース債務	3,045	2,455	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	388,355	391,650	1.2	平成31年～平成47年
ノンリコース長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	31,350	44,560	0.6	平成31年～平成38年
所有権移転ファイナンス・リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	3,164	4,181	0.2	平成31年～平成57年
所有権移転外ファイナンス・リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	6,183	5,198	—	平成31年～平成43年
その他有利子負債				
1年以内に返済予定の預り保証金	424	20	3.7	—
1年以内に返済予定の未払金	228	268	0.3	—
未払金（1年以内に返済予定のものを除く。）	561	627	0.3	平成31年～平成34年
合計	744,868	755,261	—	—

- (注) 1. 平均利率については、借入金等の期中平均残高に対する加重平均利率を記載しております。
2. 所有権移転外ファイナンス・リース債務の平均利率については主にリース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で所有権移転外ファイナンス・リース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3. 長期借入金、ノンリコース債務、リース債務及びその他有利子負債（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	40,204	30,901	42,910	36,938
ノンリコース長期借入金	24,050	200	7,200	200
所有権移転ファイナンス・リース債務	948	887	1,568	337
所有権移転外ファイナンス・リース債務	1,453	1,000	655	410
未払金	268	214	120	23

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
営業収益(百万円)	283,583	565,304	841,552	1,138,612
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	29,296	52,859	86,985	96,069
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	20,342	36,959	62,388	70,095
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	33.50	60.86	102.73	115.42

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	33.50	27.36	41.87	12.69

(注) 当社は、平成29年8月1日付で株式併合(普通株式2株を1株に併合)を実施しており、当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算出しております。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,924	4,684
未収運賃	8,548	8,797
未収金	※3 22,960	※3 32,028
未収収益	3,519	3,772
有価証券	453	—
短期貸付金	7	4
分譲土地建物	28,208	※7 31,384
貯蔵品	4,384	4,601
前払費用	1,952	2,047
繰延税金資産	2,288	2,523
その他の流動資産	13,955	12,610
貸倒引当金	△15	△18
流動資産合計	88,190	102,438
固定資産		
鉄軌道事業固定資産		
有形固定資産	1,064,539	1,094,983
減価償却累計額	△506,142	△528,766
有形固定資産（純額）	558,396	566,217
無形固定資産	9,871	9,856
鉄軌道事業固定資産合計	※1 568,267	※1 576,073
不動産事業固定資産		
有形固定資産	667,441	683,478
減価償却累計額	△191,700	△194,322
有形固定資産（純額）	475,740	489,156
無形固定資産	4,590	4,749
不動産事業固定資産合計	※2 480,331	※2 493,905
その他事業固定資産		
有形固定資産	73,345	75,033
減価償却累計額	△28,763	△29,642
有形固定資産（純額）	44,582	45,390
無形固定資産	1,283	1,334
その他事業固定資産合計	45,865	46,725
各事業関連固定資産		
有形固定資産	49,467	49,669
減価償却累計額	△20,407	△20,822
有形固定資産（純額）	29,060	28,847
無形固定資産	1,047	3,005
各事業関連固定資産合計	30,108	31,853
建設仮勘定		
鉄軌道事業建設仮勘定	56,840	73,403
不動産事業建設仮勘定	19,937	53,970
その他事業建設仮勘定	55	345
各事業関連建設仮勘定	978	268
建設仮勘定合計	77,812	127,987

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	※6 39,937	※6 42,879
関係会社株式	※2 205,021	※2 186,739
その他の関係会社有価証券	39,938	42,752
長期貸付金	0	4
関係会社長期貸付金	36,080	47,675
長期前払費用	11,390	10,086
前払年金費用	11,137	9,787
差入保証金	6,193	8,649
その他の投資等	2,106	1,944
貸倒引当金	△122	△140
投資その他の資産合計	351,683	350,379
固定資産合計	1,554,069	1,626,925
資産合計	1,642,259	1,729,363
負債の部		
流動負債		
短期借入金	191,277	223,395
関係会社短期借入金	64,057	56,217
1年内返済予定の長期借入金	36,846	35,632
1年内償還予定の社債	8,000	25,000
リース債務	3,095	903
未払金	31,330	36,809
未払費用	2,753	2,816
未払消費税等	1,985	2,029
未払法人税等	4,126	12,930
預り連絡運賃	3,521	3,620
預り金	40,661	40,899
前受運賃	7,414	7,688
前受金	3,625	1,772
受託工事前受金	9,368	18,742
賞与引当金	4,438	4,464
資産除去債務	361	526
その他の流動負債	※4 4,525	※4 4,755
流動負債合計	417,388	478,205
固定負債		
社債	228,228	203,228
長期借入金	366,574	380,000
リース債務	2,525	3,623
繰延税金負債	7,046	6,359
退職給付引当金	2,732	5,256
株式給付引当金	—	62
債務保証損失引当金	2,317	2,896
資産除去債務	262	396
長期預り保証金	※4 87,373	※4 92,722
その他の固定負債	21,710	19,871
固定負債合計	718,769	714,417
特別法上の準備金		
特定都市鉄道整備準備金	※5 20,080	※5 17,570
特別法上の準備金合計	20,080	17,570
負債合計	1,156,238	1,210,192

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	121,724	121,724
資本剰余金		
資本準備金	92,754	92,754
その他資本剰余金	35,164	35,164
資本剰余金合計	127,919	127,919
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	1,467	1,386
繰越利益剰余金	254,901	286,987
利益剰余金合計	256,369	288,373
自己株式	△28,832	△28,229
株主資本合計	477,180	509,788
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,840	9,382
評価・換算差額等合計	8,840	9,382
純資産合計	486,021	519,170
負債純資産合計	1,642,259	1,729,363

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
鉄軌道事業営業利益		
営業収益		
旅客運輸収入	138,620	140,239
運輸雑収	14,199	14,631
鉄軌道事業営業収益合計	152,819	154,870
営業費		
運送費	74,658	74,902
一般管理費	13,190	14,087
諸税	8,262	8,256
減価償却費	34,374	33,015
鉄軌道事業営業費合計	130,486	130,261
鉄軌道事業営業利益	22,333	24,609
不動産事業営業利益		
営業収益		
不動産販売事業収入	13,930	20,286
不動産賃貸事業収入	78,783	75,066
不動産事業営業収益合計	92,714	95,353
営業費		
売上原価	6,937	10,227
販売費及び一般管理費	38,675	36,873
諸税	6,973	7,985
減価償却費	15,383	13,467
不動産事業営業費合計	67,969	68,554
不動産事業営業利益	24,744	26,799
その他事業営業利益		
営業収益		
その他事業収入	16,995	19,101
その他事業営業収益合計	16,995	19,101
営業費		
売上原価	3,401	5,159
販売費及び一般管理費	6,657	7,419
諸税	516	518
減価償却費	1,432	1,432
その他事業営業費合計	12,008	14,529
その他事業営業利益	4,986	4,572
全事業営業利益	52,064	55,981
営業外収益		
受取利息	209	195
受取配当金	2,947	6,060
受託工事事務費戻入	639	542
匿名組合投資利益	2,457	2,718
雑収入	3,143	4,095
営業外収益合計	※1 9,397	※1 13,612
営業外費用		
支払利息	6,118	5,726
社債利息	3,461	3,342
雑支出	2,593	2,734
営業外費用合計	12,172	11,803
経常利益	49,289	57,790

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
特別利益		
固定資産売却益	※2 1,512	※2 787
工事負担金等受入額	8,290	2,778
特定都市鉄道整備準備金取崩額	2,510	2,510
抱合せ株式消滅差益	3,459	—
その他	—	350
特別利益合計	15,773	6,426
特別損失		
固定資産圧縮損	6,276	2,375
関係会社整理損	—	※3 1,728
投資有価証券評価損	—	570
減損損失	※4 10	※4 650
その他	0	552
特別損失合計	6,288	5,877
税引前当期純利益	58,774	58,338
法人税、住民税及び事業税	10,391	16,520
法人税等調整額	△2,936	△1,160
法人税等合計	7,455	15,359
当期純利益	51,319	42,978

【営業費明細表】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)		当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)	
		金額 (百万円)		金額 (百万円)	
I 鉄軌道事業営業費	※ 1				
1. 運送費					
人件費		33,393		33,226	
経費		41,264		41,676	
計			74,658		74,902
2. 一般管理費					
人件費		7,864		7,743	
経費		5,325		6,343	
計			13,190		14,087
3. 諸税			8,262		8,256
4. 減価償却費		34,374		33,015	
鉄軌道事業営業費合計			130,486		130,261
II 不動産事業営業費	※ 2				
1. 土地建物原価			6,937		10,227
2. 販売費及び一般管理費					
人件費		7,748		7,579	
経費		30,926		29,293	
計			38,675		36,873
3. 諸税		6,973		7,985	
4. 減価償却費		15,383		13,467	
不動産事業営業費合計			67,969		68,554
III その他事業営業費	※ 3				
1. 売上原価			3,401		5,159
2. 販売費及び一般管理費					
人件費		1,611		1,871	
経費		5,046		5,548	
計			6,657		7,419
3. 諸税		516		518	
4. 減価償却費		1,432		1,432	
その他事業営業費合計			12,008		14,529
全事業営業費合計	※ 4		210,464		213,345

事業別営業費合計の100分の5を超える主な費用並びに営業費（全事業）に含まれている引当金繰入額は次のとおりであります。

(前事業年度)				(当事業年度)			
※1	「鉄軌道事業営業費」	運送営業費	百万円	※1	「鉄軌道事業営業費」	運送営業費	百万円
		給与	30,619			給与	30,782
		修繕費	9,034			修繕費	10,471
		外注委託料	7,692			外注委託料	8,644
		車両使用料	7,531			車両使用料	7,656
※2	「不動産事業営業費」	販売費及び一般管理費		※2	「不動産事業営業費」	販売費及び一般管理費	
		外注委託料	9,228			外注委託料	8,899
		不動産使用料	8,076			不動産使用料	8,398
		給与	5,450			給与	5,479
		水道光熱費	5,105			水道光熱費	4,657
※3	「その他事業営業費」	販売費及び一般管理費		※3	「その他事業営業費」	販売費及び一般管理費	
		外注委託料	2,322			外注委託料	2,544
		給与	1,148			給与	1,382
		不動産使用料	811			不動産使用料	868
※4	営業費（全事業）に含まれている引当金繰入額	賞与引当金繰入額	4,438	※4	営業費（全事業）に含まれている引当金繰入額	賞与引当金繰入額	4,464
		退職給付費用	4,886			退職給付費用	4,185
		(退職給付引当金繰入額)				(退職給付引当金繰入額)	

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
				固定資産 圧縮積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	121,724	92,754	35,163	127,918	1,558	214,601	216,160
当期変動額							
固定資産圧縮積立金の取崩					△91	91	—
剰余金の配当						△11,110	△11,110
当期純利益						51,319	51,319
自己株式の取得							
自己株式の処分			0	0			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	0	0	△91	40,300	40,208
当期末残高	121,724	92,754	35,164	127,919	1,467	254,901	256,369

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△17,200	448,603	7,743	7,743	456,346
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の取崩		—			—
剰余金の配当		△11,110			△11,110
当期純利益		51,319			51,319
自己株式の取得	△12,723	△12,723			△12,723
自己株式の処分	1,091	1,092			1,092
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			1,097	1,097	1,097
当期変動額合計	△11,631	28,577	1,097	1,097	29,674
当期末残高	△28,832	477,180	8,840	8,840	486,021

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					固定資産 圧縮積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	121,724	92,754	35,164	127,919	1,467	254,901	256,369
当期変動額							
固定資産圧縮積立金の取崩					△81	81	—
剰余金の配当						△10,973	△10,973
当期純利益						42,978	42,978
自己株式の取得							
自己株式の処分			0	0			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	0	0	△81	32,085	32,004
当期末残高	121,724	92,754	35,164	127,919	1,386	286,987	288,373

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△28,832	477,180	8,840	8,840	486,021
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の取崩		—			—
剰余金の配当		△10,973			△10,973
当期純利益		42,978			42,978
自己株式の取得	△583	△583			△583
自己株式の処分	1,186	1,186			1,186
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			541	541	541
当期変動額合計	603	32,607	541	541	33,149
当期末残高	△28,229	509,788	9,382	9,382	519,170

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

(2) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(3) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、匿名組合出資金については、匿名組合の損益のうち当社に帰属する持分相当損益を営業外損益に計上するとともに、投資有価証券等を加減する処理を行っております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 分譲土地建物

地区別総平均法による原価法(個別区画工事費及び一部点在地については個別法による原価法)

(2) 貯蔵品

移動平均法による原価法

(いずれも貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

但し、鉄軌道事業固定資産の構築物のうち、取替資産については取替法を採用しております。なお、一部の賃貸施設については、定額法を採用しております。また、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 2～50年

構築物 2～60年

車両 5～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

但し、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

① 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

② 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 繰延資産の処理方法

社債発行費等及び株式交付費は支出時に全額費用として処理しております。

5. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

使用人に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額基準により設定しております。

(3) 退職給付引当金

使用人の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を前払年金費用及び退職給付引当金として計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時の使用人の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により翌事業年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用は、その発生時の使用人の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により費用処理することとしております。

(4) 株式給付引当金

株式交付規程に基づく取締役および執行役員等に対する当社株式および当社株式の換価処分金相当額の金銭の交付及び給付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額を計上しております。

(5) 債務保証損失引当金

債務保証等に係る損失に備えるため、被保証者の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

7. 特別法上の準備金

特定都市鉄道整備準備金は、特定都市鉄道整備促進特別措置法第8条の規定により取り崩しております。

8. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を、金利通貨スワップについて一体処理（特例処理、振当処理）の要件を満たしている場合は一体処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：金利スワップ、金利通貨スワップ

ヘッジ対象：借入金、外貨建社債、外貨建借入金

(3) ヘッジ方針

当社は、取引の権限等を定めた基準を業務執行規程の中において設けており、この基準に基づき、金利変動リスク及び為替変動リスクをヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象について、それぞれの既に経過した期間についてキャッシュ・フロー変動額の比率で判定しております。

9. 鉄軌道業における工事負担金等の圧縮記帳処理

当社は鉄道業における連続立体交差等の高架化工事や踏切道路拡幅工事等を行うに当たり、地方公共団体等より工事費の一部として工事負担金等を受けております。これらの工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しております。

なお、損益計算書においては、工事負担金等受入額を特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を固定資産圧縮損として特別損失に計上しております。

また、工事負担金等を受け入れた工事費のうち、撤去済の仮設構造物等に係る部分については、鉄軌道事業営業費（固定資産除却費等）に計上しております。

10. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 少額減価償却資産の会計処理

取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、法人税法の規定に基づき、3年間で均等償却を行っております。

(2) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(3) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

当社は、当事業年度より、経営管理の観点から「その他事業」の区分を新設し、従来「不動産事業」に含めていた生活サービス事業、ホテル・リゾート事業に関わる事業を「その他事業」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、下表の通り、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

(単位：百万円)

	組替前	組替後	組替額
固定資産			
不動産事業固定資産			
有形固定資産	740,786	667,441	△73,345
減価償却累計額	△220,463	△191,700	28,763
有形固定資産（純額）	520,322	475,740	△44,582
無形固定資産	5,874	4,590	△1,283
不動産事業固定資産合計	526,197	480,331	△45,865
その他事業固定資産			
有形固定資産	—	73,345	73,345
減価償却累計額	—	△28,763	△28,763
有形固定資産（純額）	—	44,582	44,582
無形固定資産	—	1,283	1,283
その他事業固定資産合計	—	45,865	45,865
建設仮勘定			
不動産事業建設仮勘定	19,993	19,937	△55
その他事業建設仮勘定	—	55	55

(損益計算書関係)

1. 当社は、当事業年度より、経営管理の観点から「その他事業」の区分を新設し、従来「不動産事業」に含めていた生活サービス事業、ホテル・リゾート事業に関わる事業を「その他事業」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、下表の通り、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

(単位：百万円)

	組替前	組替後	組替額
不動産事業営業利益			
営業収益			
不動産販売事業収入	15,154	13,930	△1,224
不動産賃貸事業収入	94,554	78,783	△15,770
不動産事業営業収益合計	109,709	92,714	△16,995
営業費			
販売費及び一般管理費	48,734	38,675	△10,059
諸税	7,489	6,973	△516
減価償却費	16,816	15,383	△1,432
不動産事業営業費合計	79,978	67,969	△12,008
不動産事業営業利益	29,731	24,744	△4,986
その他事業営業利益			
営業収益			
その他事業収入	—	16,995	16,995
その他事業営業収益合計	—	16,995	16,995
営業費			
売上原価	—	3,401	3,401
販売費及び一般管理費	—	6,657	6,657
諸税	—	516	516
減価償却費	—	1,432	1,432
その他事業営業費合計	—	12,008	12,008
その他事業営業利益	—	4,986	4,986

2. 前事業年度において、「営業外費用」に独立掲記しておりました「貸倒引当金繰入額」は、重要性が乏しくなったため、当事業年度より「雑支出」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、当事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」に表示していた「貸倒引当金繰入額」1百万円、「雑支出」2,592百万円は、「雑支出」2,593百万円として組み替えております。

3. 前事業年度において、「特別損失」に独立掲記しておりました「固定資産売却損」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、当事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「特別損失」に表示していた「固定資産売却損」0百万円、「その他」0百万円は、「その他」0百万円として組み替えております。

(営業費明細表関係)

当社は、当事業年度より、経営管理の観点から「その他事業」の区分を新設し、従来「不動産事業」に含めていた生活サービス事業、ホテル・リゾート事業に関わる事業を「その他事業」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、下表の通り、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

(単位：百万円)

	組替前	組替後	組替額
II 不動産事業営業費			
2. 販売費及び一般管理費			
人件費	9,359	7,748	△1,611
経費	39,374	30,926	△8,447
計	48,734	38,675	△10,059
3. 諸税	7,489	6,973	△516
4. 減価償却費	16,816	15,383	△1,432
不動産事業営業費合計	79,978	67,969	△12,008
III その他事業営業費			
1. 売上原価	—	3,401	3,401
2. 販売費及び一般管理費			
人件費	—	1,611	1,611
経費	—	5,046	5,046
計		6,657	6,657
3. 諸税	—	516	516
4. 減価償却費	—	1,432	1,432
その他事業営業費合計	—	12,008	12,008

(追加情報)

(従業員持株E S O P信託について)

当社は、平成27年9月に、中長期的な企業価値向上と福利厚生の拡充を目的とした従業員インセンティブ・プラン「従業員持株E S O P信託」を導入しております。概要については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (追加情報)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(役員報酬B I P信託について)

当社は、平成29年6月29日開催の第148期定時株主総会決議に基づき、当社取締役及び執行役員等(社外取締役及び海外居住者を除きます。)に対し、中長期的な業績向上及び株主価値の最大化への貢献意識を一層高めることを目的として、株式報酬制度を導入しております。本制度を導入するにあたり、「役員報酬B I P信託」と称される仕組みを採用しております。概要については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (追加情報)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

1. 担保に供している資産及び担保付債務

(担保付債務には1年以内返済額を含みます。)

(1) 鉄軌道財団

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
鉄軌道事業固定資産※1	466,122百万円	473,421百万円

上記資産を担保としている債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
長期借入金	50,587百万円	40,450百万円

(2) その他

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
不動産事業固定資産※2	3,887百万円	3,909百万円
関係会社株式(注)※2	2,703	357
計	6,590	4,266

上記資産を担保としている債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
長期借入金	318百万円	230百万円
計	318	230

(注) 関係会社の長期借入金13,710百万円(前事業年度13,800百万円)を担保するため、物上保証に供しております。

2. 鉄軌道事業固定資産の取得原価から直接減額された工事負担金等累計額

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
	198,334百万円	200,405百万円

3. ※3 未収金中には販売土地建物代を含んでおります。

4. 偶発債務

(1) 下記の会社等に対し、債務の保証を行っております。

前事業年度 (平成29年3月31日)		当事業年度 (平成30年3月31日)	
銀行借入		銀行借入	
東急ファイナンスアンドアカウンティング(株)	32,161百万円	(株)東急百貨店	10,000百万円
(株)東急百貨店	10,000	東急ファイナンスアンドアカウンティング(株)	9,993
(株)東急ストア	6,000	ベカメックス東急有限会社	3,792
伊豆急行(株)	5,614	サハ東急コーポレーション(株)	1,878
ベカメックス東急有限会社	3,870	伊豆急行(株)	1,649
サハ東急コーポレーション(株)	1,712	社員住宅融資	24
社員住宅融資	30		
小計	59,389	小計	27,338
金銭返還債務		金銭返還債務	
東急ウェルネス(株)	2,599	東急ウェルネス(株)	2,611
(株)東急パワーサプライ	0		
合計	61,989	合計	29,949

(2) 社債の債務履行引受契約に係る偶発債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
第62回無担保普通社債	10,000百万円	10,000百万円

5. 関係会社にかかる注記

区分掲記されたもの以外で、資産及び負債科目に含まれる関係会社に対するものは、それぞれ以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産	25,251百万円	25,165百万円
負債		
預り保証金※4	14,205	14,090
その他	33,208	35,476

6. ※5 特定都市鉄道整備準備金のうち一年内に使用されると認められるもの

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
	2,510百万円	2,510百万円

7. ※6 有価証券の貸付

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券	980百万円	1,026百万円

8. ※7 保有目的の変更による固定資産から分譲土地建物への振替額

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
	—	1,842百万円

(損益計算書関係)

1. ※1 関係会社との取引に係るものが以下のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
受取配当金	2,239百万円	5,285百万円
匿名組合分配金	2,453	2,712
その他	2,221	1,852

2. ※2 固定資産売却益

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
世田谷区玉川一丁目 (一部) (土地・建物等)	1,286百万円	米国ハワイ州 (土地・建物及び構築物等) 654百万円
渋谷区渋谷二丁目 (土地)	203	横浜市港北区日吉二丁目 (土地) 75
その他	22	その他 57
計	1,512	計 787

(注) 前事業年度における世田谷区玉川一丁目 (一部) (土地・建物等) は関係会社との取引であります。

3. ※3 関係会社整理損

前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
—————	連結子会社であるマウナ ラニ リゾ ート（オペレーション）(株)およびマ ウナ ラニ リアルティ(株)において、 解散を決議したことに伴い、発生し たものであります。

4. ※4 減損損失

減損損失の算定にあたっては、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシ
ュ・フローを生み出す最小の単位に拠って資産のグループ化を行いました。その結果、継続的な地価の下落及び
賃貸不動産に係る賃料水準の低下などにより、収益性が著しく低下した固定資産グループ等について帳簿価額を
回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

地域	主な用途	種類	セグメント	減損損失 (百万円)
中部北陸圏	不動産販売 計1件	土地等	不動産事業	10

地域ごとの減損損失の内訳

地域	土地 (百万円)	建物 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
中部北陸圏	9	—	1	10

当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

地域	主な用途	種類	セグメント	減損損失 (百万円)
首都圏	賃貸、遊休資産 計2件	土地及び建物等	鉄軌道事業 不動産事業	650

地域ごとの減損損失の内訳

地域	土地 (百万円)	建物 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
首都圏	158	467	24	650

なお、当社資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しております。

回収可能価額を正味売却価額により測定している場合には、土地等の時価、又は収益還元法によって評価しており
ます。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
自己株式				
普通株式 (注)	20,909	15,218	1,296	34,832
合計	20,909	15,218	1,296	34,832

(注) (1) 当事業年度期首の株式数には、従業員持株会信託口が保有する当社株式5,691千株を含めて記載しております。

(2) 当事業年度末の株式数には、従業員持株会信託口が保有する当社株式4,404千株を含めて記載しております。

(3) 自己株式の株式数の増加の内訳は、以下のとおりであります。

- ① 取締役会決議に基づく自己株式の市場買付による増加 11,744千株
- ② 取締役会決議に基づく子会社からの自己株式の取得による増加 3,381千株
- ③ 単元未満株式の買取による増加 93千株

(4) 自己株式の株式数の減少の内訳は、以下のとおりであります。

- ① 従業員持株会信託口における株式売却による減少 1,287千株
- ② 単元未満株式の買増請求による減少 9千株

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
自己株式				
普通株式 (注)	34,832	376	18,140	17,068
合計	34,832	376	18,140	17,068

(注) (1) 当社は、平成29年8月1日付で株式併合(普通株式2株を1株に併合)を実施しております。

(2) 当事業年度期末株式数には、従業員持株会信託口及び役員報酬信託口が保有する当社株式1,825千株(株式併合後)を含めて記載しております。

(3) 当事業年度期首株式数には、従業員持株会信託口が保有する当社株式4,404千株(株式併合前)を含めて記載しております。

(4) 自己株式の株式数の増加の内訳は、以下のとおりであります。

- ① 役員報酬信託口における市場買付による増加(株式併合後) 325千株
- ② 単元未満株式の買取による増加 46千株

(注) 単元未満株式の買取による増加の内訳
株式併合前 39千株 株式併合後 6千株

- ③ 株式併合による端株の買取による増加(株式併合後) 4千株

(5) 自己株式の株式数の減少の内訳は、以下のとおりであります。

- ① 株式併合による減少 17,161千株
- ② 従業員持株会信託口における株式売却による減少 973千株

(注) 従業員持株会信託口における株式売却による減少の内訳
株式併合前 545千株 株式併合後 428千株

- ③ 単元未満株式の買増請求による減少 5千株

(注) 単元未満株式の買増請求による減少の内訳
株式併合前 3千株 株式併合後 1千株

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式
前事業年度(平成29年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
子会社株式	9,149	12,496	3,346
関連会社株式	24,226	72,771	48,545
合計	33,376	85,268	51,891

当事業年度(平成30年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
子会社株式	9,149	14,979	5,829
関連会社株式	24,226	93,880	69,654
合計	33,376	108,860	75,483

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位:百万円)

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	166,330	146,178
関連会社株式	5,314	7,184

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	23,006百万円	24,322百万円
有価証券	20,544	20,791
減損損失	11,386	10,902
固定資産	4,037	4,037
賞与引当金	1,369	1,366
減価償却費	1,388	1,307
その他	8,267	9,314
繰延税金資産小計	70,000	72,043
評価性引当額	△36,719	△37,216
繰延税金資産合計	33,280	34,827
繰延税金負債		
退職給付信託設定益	△13,511	△13,494
固定資産	△12,930	△12,930
会社分割に伴う関係会社株式差額	△7,104	△7,113
その他有価証券評価差額金	△3,901	△4,140
その他	△590	△983
繰延税金負債合計	△38,038	△38,663
繰延税金資産(負債△)純額	△4,757	△3,835

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因の主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
評価性引当の増減額	△0.2	0.9
受取配当金等益金不算入項目	△0.8	△2.8
交際費等損金不算入項目	0.2	0.2
合併に伴う関係会社の繰越欠損金承継等による影響額	△14.4	—
合併に伴う抱合株式消滅損益	△1.8	—
その他	△1.2	△2.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	12.7	26.3

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	800円10銭	854円18銭
1株当たり当期純利益金額	83円80銭	70円74銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
2. 当社は、平成29年8月1日付で株式併合（普通株式2株を1株に併合）を実施しており、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。
3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。
なお、「普通株式の自己株式数」は、従業員持株会信託口及び役員報酬信託口が所有する当社株式（前事業年度2,202千株、当事業年度1,825千株）を含めております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
貸借対照表の純資産の部の合計額（百万円）	486,021	519,170
普通株式に係る純資産額（百万円）	486,021	519,170
普通株式の発行済株式数（千株）	624,869	624,869
普通株式の自己株式数（千株）	17,416	17,068
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数（千株）	607,453	607,801

- (注) 4. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。
なお、「普通株式の期中平均株式数」は、従業員持株会信託口及び役員報酬信託口が所有する当社株式（前事業年度2,534千株、当事業年度2,047千株）を控除しております。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益金額（百万円）	51,319	42,978
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る当期純利益金額（百万円）	51,319	42,978
普通株式の期中平均株式数（千株）	612,417	607,589

(重要な後発事象)

(無担保社債の発行)

当社は、平成30年5月29日を払込期日とする無担保社債を発行いたしました。概要については「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項（重要な後発事象）」に記載しております

④ 【附属明細表】
 【有価証券明細表】
 【株式】

		銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	第一生命ホールディングス(株)	3,734,400	7,254
		東急リアル・エステート投資法人	49,000	7,188
		東映(株)	600,000	6,948
		東日本旅客鉄道(株)	274,800	2,710
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	3,479,000	2,424
		日本航空(株)	529,400	2,266
		横浜高速鉄道(株)	45,000	2,250
		京王電鉄(株)	481,080	2,186
		京浜急行電鉄(株)	1,113,445	2,059
		小田急電鉄(株)	955,055	2,056
		ANAホールディングス(株)	400,000	1,647
		その他 (54銘柄)	4,247,028	3,797
		計	15,908,208	42,789

【その他】

		種類及び銘柄	投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	匿名組合出資金等 3 銘柄	—	89
		計	—	89

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残 高 (百万円)
有形固定資産							
土地	469,993	22,767	1,120 (158)	491,640	-	-	491,640
建物	585,668	17,410	12,447 (467)	590,631	300,728	18,479	289,902
構築物	596,945	14,068	3,600 (4)	607,413	319,134	14,021	288,279
車両	111,903	11,307	2,538	120,672	84,673	6,504	35,999
機械装置	54,925	4,296	1,552 (5)	57,669	42,562	3,072	15,107
工具・器具・備品	34,838	3,086	3,269 (9)	34,655	26,299	3,208	8,355
リース資産	501	83	293	292	150	35	141
建設仮勘定	77,812	137,795	87,620	127,987	-	-	127,987
その他	17	172	-	190	3	3	186
有形固定資産計	1,932,606	210,988	112,442 (645)	2,031,153	773,549	45,327	1,257,599
無形固定資産							
借地権	1,764	28	116	1,676	-	-	1,676
地上権	10,787	-	43	10,743	-	-	10,743
ソフトウェア	7,602	3,865	648 (0)	10,819	4,972	1,320	5,847
無形リース資産	252	-	-	252	182	50	69
その他	1,067	201	10	1,258	649	51	608
無形固定資産計	21,473	4,095	819 (0)	24,750	5,804	1,422	18,945
長期前払費用	19,534	1,582	1,754 (4)	19,362	9,275	1,169	10,086

(注) 1. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 当期増加額のうち主なものは、次の通りであります。

土地	青山オーバルビル	9,235百万円
建物	鉄道駅舎改修	2,787
建設仮勘定	渋谷駅南街区プロジェクト	14,288
	渋谷駅街区開発計画	9,804
	南町田拠点創出まちづくりプロジェクト	8,635

3. 当期増加額及び当期減少額は、それぞれ受け入れた工事負担金等2,375百万円、276百万円を直接減額して表示しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	137	21	0	—	158
賞与引当金	4,438	4,464	4,438	—	4,464
株式給付引当金	—	62	—	—	62
債務保証損失引当金	2,317	579	—	—	2,896
特定都市鉄道整備準備金	20,080	—	2,510	—	17,570

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	無料
単元未満株式の買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	_____
買増手数料	無料
受付停止期間	当社基準日及び中間配当基準日の10営業日前から基準日及び中間配当基準日に至るまで及びその他会社が定める一定期間
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載アドレス https://www.tokyu.co.jp/koukoku/index.html

3月31日及び9月30日（以下、この項目において「基準日」という）の最終の株主名簿に記載された株主に対し、次の通り株主優待を送付いたします。

○株主優待券

内容	200株以上 500株未満 (枚数)	500株以上 (枚数)
東急百貨店株主お買物優待券(10%割引)	5枚	10枚
東急ストア株主お買物優待券(50円割引)	20枚	40枚
東急ホテルズ 株主ご宿泊優待券(宿泊基本料金30%割引)	4枚	8枚
株主ご飲食優待券(ご飲食代10%割引)	2枚	4枚
東急病院人間ドック株主ご優待券 (基本料金10%割引)	—	1枚
Bunkamura ザ・ミュージアム & 五島美術館 株主優待共通ご招待券	—	4枚

○株主優待乗車証

株式数	内容	枚数
200株以上 500株未満	電車・東急バス全線きっぷ(1枚1乗車)	2枚
500株以上 1,500株未満		5枚
1,500株以上 2,500株未満		10枚
2,500株以上 5,000株未満		20枚
5,000株以上 9,500株未満		40枚
9,500株以上 12,000株未満		80枚
12,000株以上 14,000株未満	電車全線パス※1 電車・東急バス全線きっぷ(1枚1乗車)	1枚 10枚
14,000株以上 28,500株未満	電車全線パス※1 電車・東急バス全線きっぷ(1枚1乗車)	1枚 30枚
28,500株以上	電車・東急バス全線パス※2 電車・東急バス全線きっぷ(1枚1乗車)	1枚 30枚

※1 電車全線パスは、事前の申請により東急ホテルズツインルーム宿泊券（エクセルホテル東急・東急REIホテルブランド）に変更可能

※2 電車・東急バス全線パスは、事前の申請により東急ホテルズツインルーム宿泊券（東急ホテル・エクセルホテル東急・東急REIホテルブランド）に変更可能

○長期継続保有株主

直近7回の基準日における 最少株式数	枚数	追加枚数
1,500株以上 5,000株未満	電車・東急バス全線きっぷ(1枚1乗車)	5枚
5,000株以上		10枚

○家族合算株主優待制度

基準日時点で12,000株以上保有の株主は、次回基準日に2親等までの親族の保有株式を合算して28,500株以上に達することを事前に申請した場合、次回基準日以降、条件を満たし続ける限りにおいて、28,500株保有相当の株主優待を送付いたします。

○有効期限

基準日	3月31日現在の株主	9月30日現在の株主
有効期限	11月30日まで	5月31日まで

株主に対する特典

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第148期）（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書

平成29年6月29日関東財務局長に提出

(3) 臨時報告書

平成29年7月4日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。

(4) 四半期報告書及び確認書

第149期第1四半期（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）平成29年8月8日関東財務局長に提出

(5) 四半期報告書及び確認書

第149期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）平成29年11月10日関東財務局長に提出

(6) 臨時報告書

平成30年2月8日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（提出会社の代表取締役の異動）の規定に基づく臨時報告書であります。

(7) 四半期報告書及び確認書

第149期第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）平成30年2月8日関東財務局長に提出

(8) 発行登録書及びその添付書類

平成30年3月2日関東財務局長に提出

(9) 発行登録追補書類及びその添付書類

平成30年5月22日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月28日

東京急行電鉄株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉山 義勝 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 成田 智弘 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 照内 貴 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東京急行電鉄株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京急行電鉄株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、東京急行電鉄株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、東京急行電鉄株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月28日

東京急行電鉄株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉山 義勝 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 成田 智弘 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 照内 貴 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東京急行電鉄株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第149期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京急行電鉄株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。